

MUTOH

取扱説明書

**OPERATION
MANUAL**

Layout and Print ツール 2

ご使用前に必ずお読みください

目次

目次	2
1 はじめに	4
2 動作環境	7
2.1 対応機種	7
2.2 印刷可能なメディアサイズ	8
2.3 対応 OS	9
3 取扱可能な画像フォーマット	10
3.1 一般的な画像	10
3.2 特殊な画像	11
4 プリンタの設定と印刷方法について	12
4.1 印刷面が平坦でない場合の印刷	13
4.2 マルチレイヤー(重ね)印刷について(UV フラットベッド)	14
4.3 ホワイト、バーニッシュの高密度印刷について	15
4.4 ホワイト、バーニッシュ印刷について	16
5 操作画面について	17
5.1 レイアウト編集時の画像と印刷の向き	18
6 基本操作方法	20
6.1 初回起動	20
6.2 メディアサイズ設定	21
6.3 画像配置設定	22
6.4 レイヤー印刷	24
6.4.1 複数レイヤー印刷	24
6.4.2 1レイヤー印刷	34
7 機能説明	40
7.1 メイン画面	40
7.2 印刷領域	42
7.3 補足情報	42
7.4 メディア選択	43
7.5 編集領域の拡大縮小	44
7.6 画像の挿入	45
7.7 画像の拡大縮小、移動	46
7.8 画像の編集メニュー	47
7.9 プレビューモード・編集モードの切り替え	48
7.10 画像の配置	49
7.11 画像とテキストの切り替え	51
7.12 テキストの挿入	52
7.13 ルーラーと補助線	58
7.14 画像の中の一部の色を透明にする	63
7.15 画像のトリミング	66
7.16 印刷設定	69

7.17	印刷	73
7.18	UV フラットベッド印刷	73
7.19	ロール印刷	74
7.20	印刷補正	75
7.21	ファイルの保存と読み込み	78
7.22	言語切替	79
7.23	編集領域設定	80
7.24	背景色一時変更機能	87
7.25	メディアプロファイルの追加	88
7.26	プリンタ選択	89
7.27	アウトプットモード設定	90
7.28	キーボードショートカット	91
7.29	ロータリーユニット印刷	92
7.30	初期レイアウトに戻す	96
7.31	データのコピーと貼り付け	96
7.32	Undo/Redo	99
7.33	テスト印刷	100
7.33.1	インク濃度	100
7.34	バリアブル印刷	102
7.35	バージョン表示	110
8	ライセンス	110

1 はじめに

本文書では簡易印刷用アプリケーション Layout and Print ツール 2 (以下、Layout ツール 2) の操作方法についてご説明いたします。

Layout ツール 2 には以下のような特徴があります。

- プリンタテーブル上に設定したメディアに合わせ簡単に画像の印刷が行えます。
- ホワイト、カラー、バーニッシュを自由に組み合わせたマルチレイヤー印刷が行えます。(*1)
- ツール「ValueJet Layer Editor」と組み合わせることでシングルレイヤー印刷も可能です。

プリンタ本体の取り扱い方法や、インクの取り扱いについては、プリンタのマニュアルをご参照ください。

尚、名称、デザインおよび仕様については予告なく変更になる可能性があります。

本書に記載されている Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

*1 バーニッシュは UV インクの機種でのみ利用できます。



ValueJet Layer Editor と、Layout and Print Tool 2 の使い分け

対応プリンタで印刷を行う場合、Layout and Print Tool 2 をご利用ください。
CDROM に同梱されている ValueJet Layer Editor とは以下のような違いがあります。



印刷可能な画像の種類については「3 取扱い可能な画像フォーマット」を参照してください。
レイヤー印刷については、「4. 印刷方法について」を参照してください。

ValueJet Layer Editor については、“ValueJet Layer Editor 取扱説明書”をご覧ください。

UV フラットベッド

	Layout and Print Tool 2 	ValueJet Layer Editor 
ソフトウェアの目的	画像をレイヤー印刷します。 15 レイヤーまでのレイアウトの編集と保存が可能です。	プリンタドライバからの出力を受信します。 受信した印刷データを組み合わせ、レイヤー印刷を行います。 印刷を行うには Layout and Print Tool2 や、その他の印刷用アプリケーションが必要です。
主な活用方法	少量生産や、印刷毎に文字入れなどの追加作業を行う印刷に向いています。 大量生産では ValueJet Layer Editor の利用をお勧めします。	プリンタ用のデータ形式で印刷データを保存している為に印刷開始までが早く、繰り返し印刷を効率的に行えます。
画像 (PNG/TIFF 等) を印刷	○	×
マルチレイヤー印刷 (1層ずつ重ねて印刷)	○	○
シングルレイヤー印刷 (2~3 レイヤー同時印刷)	△ * (* ValueJet Layer Editor を経由して印刷を行います)	○
出力済みの印刷データに手を加える	×	○ (印刷スピード変更、吸着強度変更など)

ロールプリンタ、ハイブリットプリンタ

	Layout and Print Tool 2	ValueJet Layer Editor
		
ソフトウェアの目的	画像をレイヤー印刷します。 カラーとホワイトデータの編集と保存が可能です。	プリンタドライバからの出力を受信します。 受信した印刷データを組み合わせ、シングルレイヤー印刷を行います。 印刷を行うには Layout and Print Tool2 や、その他の印刷用アプリケーションが必要です。
主な活用方法	少量生産に向いています。 大量生産では ValueJet Layer Editor の利用をお勧めします。	プリンタ用のデータ形式で印刷データを保存している為に印刷開始までが早く、繰り返し印刷を効率的に行えます。
画像 (PNG/TIFF 等) を印刷	○	×
シングルレイヤー印刷 (2 レイヤー同時印刷)	△ * (* ValueJet Layer Editor を経由して印刷を行います)	○
出力済みの印刷データに手を加える	×	○ (印刷スピード変更、 吸着強度変更など)

注 記

広い印刷面積を扱う場合、

Layout and Print Tool 2 又は Windows ドライバ → ValueJet Layer Editor → プリンタの経路で印刷する時に LayerEditor に蓄積し終えるまでに時間がかかり、すぐに印刷作業に入れない事があります。

このような場合は事前に作業工程の組み立てを行い、効率よく印刷できるようにしてください。

- ・事前に LayerEditor にデータを蓄積しておく。
- ・レイヤー印刷を行わない場合は直接プリンタに出力する。

同じデータを繰り返し印刷する場合は、LayerEditor を利用した方が効率的です。

本バージョンでは VJ-628, XJP-1641SR, XPJ-1682SR では LayerEditor 機能は利用できません。

2 動作環境

本文書に対応する Layout ツール 2 のバージョンは [Ver.1.8.7](#) 以降です。

Layout ツール 2 をご利用になる際には、対応機種 of Windows ドライバを前に導入済みであることが必要です。

2.1 対応機種

対応する機種と Windows ドライバのバージョンは以下の通りです。
Layout ツール 2 の使用環境は、対応ドライバの推奨環境に準じます。

機種	プリンタタイプ	Windows ドライバ バージョン	ValueJet Layer Editor
VJ-626UF	UV フラットベッド機	1.02 以降	4.1.0 以降
VJ-426UF(*1)		1.01 以降	1.0.0 以降
XPJ-461UF		0.02 以降	5.0.0 以降
XPJ-661UF		0.01 以降	5.0.1 以降
VJ-628	ロール機 (ロールメディア搬送タイプ)	1.05 以降	N/A
VJ-628MP	ロール機 (ロールメディア搬送タイプ)	1.00 以降	4.4.0 以降
VJ-1627MH	ハイブリット機 (ロールメディア、リジットメディア両対応タイプ)	1.00 以降	4.8.0 以降
XPJ-1641SR	ロール機 (ロールメディア搬送タイプ)	1.00 以降	N/A
XPJ-1682SR	ロール機 (ロールメディア搬送タイプ)	1.00 以降	N/A

注 記

マニュアル上の“UV フラットベッド”や“ロール”、又は機種名の記載にご注意ください。
対応するプリンタに応じてメニューの一部や機能が切り替わります。
ハイブリット機は、ロール機の機能を参照してください。

対象プリンタのドライバ上で4色に設定した場合、又はその機種で選択できない色に関するメニューは、操作できない状態になります。

*1 本バージョンでは VJ-426UF ではバーニッシュの光沢印刷をサポートしていません。

2.2 印刷可能なメディアサイズ

対応するメディアの種類は、以下の通りです。

機種名	プリセットされているサイズ	Custom Size (mm)	
		幅	高さ
VJ-426UF	A3 フルサイズ	プリセットと同じ	
VJ-626UF	A2 フルサイズ, A3 フルサイズ		
VJ-626UF ロータリーユニット	-	360	405 (余白なし)
XPJ-461UF	A3 フルサイズ (余白なし)	プリセットと同じ	
VJ-626UF	A2 フルサイズ, A3 フルサイズ		
VJ-626UF ロータリーユニット	-	360	405 (余白なし)
VJ-628	A1 フルサイズ (余白なし)	620	3200 *1
VJ-628MP	A1 フルサイズ (余白なし)	620	3200 *1
VJ-1627MH	A0Plus フルサイズ	1615	3200 *1
XPJ-1641SR XPJ-1682SR	A0Plus フルサイズ	1615	3200 *1

メディアサイズ

プリセットされているメディア		サイズ (mm)	
表記	定型	幅	高さ
A1 フルサイズ	A1	594	841
A2 フルサイズ	A2	483	594
A3 フルサイズ	A3 ノビ	483	329
A0Plus フルサイズ	A0Plus	1240	841
Custom Size	-	30 - 各機種の最大サイズ	30 - 各機種の最大サイズ

注 記

- *1 対象機種の印刷可能な最大長(高さ方向)ではありません。
これ以上の高さ方向を一度に作画する為には市販 RIP をご使用ください。

2.3 対応 OS

対応している Windows のバージョンは以下の通りです。サービスパックなどは最新を適用してください。

Windows 7	Service Pack 1以降 [32bit/64bit]
Windows 8／8.1	[32bit/64bit]
Windows 10	[32bit/64bit]

対応言語は以下の通りです。

日本語
英語

注 記

OS毎に以下の制限事項があります。

×＝未対応、△＝制限あり、○＝制限なし

	詳細			
	7	8.1	10	
PostScript フォント	×	○	○	詳細は「7-12 テキストの挿入」を参照してください。
PDF 画像ファイル	×	△	○	詳細は「3-2 特殊な画像」を参照してください。

3 取扱可能な画像フォーマット

3.1 一般的な画像

貼り付けることができる画像フォーマットは以下の通りです。
これらは画面右側のフォルダツリーと、プレビュー画面に表示されます。

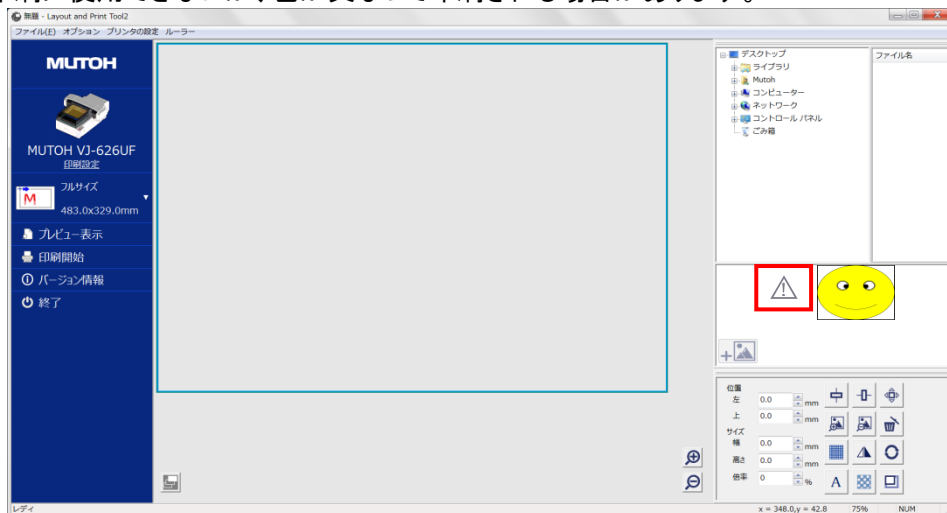
PNG (.png) *1,*2
ビットマップ (.bmp)
JPEG (.jpg) *3
TIFF (.tif) *2,*3

注 記

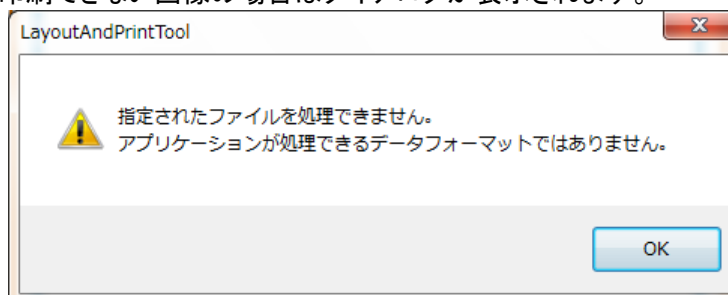
- カラーデータは 24bit RGB カラーモデルでご利用ください。
- *1 Layout ツール 2 の推奨フォーマットです。
- *2 カラーデータの他に透過データ(α チャンネルデータ)が指定できます。
- *3 CMYK カラーモデルのデータは正しく取り扱う事ができません。

画像のプレビューに右のマークが表示された画像フォーマットには
正式対応しておりません。

印刷に使用できないか、色が異なって印刷される場合があります。



明らかに印刷できない画像の場合はダイアログが表示されます。



この場合は PNG フォーマットに変換した上でご利用ください。

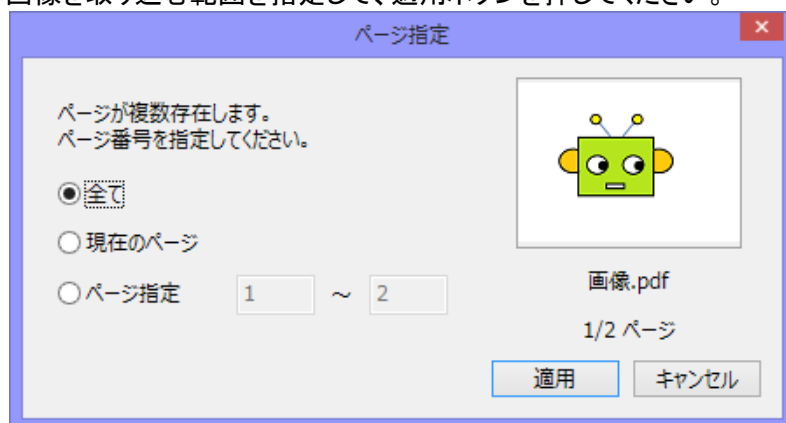
3.2 特殊な画像

Windows8.1/Windows10 では、ドラッグアンドドロップ操作により以下のフォーマットデータを貼り付けることができます。

PDF (.pdf)

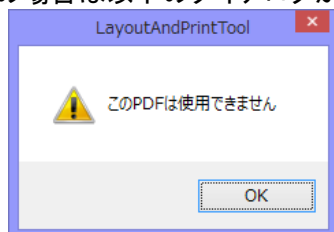
これらは画面右側のフォルダツリーと、プレビュー画面に表示されません。Windows のエクスプローラから操作してください。

複数のページが含まれる場合は以下の選択ダイアログが表示されます。
画像を取り込む範囲を指定して、適用ボタンを押してください。



注 記

- **Windows 8.1** ではフォントを含む PDF を扱う事ができません。
その場合は以下のダイアログが表示されます。



- 1ページ目に取り込みができないページがあった場合は上記のダイアログが表示されますが、取り込み開始後に取り扱う事ができないページがあった場合は該当ページの処理がスキップされます。
- 多数のページを取り込み指定した場合は以下にご注意ください。誤ってマニュアルなどの文書 PDF を取り込まないようにしてください。
 - 画像の取り込みが終わるまでは中断操作ができません。
 - メモリ不足で取り込みがエラーになる可能性があります。
- PDF を画像に変換する際に、画像の解像度が低下する場合があります。
PDF 変換前の画像が存在する場合は元の画像をご利用ください。
- カラープロファイルなどの埋め込みデータは使用されません。

4 プリンタの設定と印刷方法について

本アプリケーションはカラーモード「カラー」、「ホワイト」、「バーニッシュ」を選択し印刷がおこなえます。カラーモードを組み合わせることで様々なレイヤー印刷がおこなえます。目的に応じて適切な印刷方法をお選びください。

カラー印刷	カラーイメージの印刷に使用します。
ホワイト印刷	濃色の素材へのモノトーン印刷や、カラー印刷の下地、表裏2つのカラー層の間に印刷し下地として使用します。
バーニッシュ印刷	「カラー」、「ホワイト」と併用し、光沢感、上質な触感を提供します。厚盛り印刷にも使用できます。 (UV フラットベッド)

本項ではプリンタ本体の設定に関わる印刷手法について解説します。

注 記

UV 印刷についての補足説明 (UV フラットベッド)

- UV インクの取扱いについては、「UV プリンタ取扱注意シート」をお読みください。
- UV 印刷については、プリンタの取り扱い説明書もご参照ください。
- 未硬化のインクに触らないように十分に注意してください。硬化が十分でない場合は、プリンタの UV スキャン機能で追加照射を行ってください。
- 通常の印刷では変形しないメディアでも、レイヤー印刷を行うと変形する場合があります。
- マルチレイヤープリントで生じたインクの厚みや変形部分を避ける為、手動、或いは自動調整されると UV ランプとの距離が空き、UV の照射が十分でなくなる可能性があります。
- マルチレイヤー印刷で大きな凹凸が生じた時、UV ランプとメディア面との距離が生じます。この時、凹面部分に印刷を行うと硬化しにくくなります。印刷データを工夫するなどして防止してください。

注 記

UV フラットベッド

- Layout ツール 2 ではレイヤー数を多く設定できるようになっておりますが、厚みのある構造物の制作を保証するものではありません。

4.1 印刷面が平坦でない場合の印刷

メディアに凹凸があり、プリンタヘッドと印刷面の距離が離れてしまう印刷箇所がある場合、インクが霧状に広がりきれいに印刷できません。

このような場合は、以下の設定をお試しください。

注 記

- 適切な距離で印刷した結果と同等の作画結果を保証するものではありません。

A) プリンタ本体のパネル設定の「Low Speed」を使用する。(UV フラットベッド)

パネルメニュー

Menu	メニュー1:	セッテイ>
	↓	
	セット 1:	ユーザーティギ>
	↓	
	ユーザー:	Type1~10
	↓	
	* * >6:	Low Speed
	Low Speed:	25% or 50%

注 記

- プリントヘッドのスピードを遅くし、インクの飛び散りを抑えます。そのため、印刷完了までの時間が長くなります。
- XPJ-461UF/XPJ-661UF では「低速印刷」を使用します。

B) Layout ツール 2 の印刷設定画面で“ヘッドギャップ設定”を広いにする

大きなドットサイズで印刷し、霧状になり難くします。

注 記

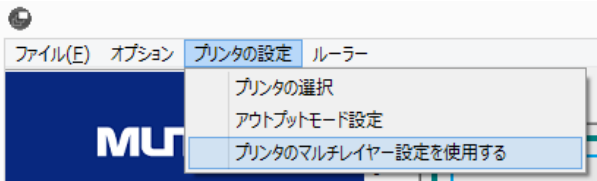
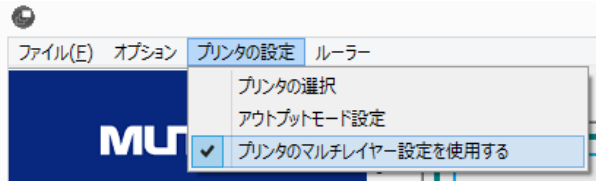
- ただし、通常の印刷より画質が粗くなることがあります。

4.2 マルチレイヤー(重ね)印刷について(UV フラットベッド)

フラットベッド機(VJ-426UF/VJ-626UF/XPJ-461UF/XPJ-661UF)で1層ずつ重ねて印刷する事を、マルチレイヤー印刷と呼びます。

プリンタの設定メニューから2種類の印刷方法が選択できます。

目的に応じて選択してください。

設定1 (初期値)	設定2
	
Layout ツール 2 が、複数のレイヤーを1つのジョブにまとめてプリンタに印刷します。 通常はこちらの設定をご利用ください。	プリンタ本体のパネル設定「マルチレイヤー」が設定されている事を前提として、レイヤー毎にプリンタに印刷します。
印刷終了後、自動的にテーブルがリムーブ状態になります。 複数の PC でプリンタを共有している場合は、こちらの設定の方が安全に使用できます。	メディアセット後は常に印刷可能状態となります。 印刷済みのメディアを上書きされないように、印刷終了後は速やかにテーブルをリムーブ状態にしてください。

注 記

- 設定2のように、プリンタ本体のパネル設定「マルチレイヤー」を有効にして印刷するには以下の操作が必要です。パネル設定を変更してください。

パネルメニュー

Menu	メニュー1:	セッテイ>
	↓	
	セット 2:	ショウサイセッテイ>
	↓	
	ショウサイ 7:	マルチレイヤー
	↓	
	マルチレイヤー:	オン

4.3 ホワイト、バーニッシュの高密度印刷について

ホワイト印刷やバーニッシュ印刷(UV フラットベッド)で、インク濃度を濃くしたい場合に『高密度』機能をお試しください。

印刷速度は約半分に落ちますが、約 2 倍のインク濃度で印刷することができます

ホワイト印刷			
<input type="radio"/> はやい <input checked="" type="radio"/> きれい <input type="radio"/> 高精細	インク量調整	<input type="text" value="100"/> %	<input checked="" type="checkbox"/> 高密度
	<input type="checkbox"/> 輪郭を削る	<input type="checkbox"/> 輪郭をつける	<input type="text" value="0.10"/> mm
	<input type="checkbox"/> グラデーションを有効にする		
	<input type="checkbox"/> αチャンネルがない画像の白データを無視する		
印刷方法	アンダーコート印刷	<input type="radio"/> 全面	<input checked="" type="radio"/> 画像

バーニッシュ印刷			
<input type="radio"/> はやい <input checked="" type="radio"/> きれい <input type="radio"/> 高精細	インク量調整	<input type="text" value="100"/> %	<input checked="" type="checkbox"/> 高密度
	<input type="checkbox"/> 輪郭を削る	<input type="checkbox"/> 輪郭をつける	<input type="text" value="0.10"/> mm
	<input type="checkbox"/> グラデーションを有効にする		
	<input type="checkbox"/> αチャンネルがない画像の白データを無視する	<input type="checkbox"/> 光沢仕上げ	
印刷方法	オーバーコート印刷	<input type="radio"/> 全面	<input checked="" type="radio"/> 画像

バーニッシュの高密度印刷については、印刷設定画面の光沢仕上げもご参照ください。

4.4 ホワイト、バーニッシュ印刷について

印刷の仕上がりはメディアによって異なります。
新しいメディアを使用する前に、メディアとの相性の確認をしてください。

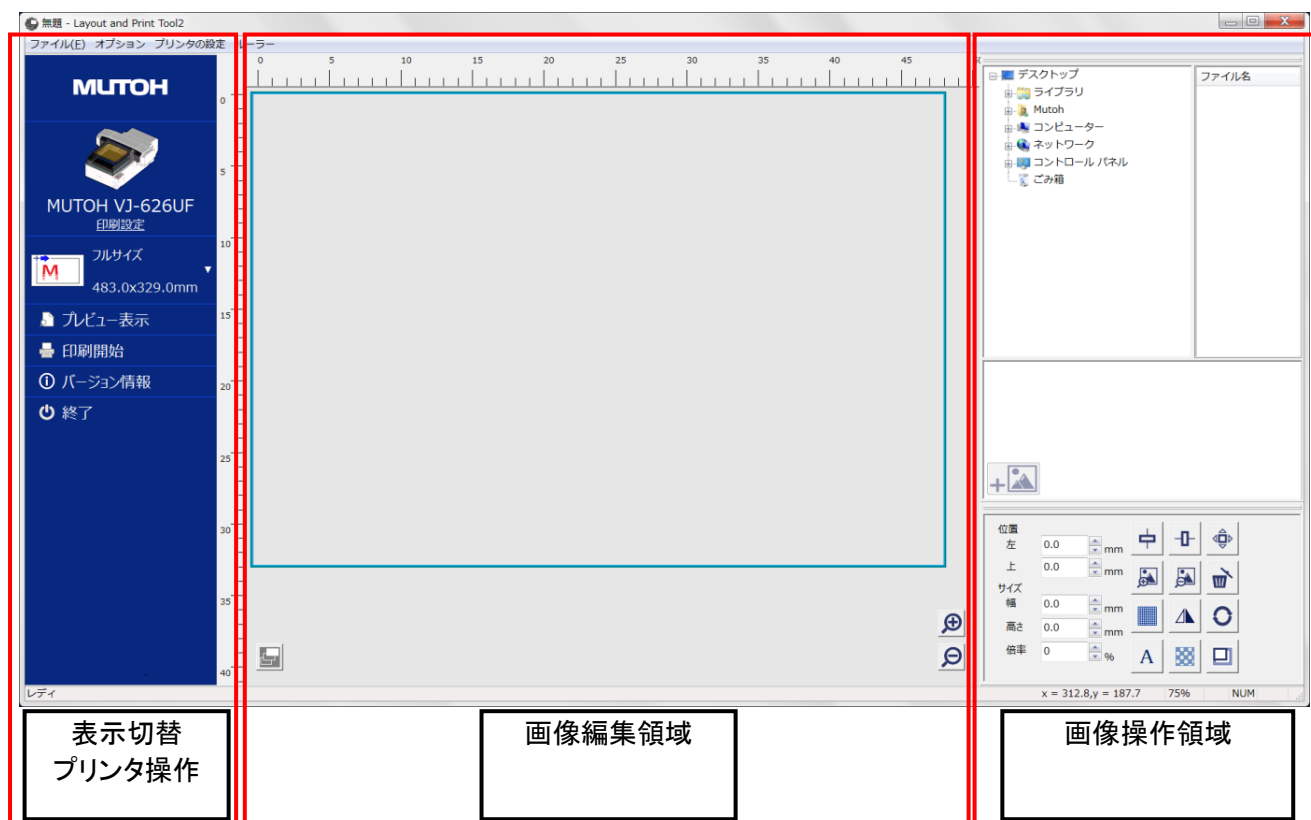
Layout Tool2 の初期設定値はプリンタの特性に合わせて設定されていますので
印刷設定の内容を変更し、試し印刷を行ってください。

注 記

- 着目するポイントを例示します。
その他の項目についても、印刷用途に合わせてご確認ください。
- ・UVインク:
メディア上での密着性の確認
剥離試験を実施してください。
- ・MPインク:
メディア上での乾燥性の確認
レイヤー印刷／カラー印刷／ホワイト印刷 各々確認を行います。
レイヤー印刷でインクが流れたようになる。
-> ホワイトインクの量が多いです。ホワイトインクの濃度を下げてください。
- インクが滲む
-> 印刷中の乾燥が不足しています。パス間ウェイトを設定してください。
プリンタ操作パネル: パス間ウェイト
プリンタドライバ: パス間乾燥時間
LayerEditor: パス間インターバル(パス間重ね設定)

5 操作画面について

操作画面は以下のようになっています。
詳細については以降のページをご参照ください。



表示切替、プリンタ操作

プリンタドライバの設定の呼び出しや、メディアの選択。
プレビューや、印刷の開始を行います。

画像編集領域

貼り付けた画像を表示します。
プレビュー表示兼用です。

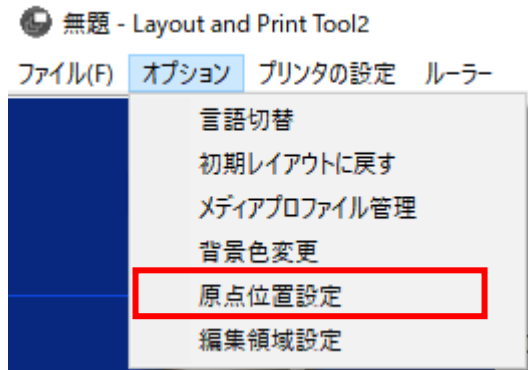
画像操作領域

画像の貼り付け操作や、表示サイズや位置を変更できます。

5.1 レイアウト編集時の画像と印刷の向き

印刷開始位置として左上、右下のいずれかを原点に設定する事ができます。

オプションメニューから、原点位置設定を選択してください。



画像や文字を配置開始した後に原点位置を変更した場合、印刷時の原点だけが変更され配置した画像は元の位置のままになります。

原点位置設定と、プリンタ上の印刷の向きは以下ようになります。

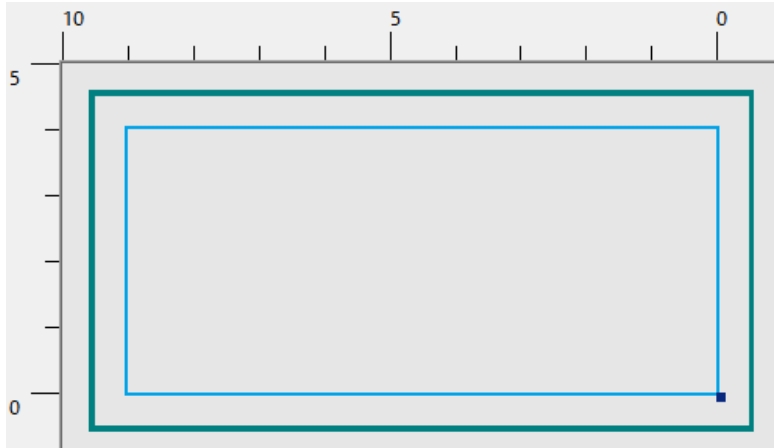


この設定は保存されますので、次回起動時にも有効です。

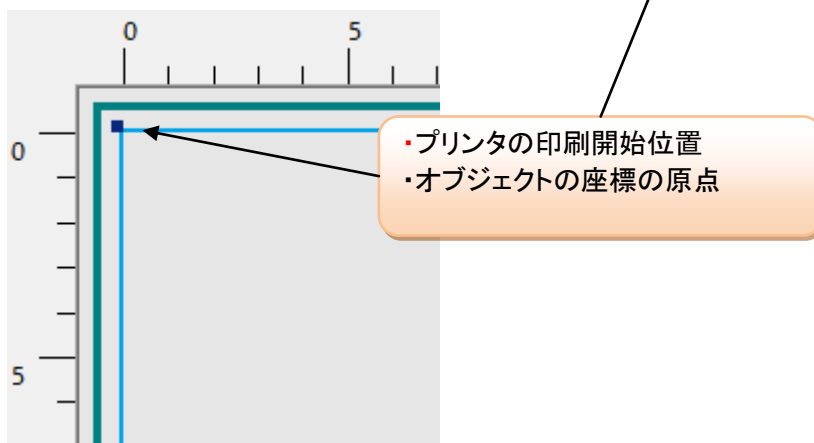
編集領域内のオブジェクトの座標とルーラーのメモリも、原点を基準に表示されます。

下図の矢印の示す箇所が、印刷開始位置を示します。

180 度回転時



180 度回転指定無し(初期設定)



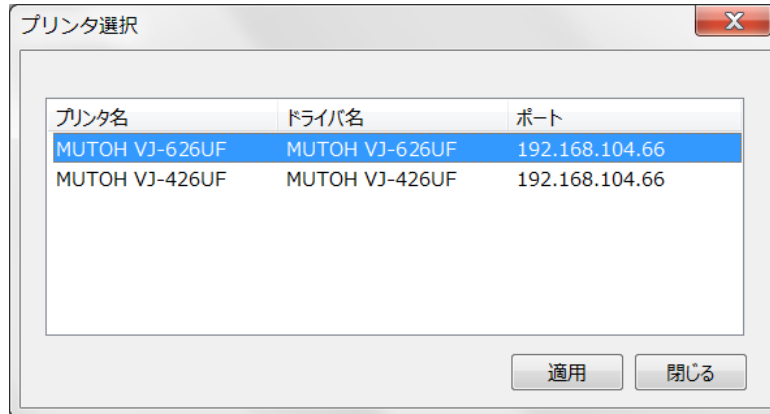
印刷領域の詳細は 7.2 印刷領域 を参照してください。

用紙のセット位置と、印刷開始の位置関係については、プリンタ本体のマニュアルを参照してください。

6 基本操作方法

6.1 初回起動

起動時にプリンタドライバを選択する為、本アプリケーションの初回起動以前に対応したプリンタドライバがインストールされている必要があります。



※次回起動時以降は、前回使用したドライバが選択されます。

ドライバの設定を一度も実行していない場合、以下の画面が表示されます。



[OK]をクリックすると、続いてプリンタのプロパティが開きます。

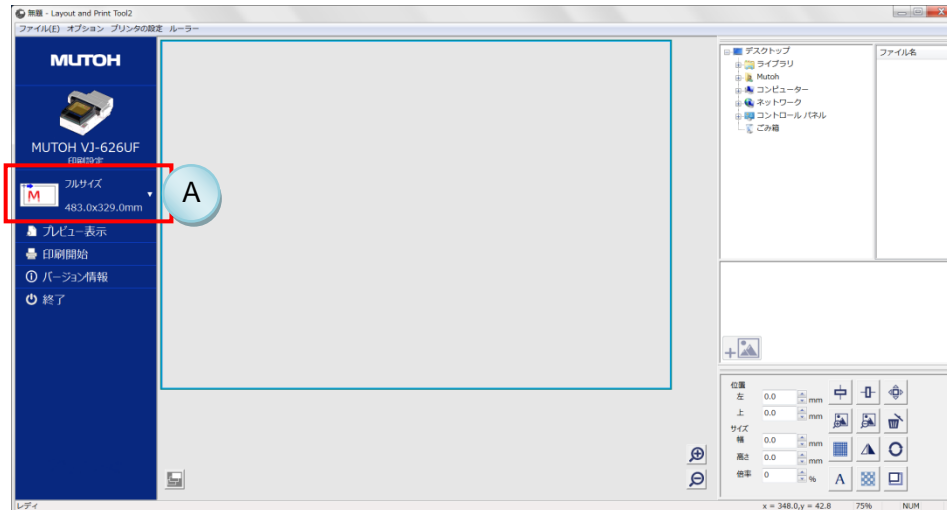
[OK]をクリックし、ドライバとの連携を完了します。



6.2 メディアサイズ設定

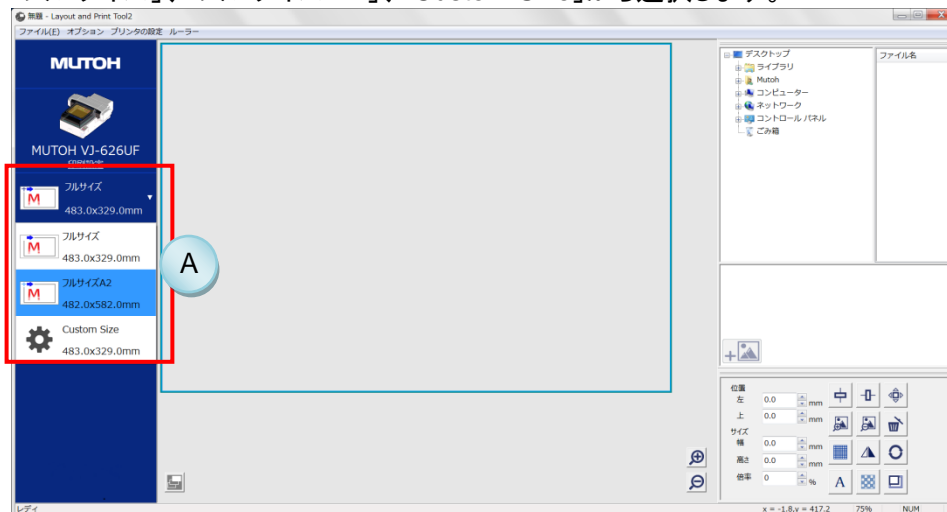
メディアサイズを設定します。

①の「メディアを選択する」をクリックします。



メニューよりサイズを選択します。

「フルサイズ」、「フルサイズ A2」、「Custom Size」から選択します。



「Custom Size」選択時は設定画面「カスタムメディア設定」を表示します。

幅、高さそれぞれ数値を設定します。

数値を直接入力するか▲▼ボタンをクリックします。

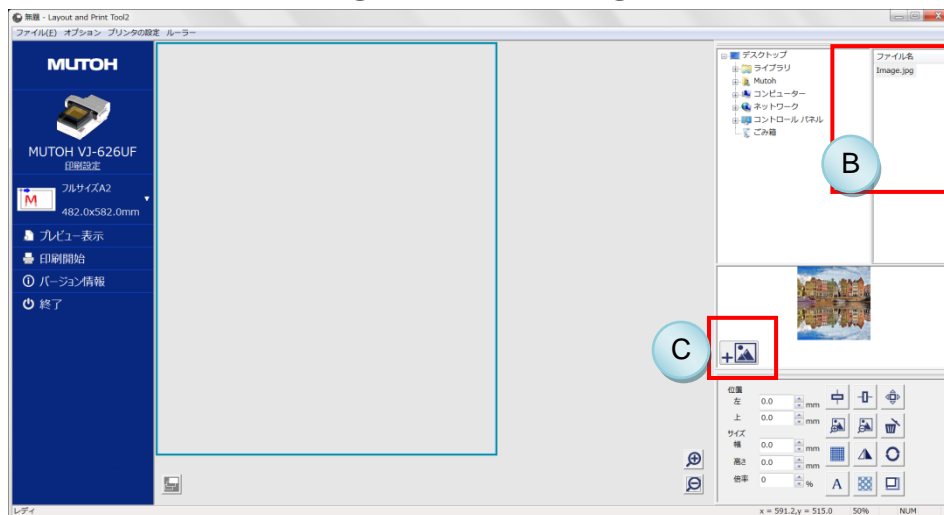


6.3 画像配置設定

印刷する各レイヤーに画像を設定します。

起動時メイン画面ではレイヤー1の設定を表示します。

使用する画像を選択します。②でファイルを選択、③ボタンで画像を貼り付けます。



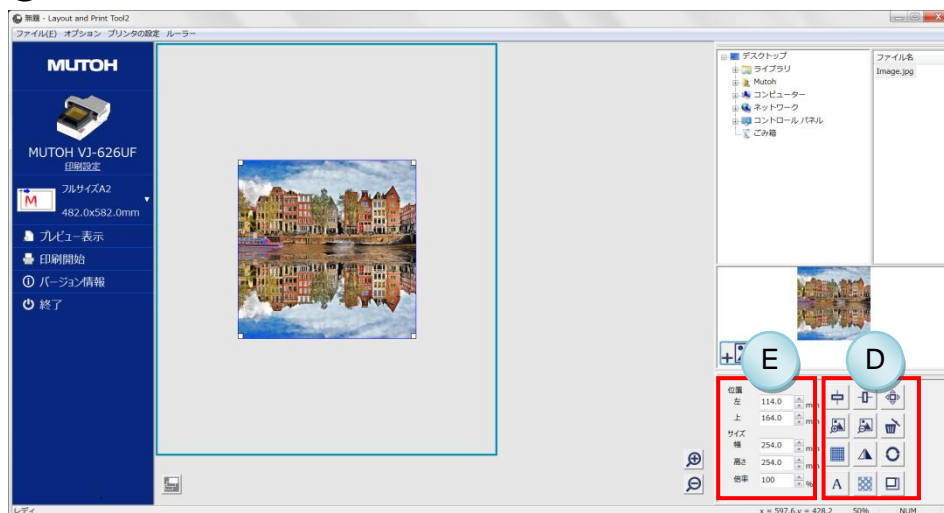
注 記

- 画像の貼り付けは [Ctrl] + [I] キーでも行えます。

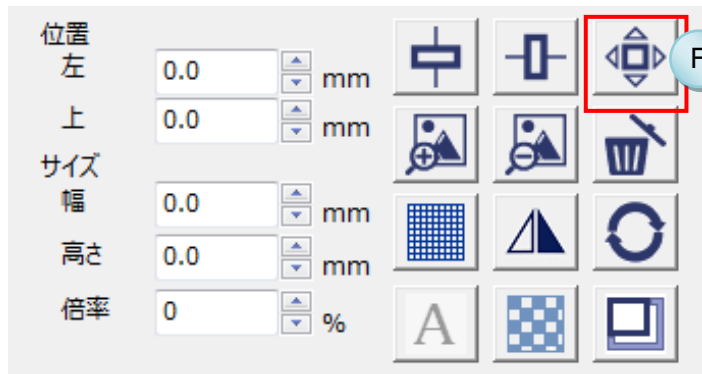
貼り付けた画像をマウスで好みの位置へ移動してください。

④の「センター配置」操作ボタンが使用できます。

⑤で表示位置を直接設定する事もできます。



1枚の画像の場合はⒻのボタンを押してください。中央に横幅をぴったり合わせて配置できます。

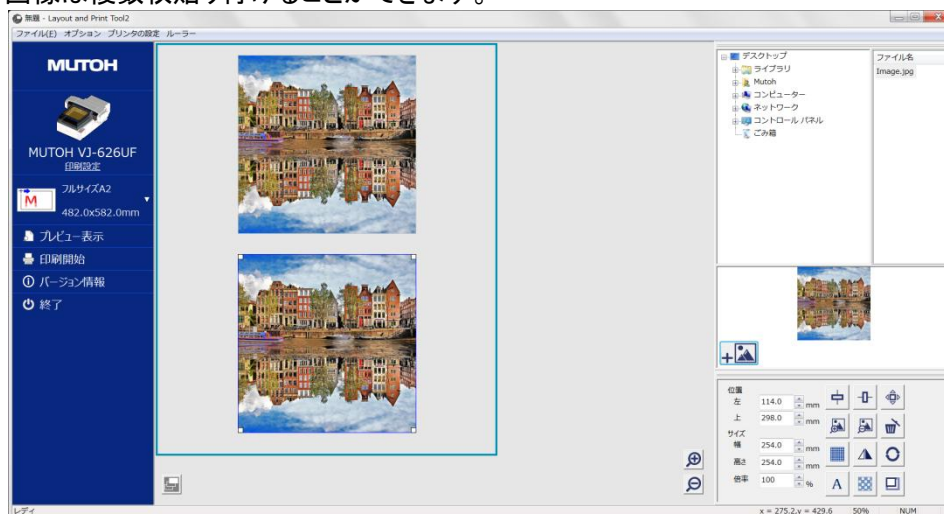


詳細は「機能の詳細」の項目をご参照ください。

注 記

- 画像を貼り付けた直後は、その画像が操作の対象になっています。
- 画像以外をクリックすると、上記のⒻ,Ⓖの操作対象からはずれません。操作できない場合は画像をクリックしてから操作しなおしてください。

画像は複数枚貼り付けることができます。



注 記

- 貼り付け可能な画像のサイズや枚数は、ご利用の PC に依存します。
- 大量の画像や、非常に大きな画像を貼り付けた場合、操作や印刷動作が遅くなる場合があります。

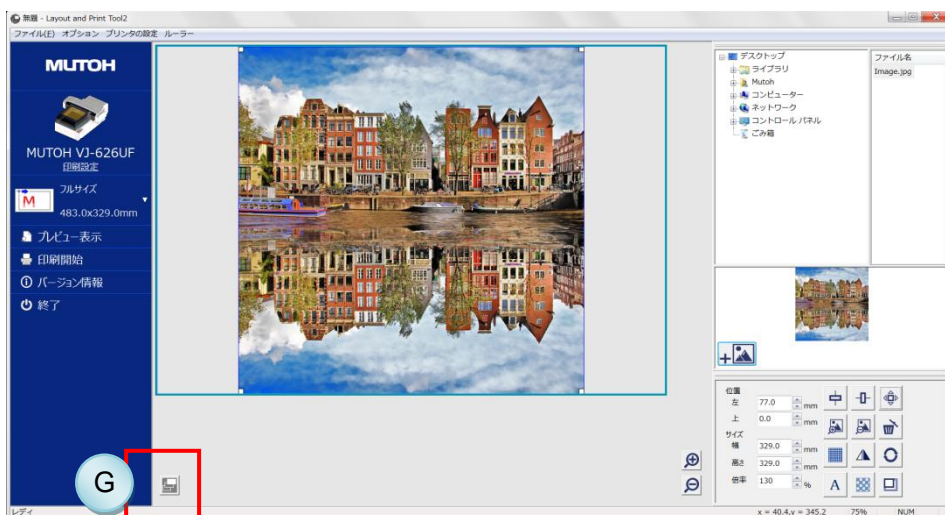
6.4 レイヤー印刷

6.4.1 複数レイヤー印刷

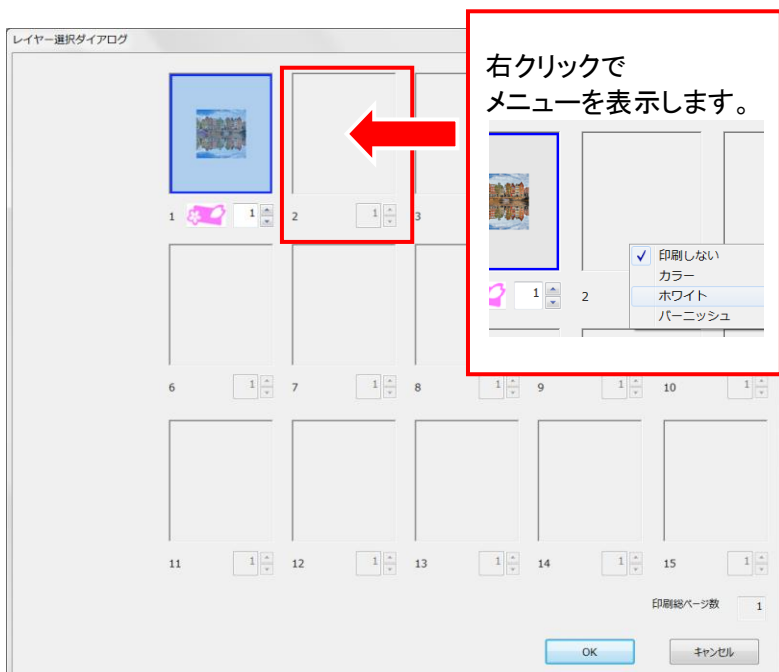
各レイヤーの設定に従い有効ページを一括で印刷する場合します。
「レイヤー選択ダイアログ」画面で各レイヤーの選択設定をおこないます。

A) レイヤーの選択設定

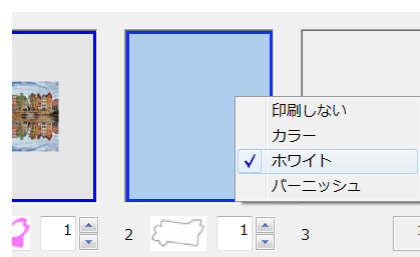
③の「メディアを選択します」をクリックし「レイヤー選択ダイアログ」を表示します。



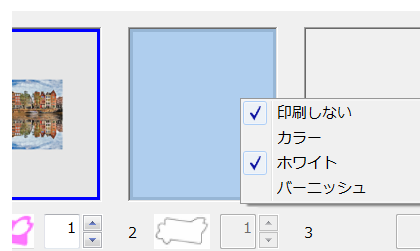
該当レイヤーを右クリックしカラーモードを選択します。
レイヤー設定は最大 15 層の設定ができます。



印刷有効とする場合は
「カラー」、「ホワイト」、「バーニッシュ (UV フラットベッド)」
いずれかのカラーモードを選択します。



印刷に使わないレイヤーは「印刷しない」を選択します。



注 記

「印刷しない」設定について

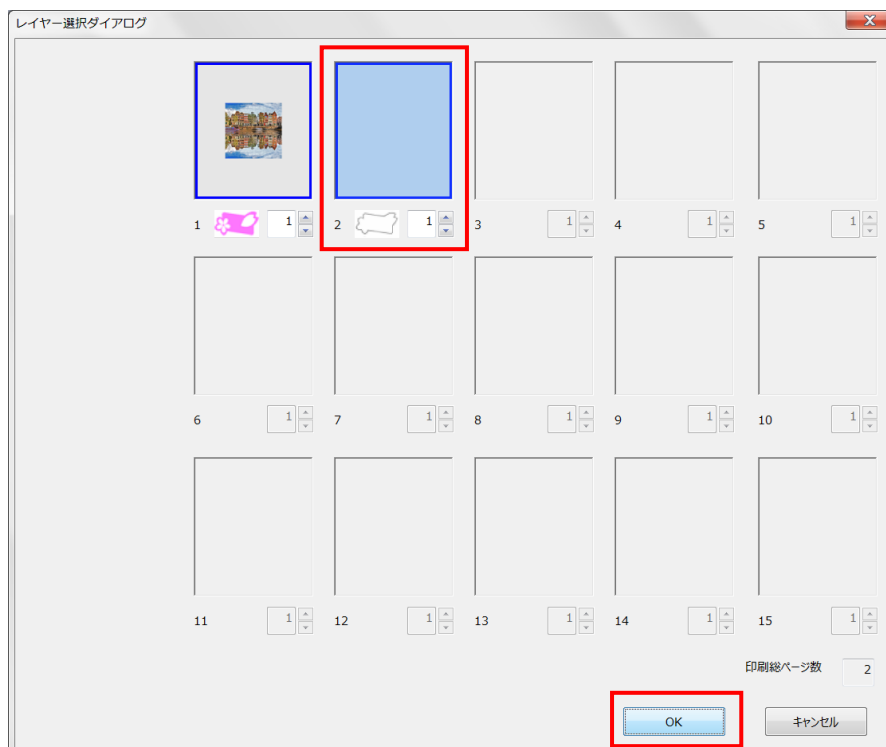
- 「印刷しない」設定をしているレイヤーでも、「現在のレイヤーを印刷する」機能からは印刷ができます。
- 不要なレイヤーの削除にも使用します。P.23 の説明をご参照ください。

注 記

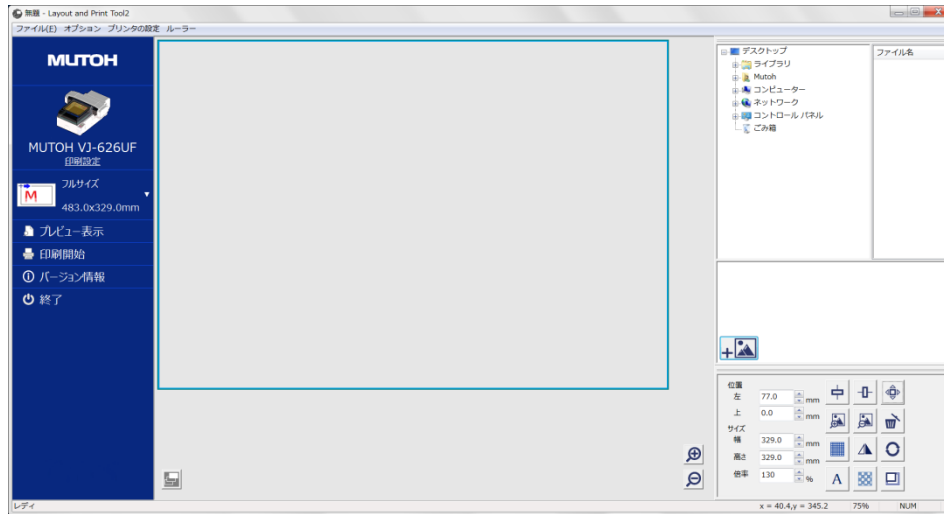
ロール機のレイヤー選択ダイアログについて

- フラットベッド機以外では、マルチレイヤー印刷による重ね印刷ができません。
ロール機種用ドライバを選択した場合は、カラー、ホワイト各1レイヤーのみ有効になります。
レイヤー印刷を行う場合は、レイヤーエディタへの出力を選択し、レイヤーエディタから印刷を行ってください。

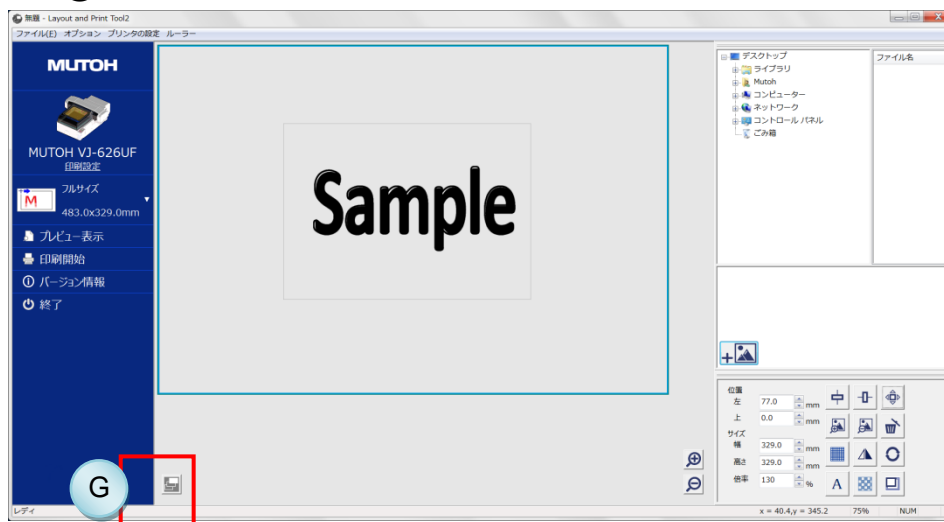
画像を配置するレイヤーを選択して[OK]をクリックするかマウスをダブルクリックします。
選択したレイヤーは青枠内を塗りつぶして表示します。



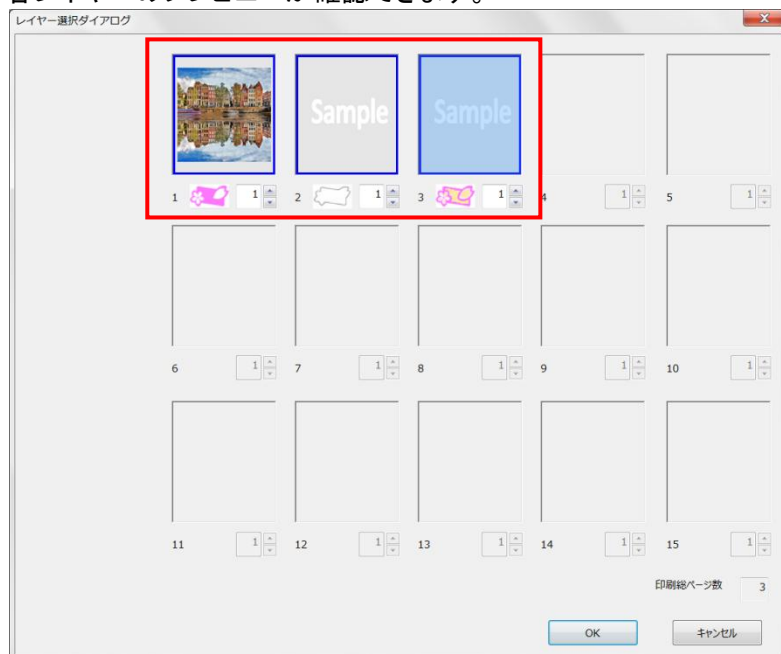
選択したレイヤーはメイン画面で画像の配置がおこなえます。



画像配置後の各レイヤーのプレビューを確認する場合は
再びⒸの「メディアを選択します」をクリックし「レイヤー選択ダイアログ」を表示します。



各レイヤーのプレビューが確認できます。



各レイヤー設定は
マウスでドラッグし他のレイヤーに
移動できます。



注 記

- 1 番目のレイヤーを移動する場合、入れ替え対象のレイヤーと印刷設定が異なる場合
確認ダイアログが表示されます。
詳細は次項の B)印刷設定 レイヤーの入れ替え を参照してください。

注 記


最後尾のレイヤーで、画像がなく、「印刷しない」が設定されている場合は削除する仕組みがあります。

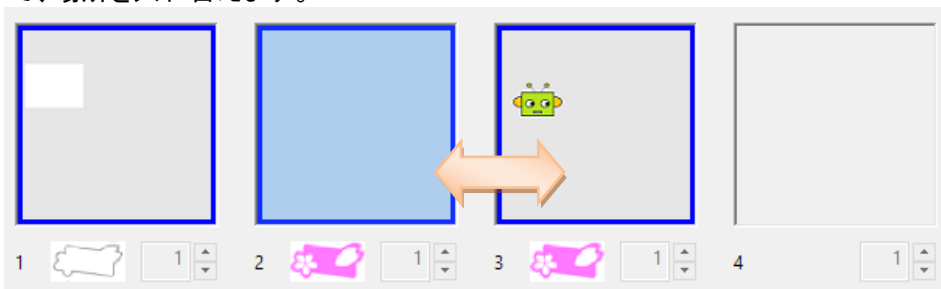
不要なレイヤーを削除するには、以下のようにしてください。

例) Layer 2 を削除する方法を例として説明します。

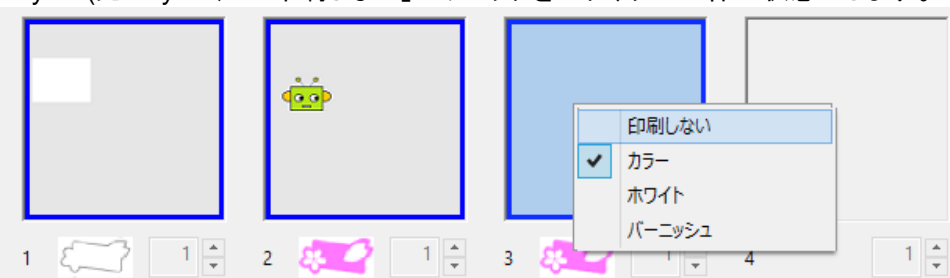
Layer 1 ～ Layer 3 に各画像が挿入されています。



Layer 2 をダブルクリックして、Layer2 を開き画像を選択してから  マークをクリックして画像を削除します。レイヤー選択ダイアログに戻り、Layer 2 を Layer 3 にドラッグ & ドロップして、場所を入れ替えます。



Layer3(元 Layer2)に「印刷しない」のチェックをいれ、グレー枠の状態にします。



ダイアログを閉じると、右側のグレー枠の空のレイヤーが全て削除されます。



B) 印刷設定

印刷品質はレイヤー毎に設定可能ですが、新規ファイルでは全てのレイヤーの設定は、最初のレイヤー1を参照しています。

印刷開始前にレイヤー1の印刷設定を変更してください。

個別に印刷設定を変更したい場合は、各レイヤーで「レイヤー1と同期」のチェックボックスを外し、設定を変更してください。

レイヤー1と、同期を外したレイヤーでは、以下の2つの設定が選択できます。

共通設定

予めディスクに保存済みの設定を再利用する事ができます。

「読み込みと削除」ボタンからメニューを開き、設定を読み込んでください。
初期状態では「標準」設定のみが選択できます。

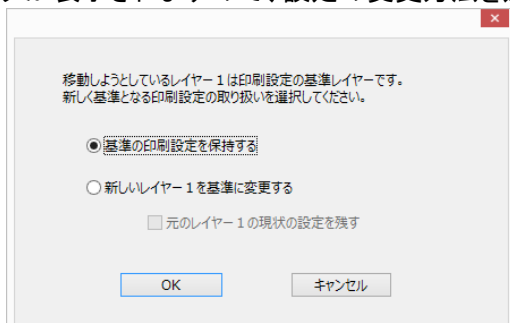
共通設定を新規に作成するには、後述の“パネル設定を使用する”の手順で好みの設定を行い、保存ボタンから名前をつけて保存してください。

パネル設定を使用する。

“パネル設定を使用する”を選択すると設定変更の操作が可能になります。
個々の設定内容は 7.16 印刷設定 を参照してください。

レイヤーの入れ替え

レイヤー1番が基準となっています。この為レイヤー1の印刷設定が書き換わる場合には以下のダイアログが表示されますので、設定の変更方法を選択してください。



例) 以下のような設定の時、レイヤー1と3を入れ替えます。

設定内容

レイヤー1	レイヤー2	レイヤー3
パネル設定「きれい」	「レイヤー1を参照」	パネル設定「はやい」
<input checked="" type="checkbox"/> レイヤー1と同期	<input checked="" type="checkbox"/> レイヤー1と同期	<input type="checkbox"/> レイヤー1と同期
パネル設定	初期設定	初期設定
レイヤー1の設定	レイヤー2の設定	レイヤー3の設定
<input type="radio"/> 共通設定を利用する	<input checked="" type="radio"/> 共通設定を利用する	<input type="radio"/> 共通設定を利用する
<input checked="" type="radio"/> パネル設定を使用する	<input type="radio"/> パネル設定を使用する	<input checked="" type="radio"/> パネル設定を使用する
カラー印刷	カラー印刷	カラー印刷
<input type="radio"/> はやい	<input type="radio"/> はやい	<input type="radio"/> はやい
<input checked="" type="radio"/> きれい	<input checked="" type="radio"/> きれい	<input checked="" type="radio"/> きれい
<input type="radio"/> 高精細	<input type="radio"/> 高精細	<input type="radio"/> 高精細

変更後の状態

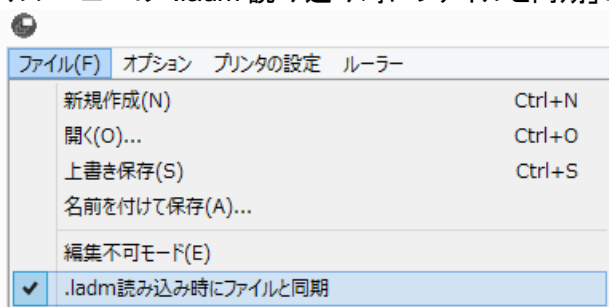
	入れ替え後の状態		
	新しいレイヤー1 (元のレイヤー3)	レイヤー2	新しいレイヤー3 (元のレイヤー1)
<input checked="" type="radio"/> 基準の印刷設定を保持する	<input checked="" type="radio"/> きれい	<input checked="" type="checkbox"/> レイヤー1と同期	
<input checked="" type="radio"/> 新しいレイヤー1を基準に変更する <input type="checkbox"/> 元のレイヤー1の現状の設定を残す	<input checked="" type="radio"/> はやい		
<input checked="" type="radio"/> 新しいレイヤー1を基準に変更する <input checked="" type="checkbox"/> 元のレイヤー1の現状の設定を残す	<input checked="" type="radio"/> はやい		<input checked="" type="radio"/> きれい

印刷設定の同期

ディスク上に保存した印刷設定の利用方法は以下の2通りの処理が選択できます。

利用方法	詳細	印刷設定の表示
設定時に1度だけ参照する。	読み込み操作を行った時だけ参照する。 (初期値) 印刷設定上の表示は以下になります。	.ladm読み込み時に ファイルと同期
常に最新の設定を参照する。	保存済みの.ladm ファイルを読み込んだ時に、 設定を再読み込みします。	.ladm読み込み時に ファイルと同期

ファイルメニューの「.ladm 読み込み時にファイルと同期」の設定により、切り替えができます。



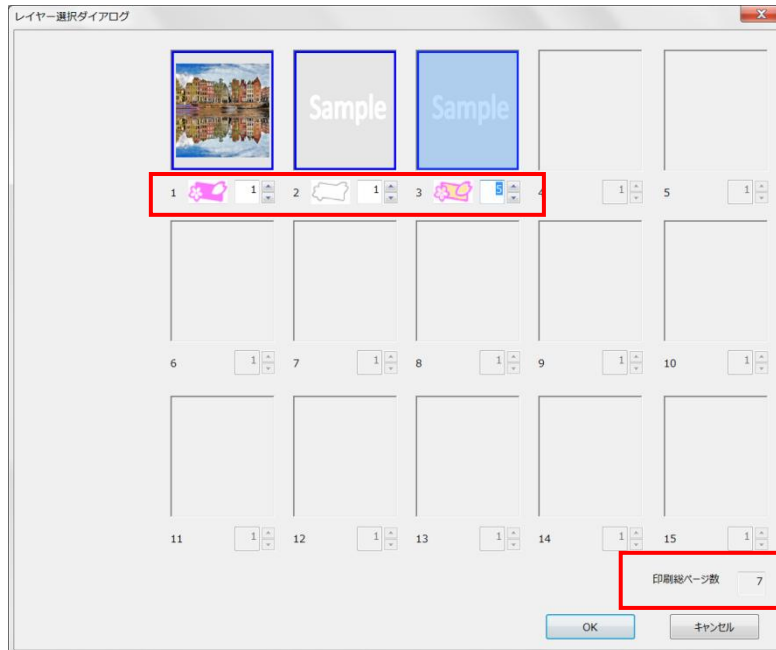
注 記

- 印刷設定の「標準」と「初期設定」の違いについて

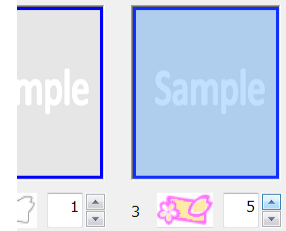
初期設定	印刷設定ダイアログの初期値から変更されていない事を示しています。 「初期設定に戻す」ボタンでこの状態に変更する事ができます。
標準	ディスクに保存されている印刷設定です。初期状態では、「初期設定」とまったく同じ設定です。 印刷設定から書き換えて使用する事ができますが、ディスクに保存する際はご自身が判りやすい名称をつけて保存してください。

C) 印刷

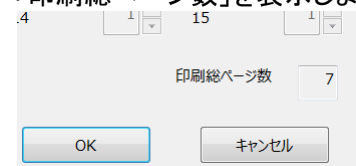
印刷する前に「レイヤー選択ダイアログ」で設定内容が確認できます。



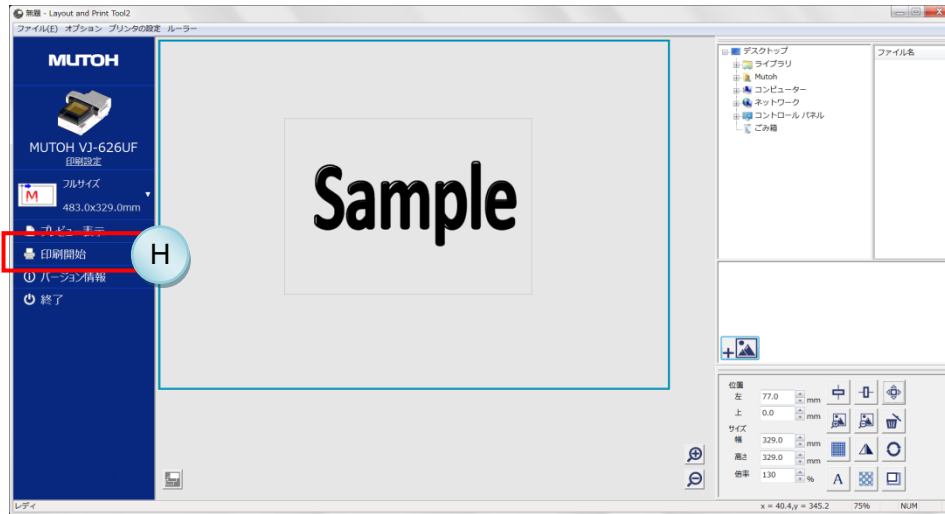
各レイヤーは印刷時の
「重ね書き回数」を設定できます。
(UV フラットベッド)
数値を直接入力するか
▲▼ボタンをクリックします。



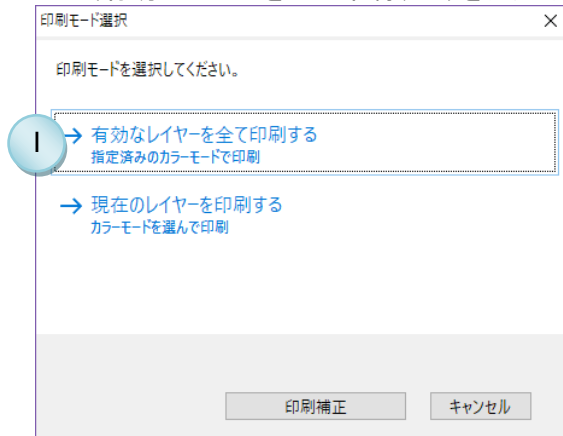
有効ページ数が確認できます。
画面右下に重ね書き回数を含めた
「印刷総ページ数」を表示します。



⑨の[印刷開始]をクリックし「印刷モード選択」を表示します。

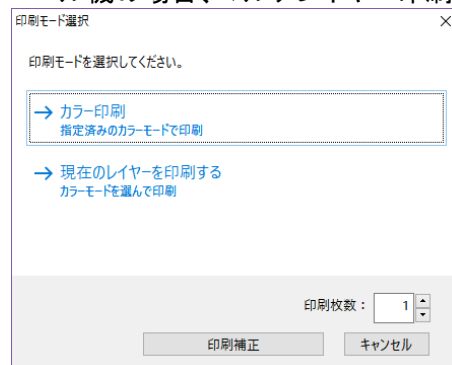


⑩の[有効なページを全て印刷する]をクリックします。



注 記

- ロール機の場合、マルチレイヤー印刷が行えない為、以下のメニューを表示します。



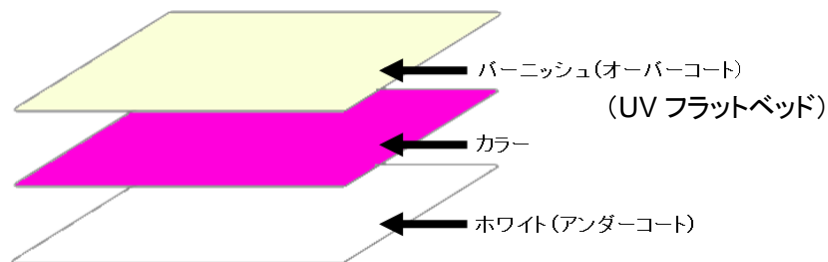
シングルレイヤー印刷を行う場合はアプトブットモード設定を LayerEditor に切り替えてください。

6.4.2 1レイヤー印刷

メイン画面で設定中のページを単独で印刷します。
「自動レイヤー印刷」機能を使用できます。

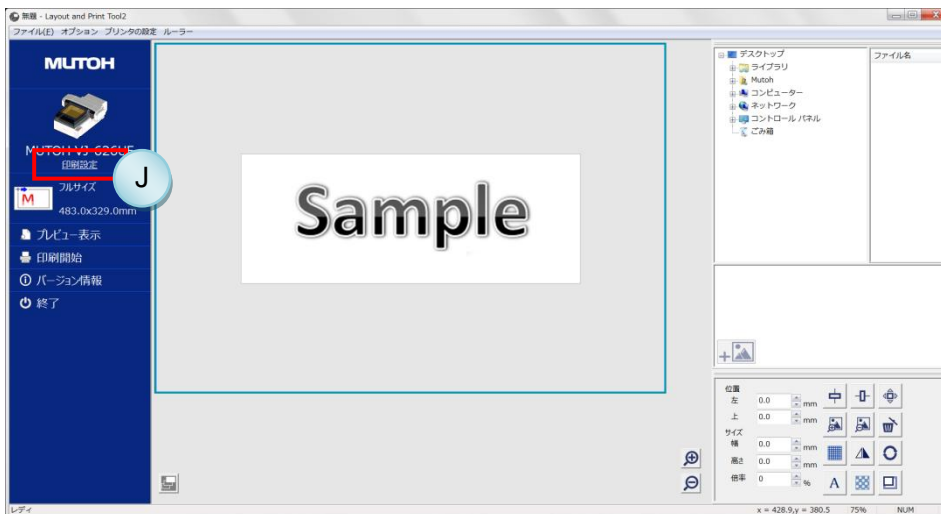
メイン画面で設定中のページを対象にしてカラー、ホワイト、バーニッシュ (UV フラットベッド) 画像を自動構成し印刷します。

自動レイヤー印刷



A) 印刷設定

自動レイヤー印刷に関わる設定は①の[印刷設定]をクリックし「印刷設定」画面でおこないます。



「印刷設定」を表示します。

ホワイト印刷、バーニッシュ(UV フラットベッド)印刷の設定をおこないます。



① アンダーコート、オーバーコート印刷 「全面」／「画像」

- ・「全面」では「6-2 メディアサイズ設定」で選択したサイズで全面印刷します。
- ・「画像」ではメイン画面で設定中の画像のサイズで印刷します。

② 「グラデーションを有効にする」

- ・グラデーション有効

階調を使った印刷を行います。カラー画像を白と黒2階調化してホワイト、バーニッシュで印刷します。

- ・グラデーション無効

階調のない塗りつぶしの印刷になります。データがある部分をすべて塗りつぶします。透過色の塗りつぶしは起こりません。



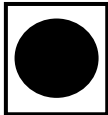
③ αチャンネルがない画像の白データを無視する。

画像にαチャンネルを使用した透過部分がない場合、白データを透過データとして代用することができます。

元画像	指定なし	指定あり

α チャンネルについて

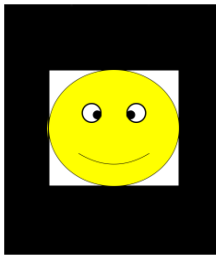
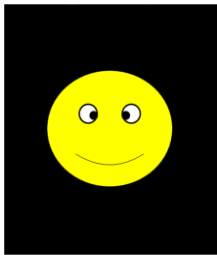
α チャンネルデータは以下のようにものです。

一般的なデータ	BMP, JPEG, TIFF, PNG (透明色を含まない画像) 
透明色を扱えるデータ (α チャンネルを含む)	TIFF, PNG のうち、透明色データを含む画像   画像の他に、透明、不透明を表すデータ(α チャンネル)が含まれる。

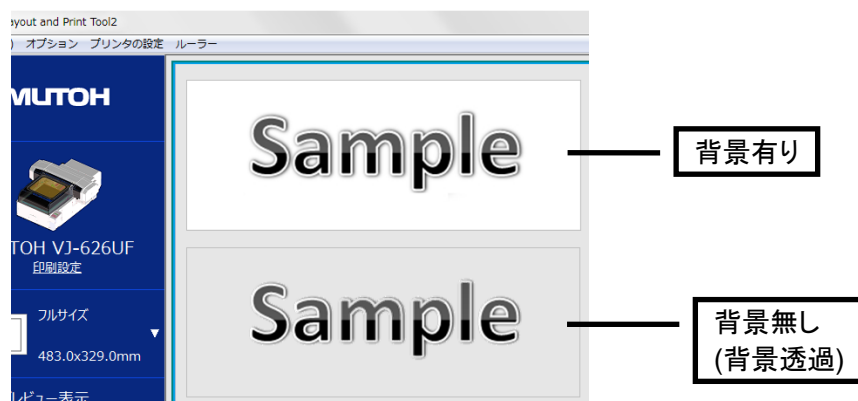
ホワイト印刷の結果

一般的なデータの印刷結果	透明色を扱えるデータの印刷結果
	

ホワイト+カラー印刷の結果

一般的なデータの印刷結果	透明色を扱えるデータの印刷結果
	

メイン画面で印刷に使用する印刷データのフォーマットより背景の有無が確認できます。グラデーションの設定の際の参考にしてください。



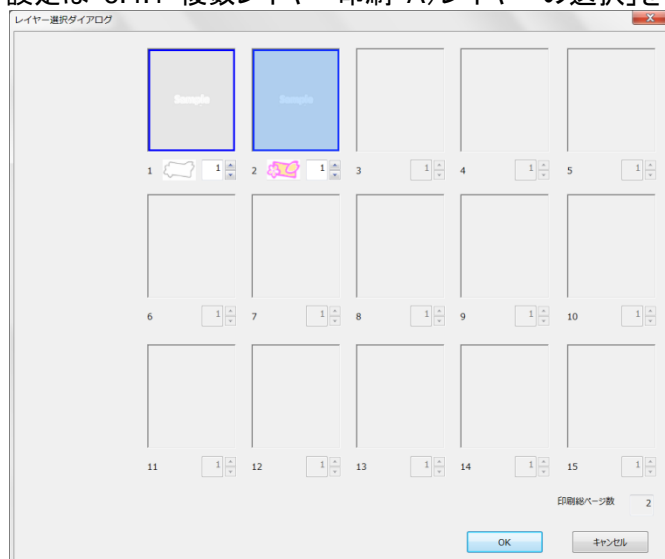
メイン画面に配置した画像を元にグラデーションの有効・無効で以下の印刷をおこないます。

選択中のページの確認は「レイヤー選択ダイアログ」から確認できます。

元画像 (背景有り)	グラデーション有効	グラデーション無効

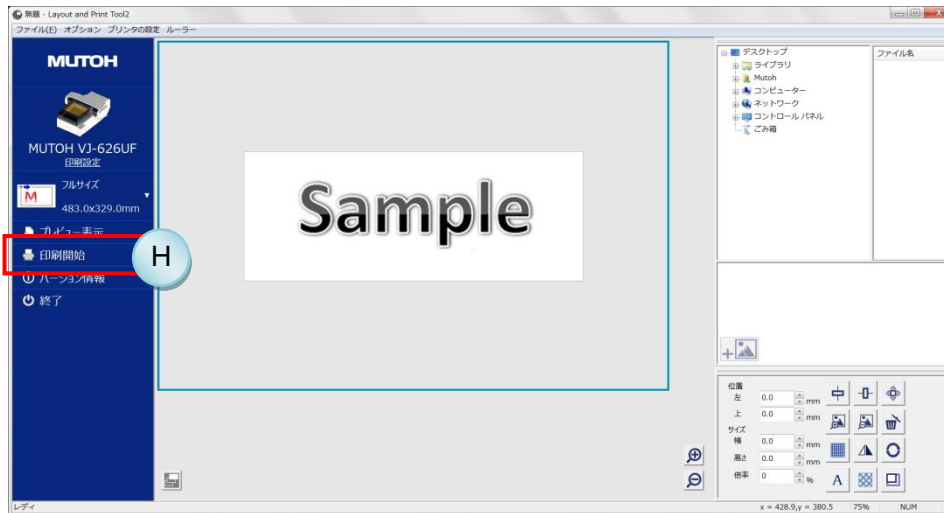
各レイヤーの配置画像のプレビューおよびカラーモードを表示します。

設定は「6.4.1 複数レイヤー印刷 A)レイヤーの選択」を参考におこなってください。

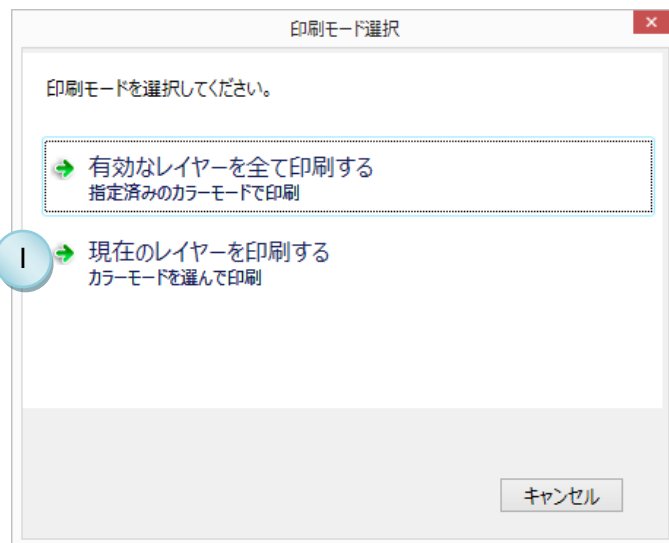


B) 印刷

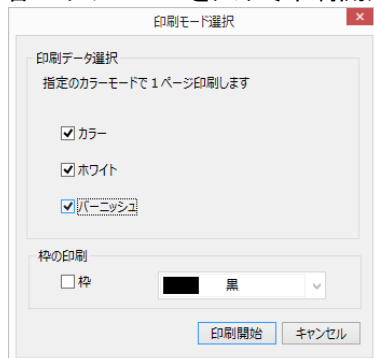
⑨の「印刷開始」をクリックし「印刷モード選択」を表示します。



①の「選択中のページを印刷する」をクリックします。

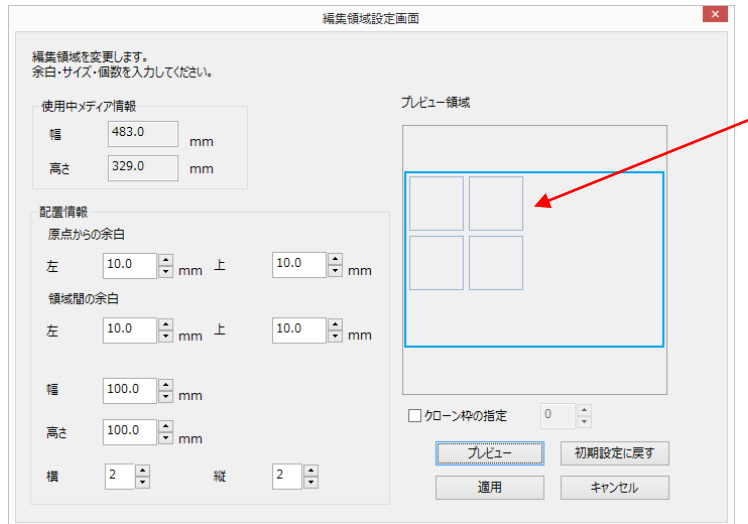


自動構成するカラーモードを表示します。
各レイヤーに✓を入れ「印刷開始」をクリックします。

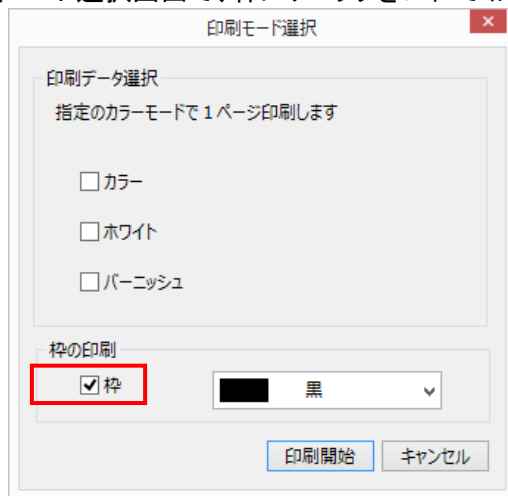


C) 枠の印刷

印刷モード選択ダイアログで、枠の印刷を選択する事で、個々の印刷範囲を示す枠線(図中の⇒部分の細線四角形)を印刷する事ができます。

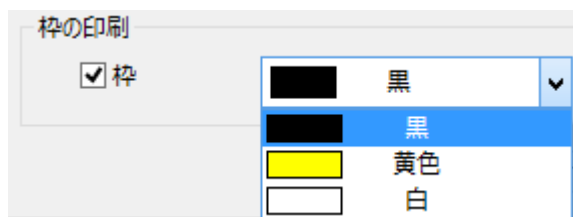


印刷モード選択画面で、枠にチェックをいれてください。



印刷色は、黒、黄色、白から選択できます。

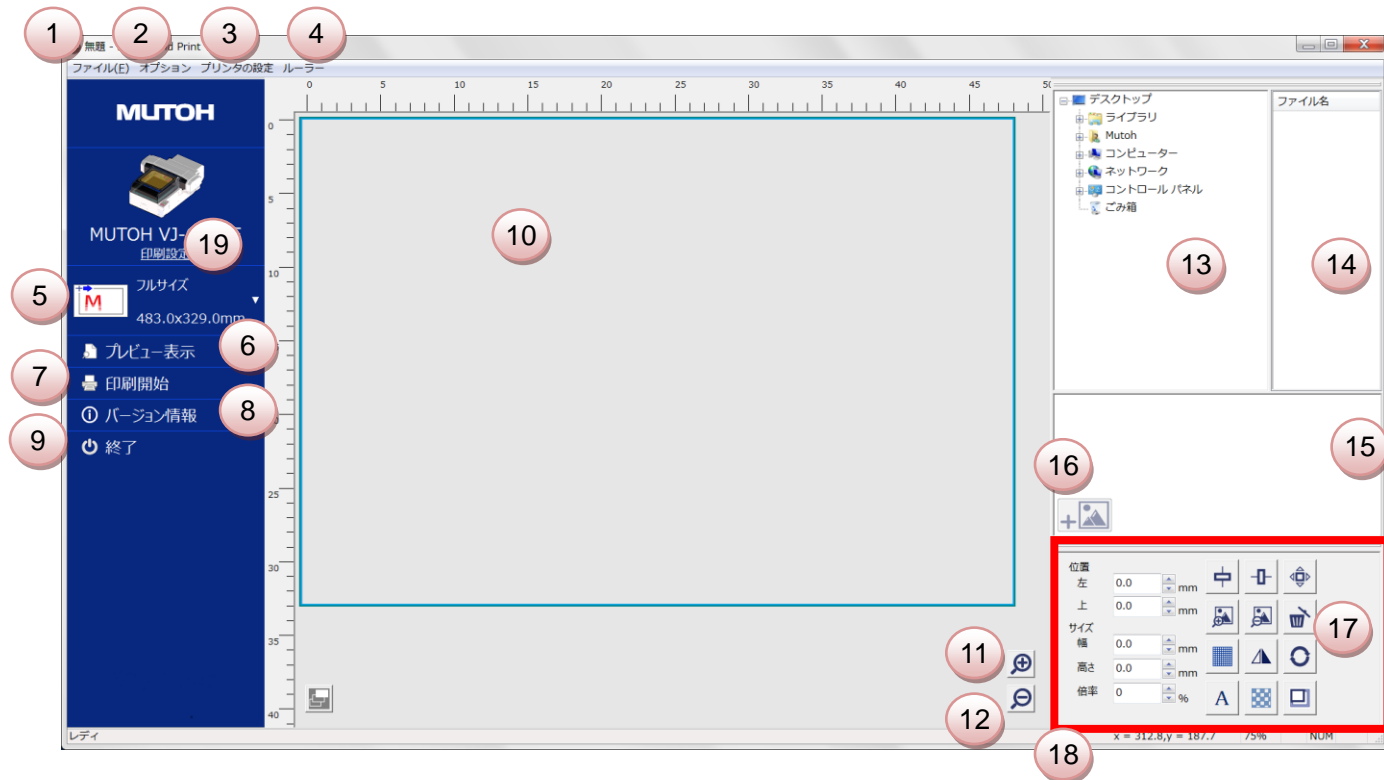
印刷データ選択も同時に設定した場合は、データ印刷のタイミングで枠を印刷します。(黒、黄色はカラーと同時、白は、ホワイトと同時印刷です。)



7 機能説明

7.1 メイン画面

アプリケーションを起動すると以下の画面が表示されます。

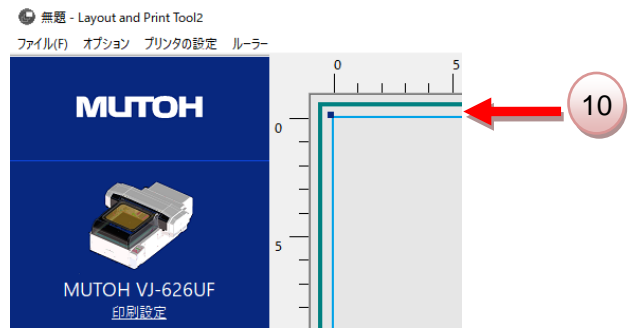


①	ファイルメニュー	新規作成、編集ファイルの読み込み、保存を行います。
②	オプションメニュー	メニューに「言語切替」を表示します。
③	プリンタの設定	メニューに「プリンタの選択」を表示します。
④	ルーラーメニュー	ルーラーの表示非表示と、補助線の表示と削除を行います。
⑤	メディアを選択する	印刷に使用するメディアサイズを選択します。
⑥	プレビュー・編集表示	プレビュー、または編集の表示を切り替えます。
⑦	印刷開始	「印刷モード選択」で選択した出力先を表示します。
⑧	バージョン情報	バージョン情報を表示します。
⑨	終了	Layout ツール 2 を終了します。
⑩	印刷領域	印刷の範囲を水色の枠で表示します。
⑪	編集領域を拡大	編集領域表示を拡大します。
⑫	編集領域を縮小	編集領域表示を縮小します。
⑬	フォルダ ツリー表示	編集に使用する画像ファイルを選択するフォルダを表示します。
⑭	画像ファイル一覧	編集に使用する画像ファイルを選択するファイルを表示します。
⑮	プレビュー・テキスト編集	⑬⑭で選択した画像ファイルのプレビュー表示、またはテキスト編集ウィンドウを表示します。
⑯	この画像を使用する・テキストを更新、挿入	⑬⑭で選択した画像ファイル・テキストを印刷領域に表示する。

⑪	編集ツール	編集に使用する各種ツールを表示します。 後述の 「7-10 画像の配置」 「7-11 画像とテキストの切り替え」 「7-12 テキストの挿入」 「7-14 画像の中の一部分の色を透明にする」 で詳しく説明します。
⑫	補足情報	マウス位置情報、編集領域の縮小率を表示します。
⑬	印刷設定	「印刷設定」画面を表示します。

7.2 印刷領域

⑩の「印刷領域」では印刷領域を水色で表示します。
原点（印刷開始位置）と、印刷の向きに関しては、5.1 レイアウト編集時の画像と印刷の向きを参照してください。

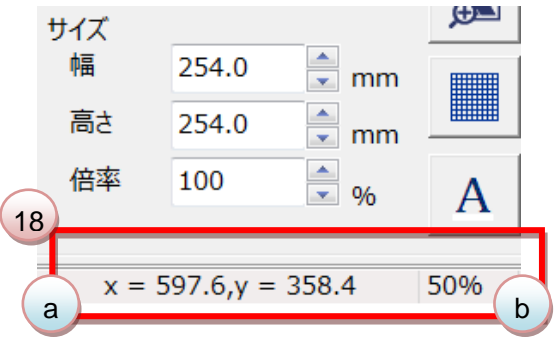


⑩	印刷領域(水色)	プリンタの印刷可能領域を表示します。
	用紙サイズ(太い緑線)	プリンタドライバが持つ用紙サイズを示します。
	原点表示(緑四角)	印刷開始位置を示します。この点は以下の用途でも使用されます。 <ul style="list-style-type: none">・印刷開始位置・編集領域内のオブジェクト座標と、ルーラーメモリの基準位置

余白の設定を必要としない機種や印刷モードでは、水色と太い濃い緑線は隣接して表示されます。

7.3 補足情報

メイン画面右下に⑮補足情報として「マウス位置情報」「編集領域の縮小率」を表示します。

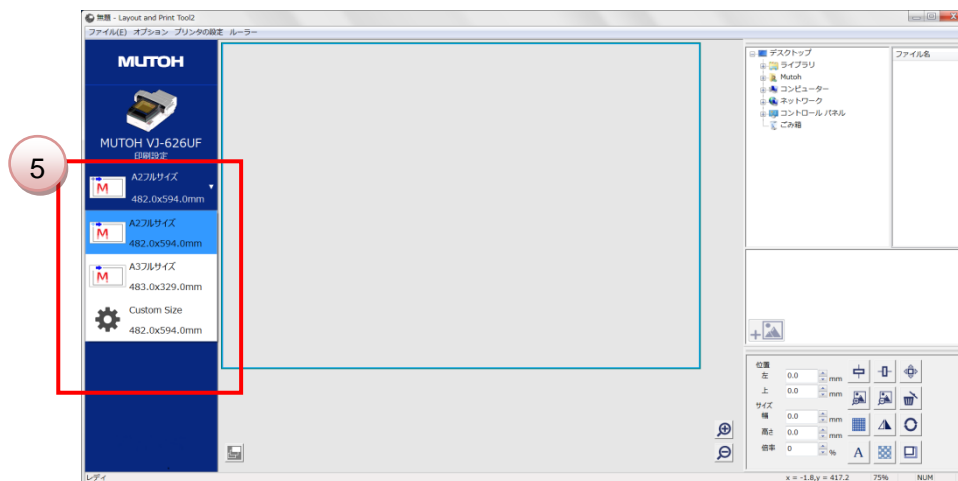


※単位は mm

⑮	a	マウス位置情報	プリンタの印刷可能領域(水色の線)の左上からの距離を表示します。
	b	編集領域の縮小率	現在の編集画面の縮小率を表示します。

7.4 メディア選択

⑤の「メディアを選択する」をクリックし表示されるリストから、プリンタに設定したサイズを選択します。



予め設定されているサイズリストと、最大印刷サイズについては 2.2 印刷可能なメディアサイズ を参照ください。

「Custom Size」をリストで選択すると設定画面「カスタムメディア設定」を表示します。
幅、高さそれぞれ数値が設定できます。
数値を直接入力するか▲▼ボタンをクリックします。

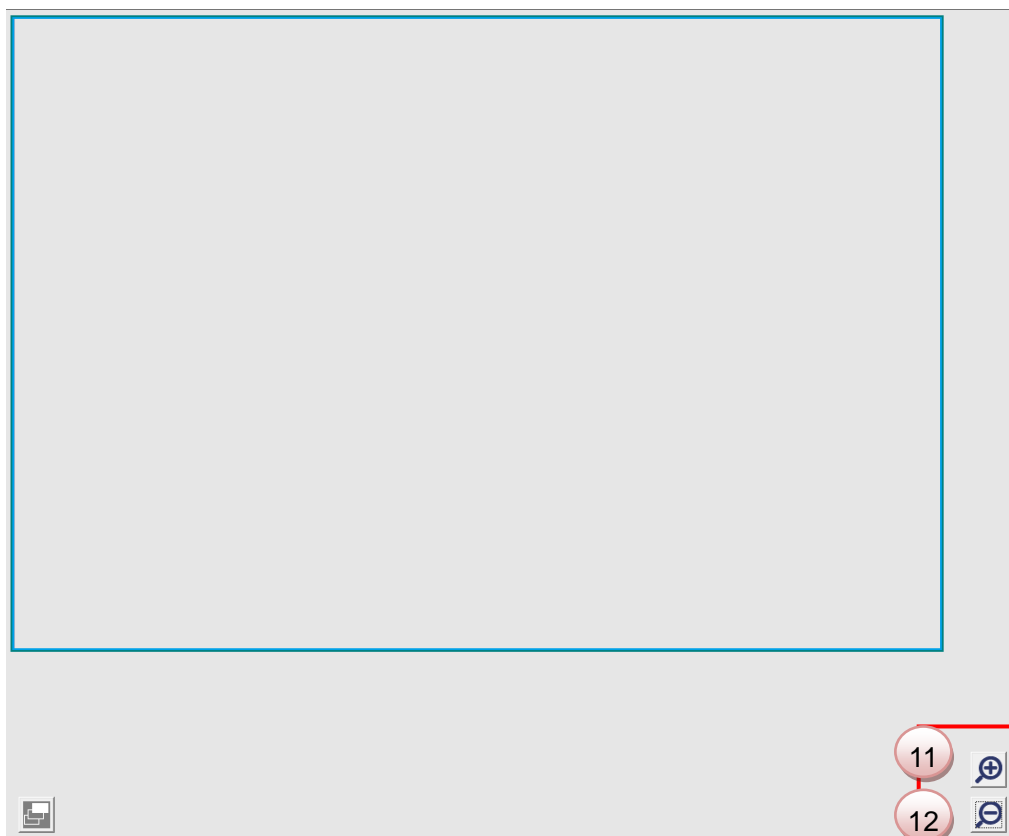


注 記

余白のある機種では、周囲 5mm は印刷を行えません。

7.5 編集領域の拡大縮小

編集領域の拡大縮小表示は⑪の〔編集領域を拡大〕⑫の〔編集領域を縮小〕をクリックします。



それぞれ＋、－のボタンで編集領域の拡大、縮小が可能です。

切り替え単位は

「25%, 30%, 35%, 40%, 45%, 50%, 75%, 100%」で表示します。

7.6 画像の挿入

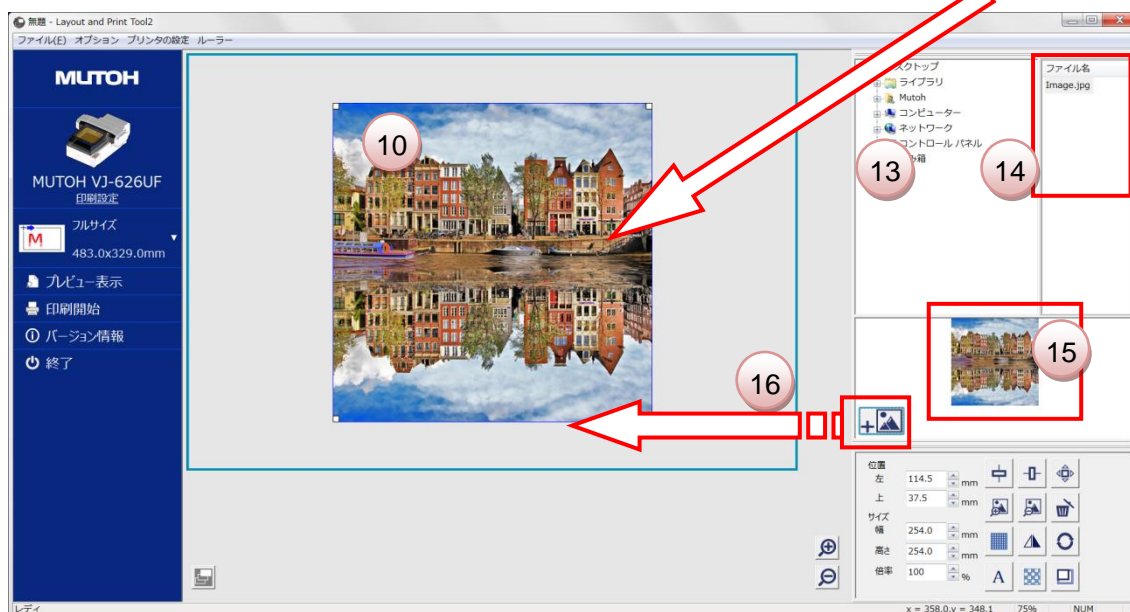
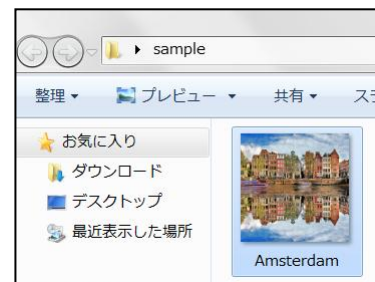
⑩の印刷領域に画像を表示する方法を説明します。

まず⑬のフォルダから画像ファイルを選択します。

選択した画像ファイルは⑭の「画像ファイル一覧」に表示されます。

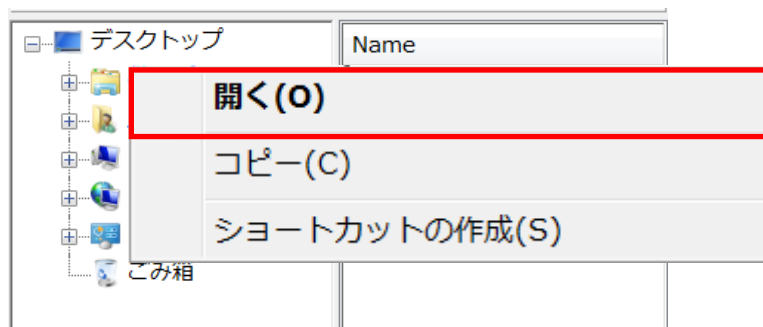
画像ファイルを編集画面に挿入するには以下の方法あります。

1. ⑭「画像ファイル一覧」よりファイル名をダブルクリック
2. ⑮「プレビュー」よりプレビュー画像をマウスでドラッグ & ドロップ
3. ⑯「この画像を使用する」をクリック
4. 直接画像をドラッグ & ドロップ (複数枚の選択も可能)



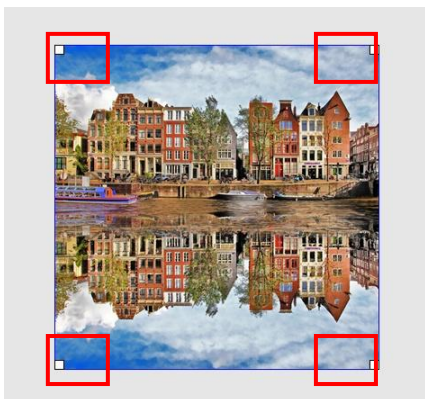
⑬のフォルダ ツリーではマウス右クリック「開く」で「エクスプローラ」を表示します。

画像ファイルを編集する際に使用してください。

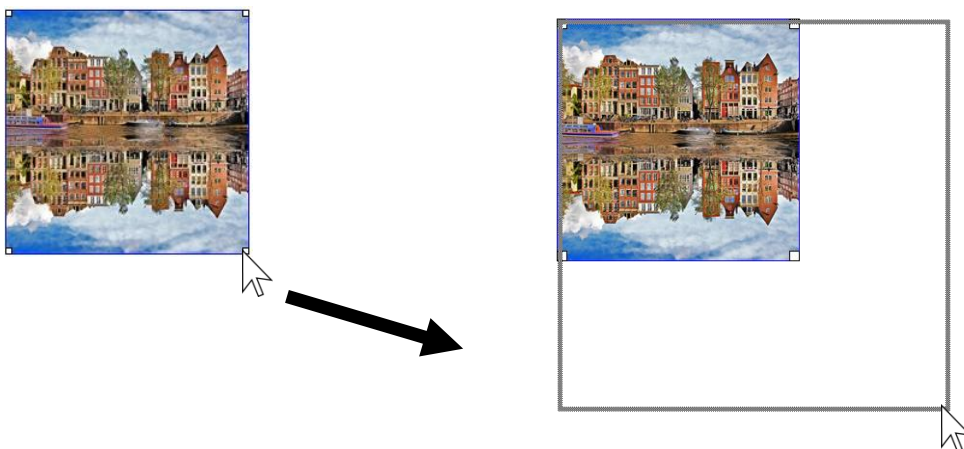


7.7 画像の拡大縮小、移動

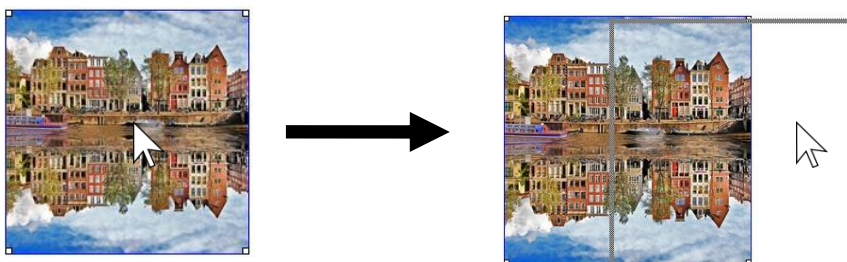
印刷領域に挿入された画像は単一の画像、または複数の画像がある場合は最後にマウスでクリックした画像(最前面の画像)の四隅にポインタを表示し選択状態であることを表示します。



四隅のポインタをドラッグしたままマウスを動かすと画像の周りに複写を表示します。複写表示に従って画像の拡大、縮小が行えます。



四隅のポインタ以外をマウスでドラッグしたままマウスを動かせば画像を移動できます。この場合も複写表示に従って画像を移動させてください。



7.8 画像の編集メニュー

印刷領域に表示中の画像をマウスで選択、右クリックより編集メニューを表示します。単一画像表示の場合には削除、100%表示、複数画像表示の場合にはそれに加えて最前面、最背面への移動ができます。



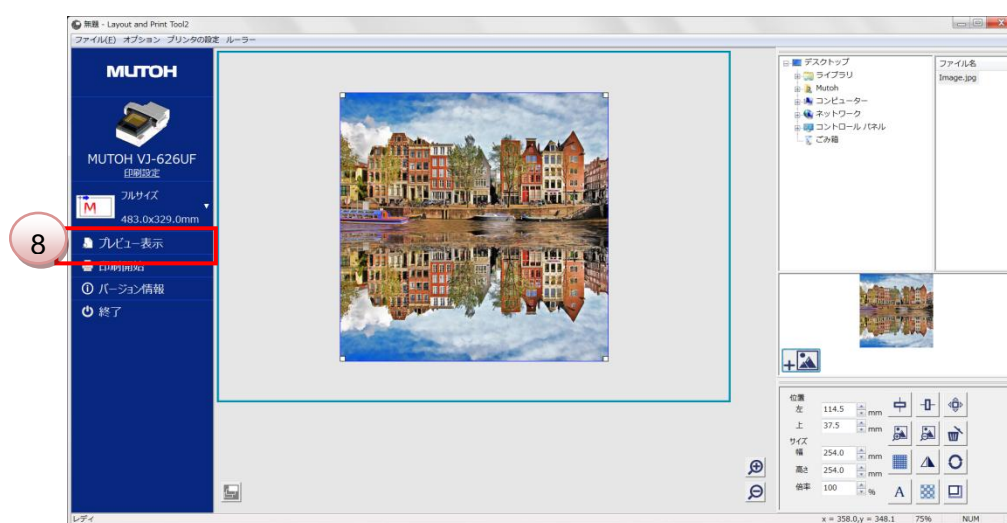
a	削除	選択された画像を削除します。	
b	100%で表示	縦横サイズを拡大縮小した場合に元のサイズに戻します。	
c	最前面へ移動	画像が複数ある場合に有効になります。 印刷領域に複数ある各画像の最前面へ選択された画像を移動します。	
d	最背面へ移動	画像が複数ある場合に有効になります。 印刷領域に複数ある各画像の最背面へ選択された画像を移動します。	
e	原画像表示	印刷範囲(青枠)のサイズに収まらない画像は解像度を落として表示します。 このようなケースでは「原画像表示」を有効にすることで元の解像度で表示します。	
		<div><div>・原画像表示なし</div><div><div><div></div></div><div>原画像表示</div></div><div><div>Amsterdam</div></div></div>	<div><div>・原画像表示有効</div><div><div><div><input checked="" type="checkbox"/></div></div><div>原画像表示</div></div><div><div>Amsterdam</div></div></div>
f	UNDO/REDO	直前の画像操作の取り消しを行えます。 画像上でメニューを選択する他、UNDO は Ctrl+Z , REDO は Ctrl+Y のショートカットも設定してあります。	

7.9 プレビューモード・編集モードの切り替え

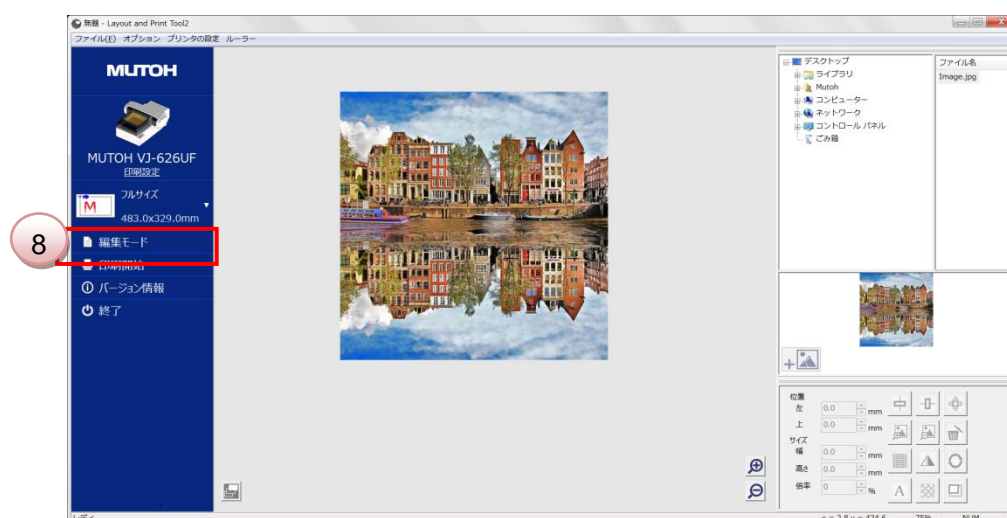
⑧の[プレビューモード・編集モードを切り替える]クリックで表示を切り替えます。

一連の画像編集は編集モードで行いますが、「印刷領域」を非表示にして編集結果をプレビューで表示します。プレビュー表示中は画像編集を行えません。編集モードに戻す場合は再度⑧の[プレビューモード・編集モードを切り替える]をクリックしてください。

編集モード



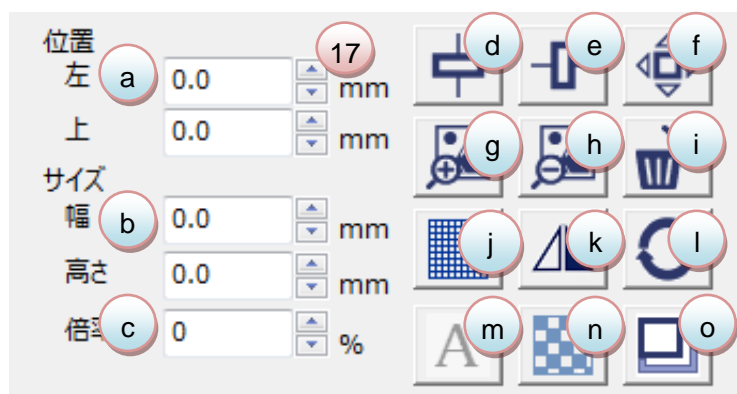
プレビューモード

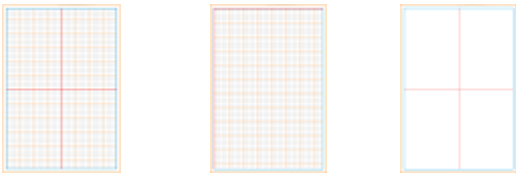


7.10 画像の配置

⑰の各編集ツールを使用して画像の配置が調整できます。

この画面で表示されている数値は実際に印刷される寸法と同じです。



⑰	a	位置表示 *1	選択中の画像の「左」「上」の位置を表示します。 直接数値を編集できます。
	b	サイズ表示 *1	選択中の画像の「幅」「横」サイズを表示します。 直接数値を編集できます。
	c	スケール *1	選択中の画像の縮尺を表示します。 直接数値を編集できます。
	d	垂直方向に中央配置 *1	選択中の画像の位置を垂直方向に自動調整します。
	e	水平方向に中央配置 *1	選択中の画像の位置を水平方向に自動調整します。
	f	最大サイズで中央配置 *1	選択中の画像を最も大きく表示されるようにサイズを調整し、 画面中央に配置します。
	g	編集画面の拡大 *1	編集画面を拡大します。
	h	編集画面の縮小 *1	編集画面を縮小します。
	i	白紙に戻す	配置した全ての画像を削除します。 確認画面が表示されます。
	j	メッシュ	印刷可能領域内にグリッド線を表示します。 3 パターンの表示をクリック毎に切り替えて表示します。  パターン 1 パターン 2 パターン 3
	k	水平方向へ反転 *1	選択中の画像が水平方向に反転します。
	l	選択中の画像を回転 *1	選択中の画像がクリック 1 回につき 90 度回転します。

⑪	m	画像とテキストの切り替え	画像のプレビューとテキスト編集の表示を切り替えます。 詳細は 7-11 「画像とテキストの切り替え」で説明します。
	n	透過色を設定	画像の一部の色を透過させます。 詳細は 7-14 「画像の中の一部の色を透明にする」で説明します。
	o	トリミング	選択中の画像の一部を指定し、選択箇所だけを表示します。 詳細は、7-15 「画像のトリミング」で説明します。

注 記

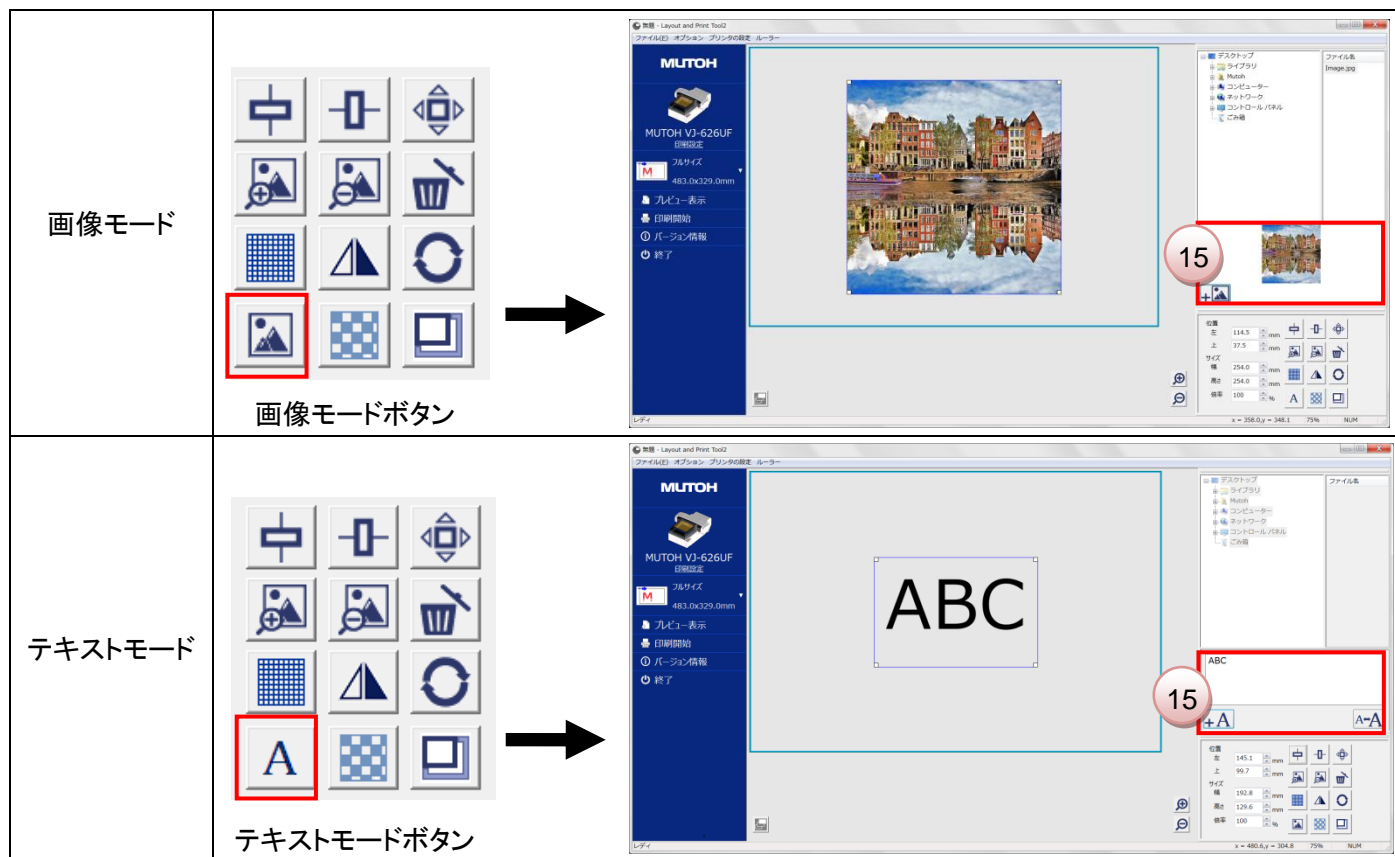
- *1 該当する機能についてはマウスで複数選択時には、対象画像すべてに適用されます。
編集領域内の全ての画像を選択する場合は、Ctrl-a が使用できます。
マウスによる複数選択については、7.31 データのコピーと貼り付けを参照ください。

7.11 画像とテキストの切り替え

編集に使用するデータを画像およびテキストに変更できます。

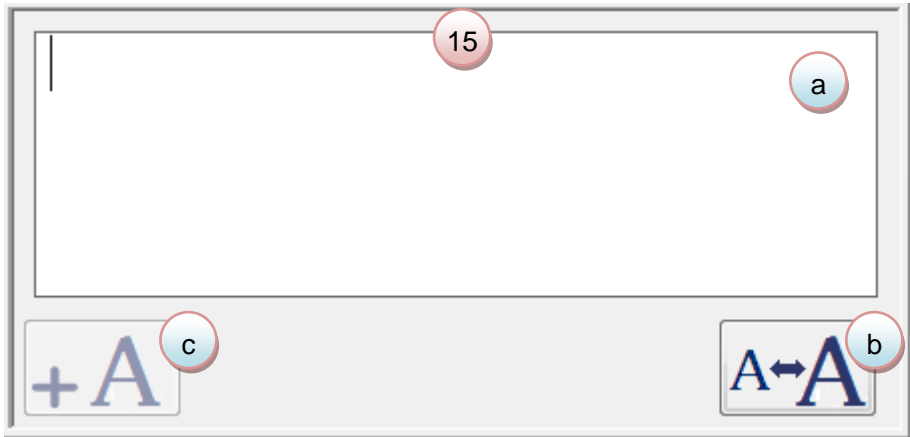
変更するには⑪の各編集ツールより「画像とテキストの切り替え」をクリックします。

クリックする度に「画像とテキストの切り替え」ボタン表示、⑮「プレビュー・テキスト編集」の表示が画像モード、テキストモードで交互に切り替わります。



7.12 テキストの挿入

「画像とテキストの切り替え」をクリックし「テキスト編集」を表示します。
テキスト入力、挿入、更新、フォント変更を行います。

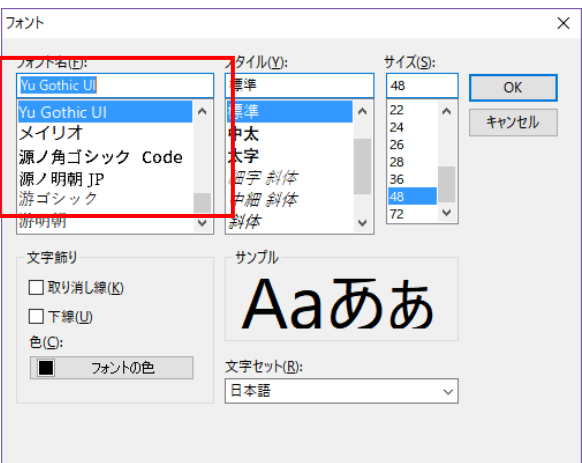


⑮	a	テキスト入力領域	任意のテキストをこの領域に入力します。
	b	フォント設定	クリックにより「フォント」ダイアログを表示します。
	c	挿入、更新	テキストの印刷領域への挿入、印刷領域のテキストの更新を行います。テキストが入力されるとボタンが有効になります。

Windows 標準フォント設定

⑥の「フォント設定」クリックより「フォント」ダイアログを表示します。

使用可能な windows フォントを
「フォント名」に一覧表示します。



windows フォントに含まれているのに一覧中に表示がない場合は以下の手順で表示を行います。

「コントロールパネル」 → 「デスクトップのカスタマイズ」 → 「フォント」

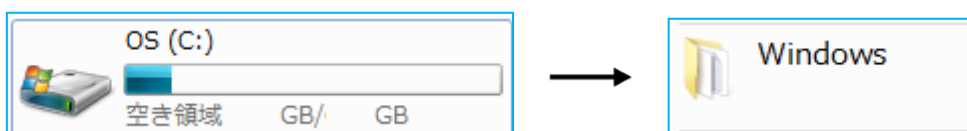


「フォント」をクリックします。

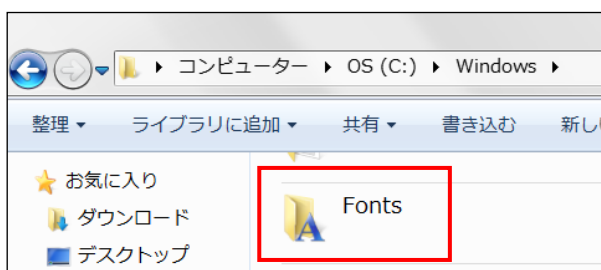


または

「スタートボタン」 → 「コンピューター」 → 「ローカルディスク」
→ 「Windows」 → 「Fonts」



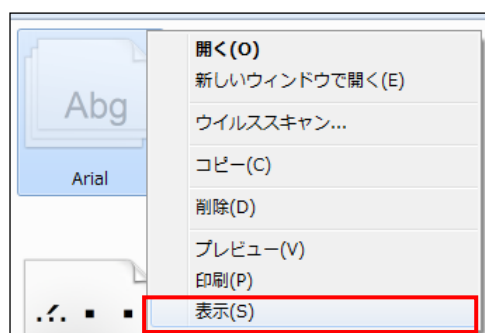
「フォント」フォルダを開きます。



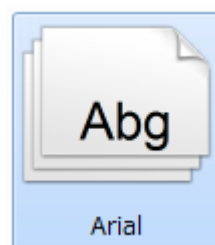
「フォント」フォルダを開くとシステムにインストール済みの全てのフォントを表示しますが一部のフォントは影が薄くなっています。影が薄くなっているフォントは一般のアプリケーションでは使用できないフォントです。



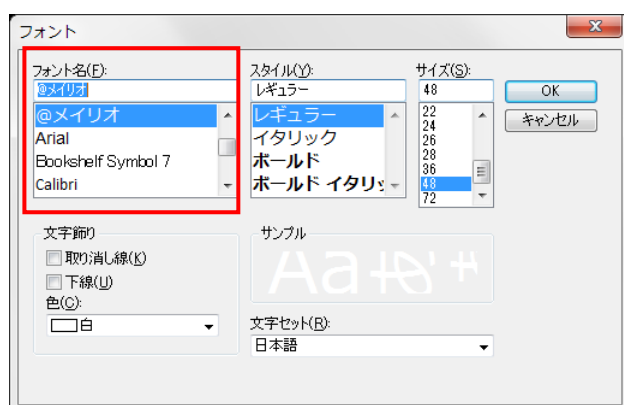
一覧に表示するにはフォントアイコンを
右クリックし「表示」を選択します。



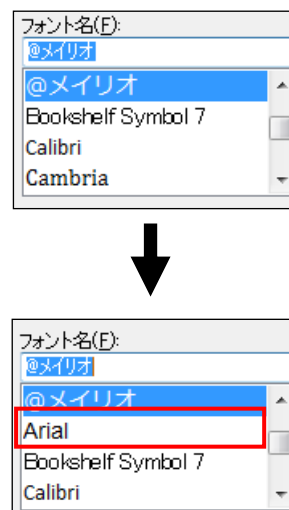
通常表示に変わります。



フォント一覧を確認します。



一覧に表示します。

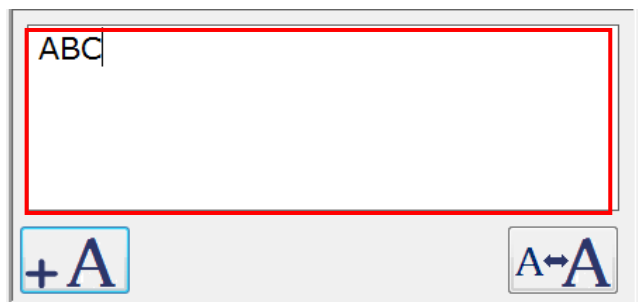


注 記

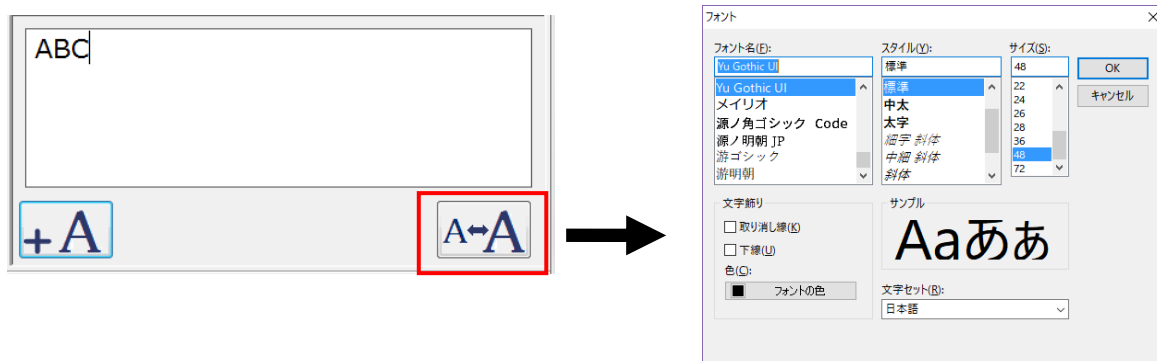
- フォントを大量に「表示」すると一部のアプリケーションのパフォーマンスが低下します。フォントを表示する際はご注意ください。

⑩の「プラテン外枠/印刷」領域の印刷領域にテキストを表示する方法を説明します。

「テキスト入力領域」にテキストを入力します。

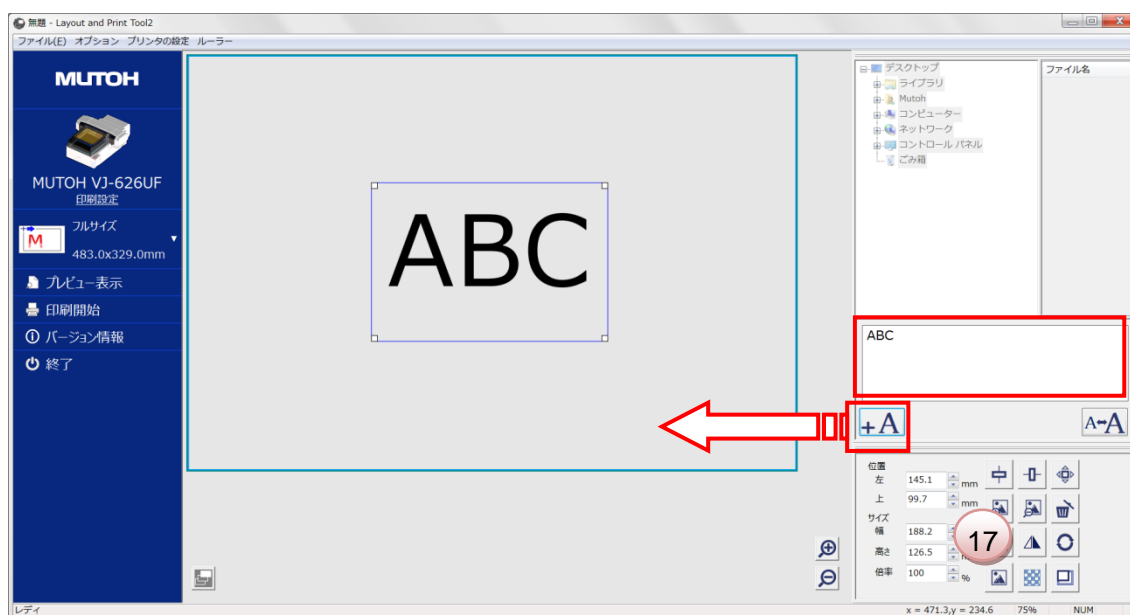


フォントの調整を行います。[フォント設定]をクリックすると「フォント」を表示します。

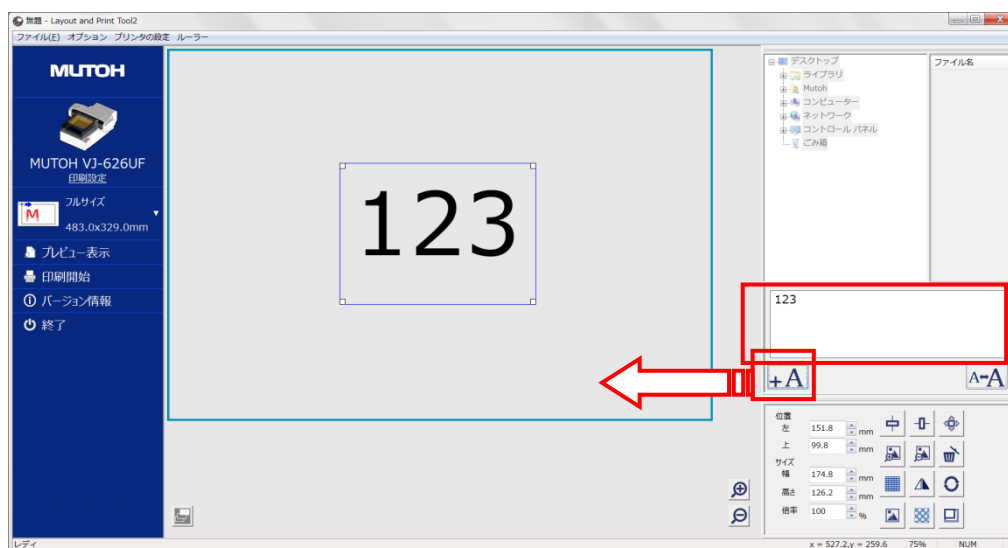


フォント調整後[挿入、更新]をクリックすると印刷領域にテキストを表示します。

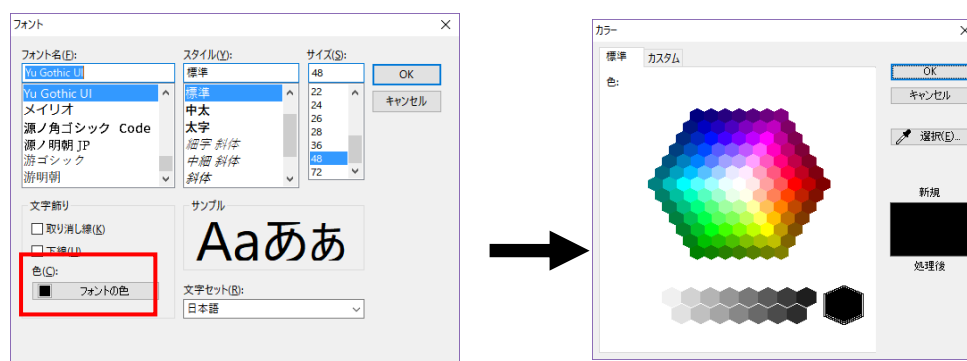
拡大縮小、移動は画像の時と同様に⑪の各編集ツール、マウスが使用できます。



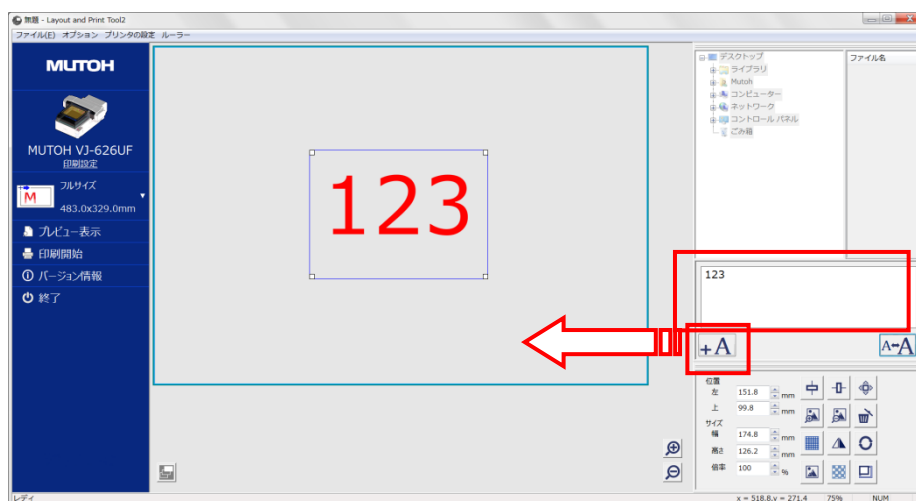
テキストの更新は新規にテキストを入力し、印刷領域表示中の更新対象のテキストをマウスでクリックし選択中であることを確かめてから[挿入、更新]をクリックしてください。



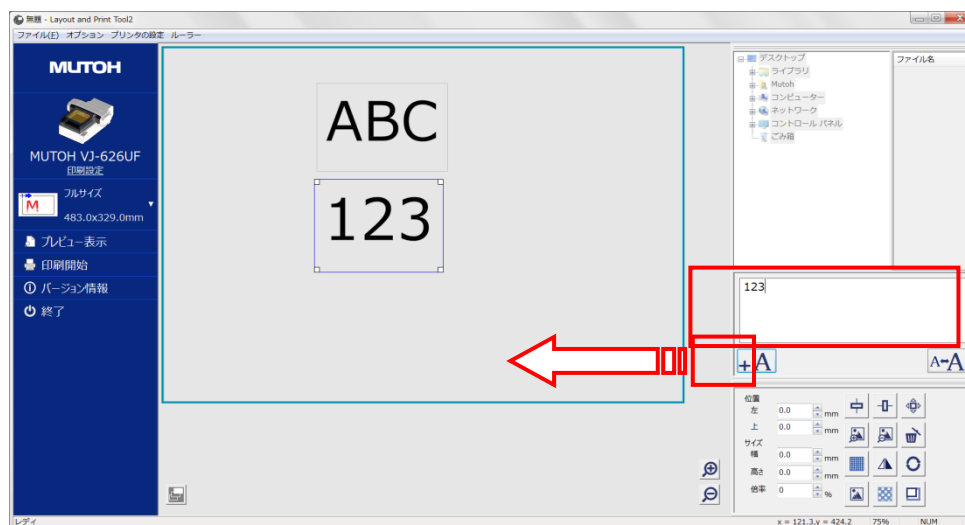
色の変更は、「フォント」ダイアログの「フォントの色」ボタンから行います。



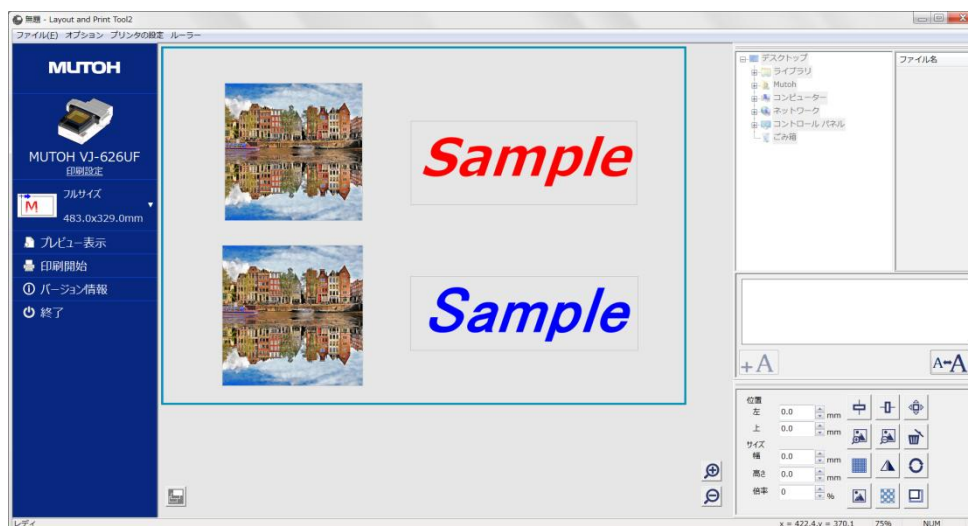
[フォント設定]クリックでフォントの更新を行います。



印刷領域表示中のテキストが選択されていなければ新たにテキストを追加します。

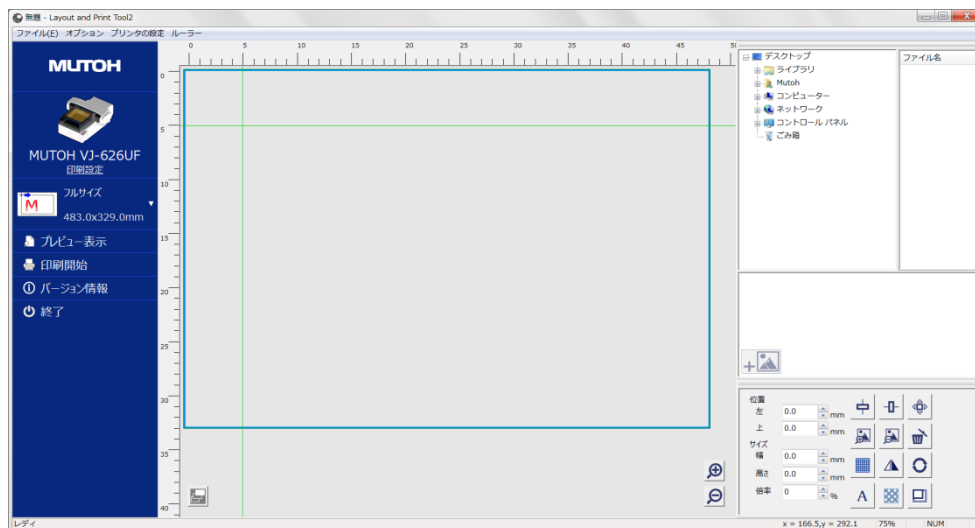


画像データと併用できます。



7.13 ルーラーと補助線

ルーラーメニューから、ルーラーと補助線を設定できます。
ルーラー表示を設定すると次回起動時にも有効になります。



補助線はファイルに保存され、次回ファイルを開いたときに表示されますので、予め補助線だけのファイルを作成することでテンプレートファイルとして利用する事もできます。

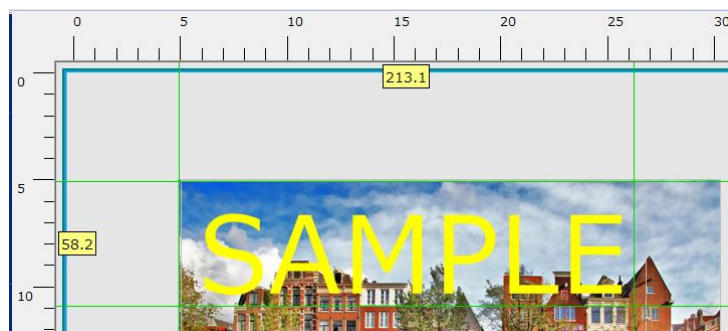
以下のような用途でご利用ください。

目印

- ・ワンポイントやテキストを印刷する位置が決まっているときの印として
- ・印刷開始位置が判りづらい自作プラテンで、印刷位置の印として
- ・メディアのタグ位置を示す印として

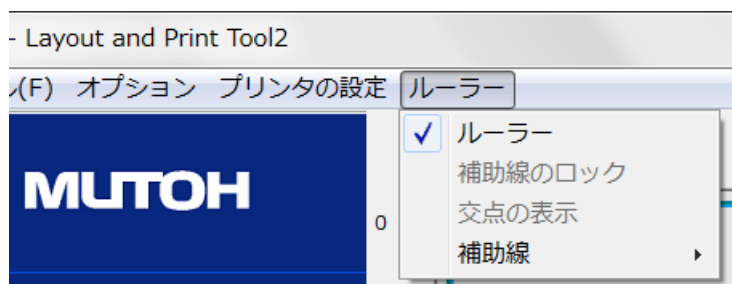
大きさを調べる

- ・テキストの実際の文字部分の大きさを測る。



A) ルーラー

ルーラーにチェックをいれる则表示されます。



注 記

- ルーラーのメモリの間隔は編集領域の拡大、縮小率により異なります。
30%未満の時、50mm 単位
30%以上の時、10mm 単位

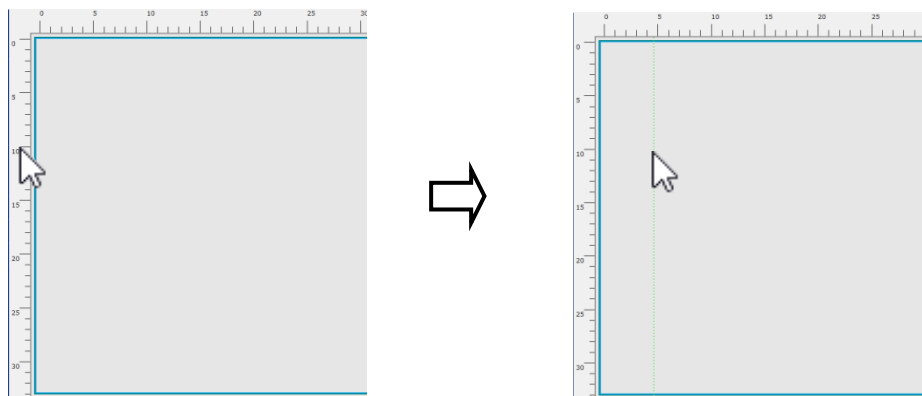
B) 補助線

画面上に描画できる補助線の本数は、縦横各々10本です。

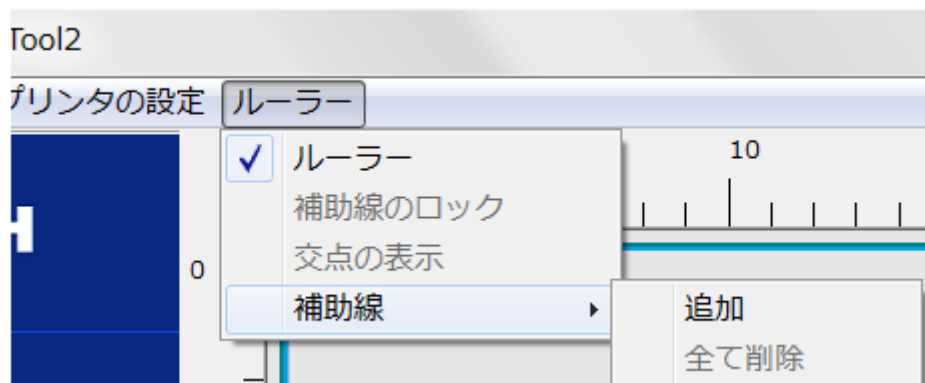
補助線はマウスのドラッグで移動する事ができます。

補助線を引くには2通りの方法があります。

- ・ルーラーを左クリックした状態で、そのまま編集エリアまでドラッグします。

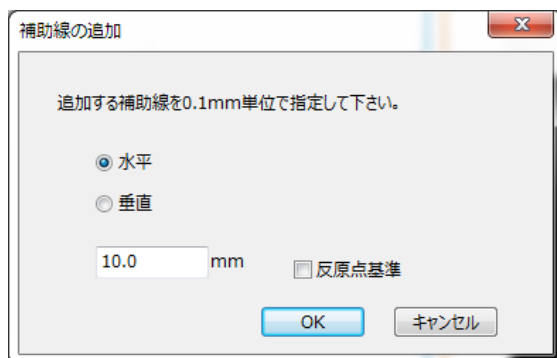


- ・補助線メニュー → 追加 で表示されるダイアログで指定する方法



ルーラーメニュー → ガイド → 追加を選択し、ダイアログを表示します。

水平方向か、垂直方向かを選び、目盛りの0からの距離を指定します。



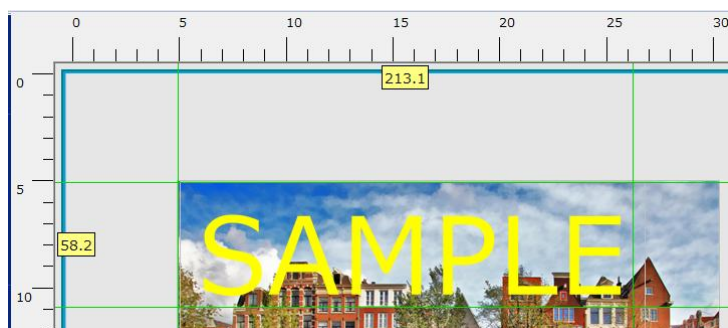
ダイアログを再び開くと、前回挿入した補助線の 10mm 下または右の数値が表示されます。

反原点を指定すると、0点の逆からの距離で指定できます。

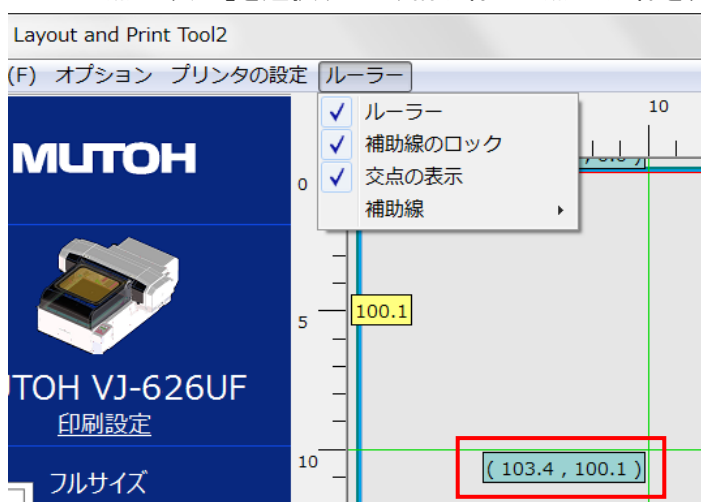
補助線は選択状態では赤色で表示されます。

C) 補助線に関する表示機能

補助線を引くと、補助線の間の距離が表示されるようになります。この表示はルーラーが表示されている時だけ有効です。

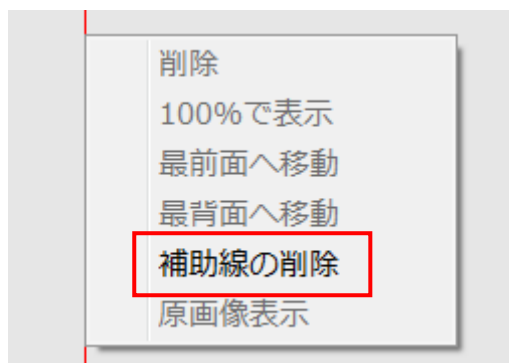


メニューで「交点の表示」を選択すると、補助線の交点の座標を表示できます。

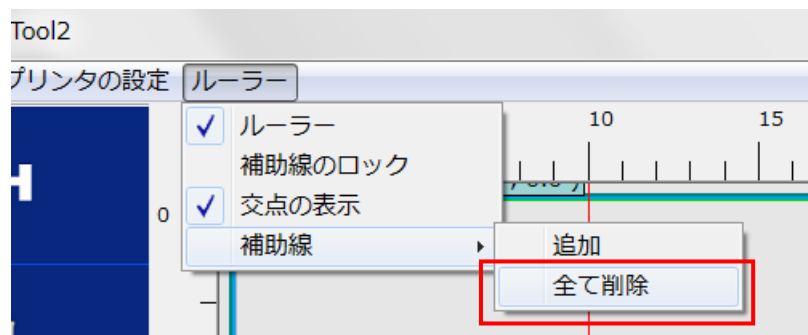


D) 補助線の削除

補助線を消すときは、補助線上でマウスの右クリックで、補助線の削除を選択します。

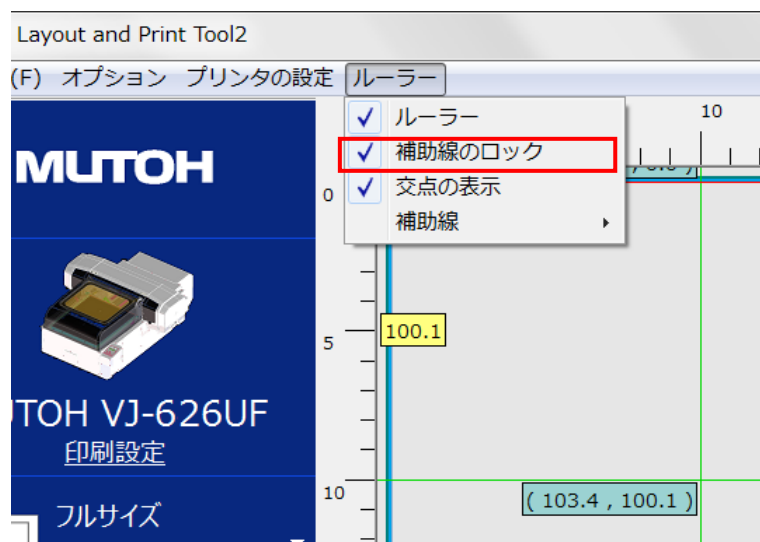


全ての補助線を削除する時は
 ルーラー > 補助線 > 全て削除
 を指定してください。



E) 補助線のロック

補助線の位置が決まったら、マウスで誤って操作しないようにロックしてください。



補助線を含むファイルを開いたときには、ロックされた状態になります。

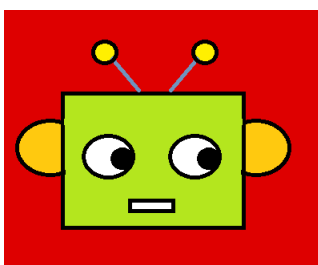
7.14 画像の中の一部の色を透明にする

簡易的な画像の加工機能です。

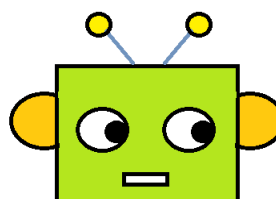
画像の中の色を1色指定して、透明色に置き換える事ができます。

作例

画像



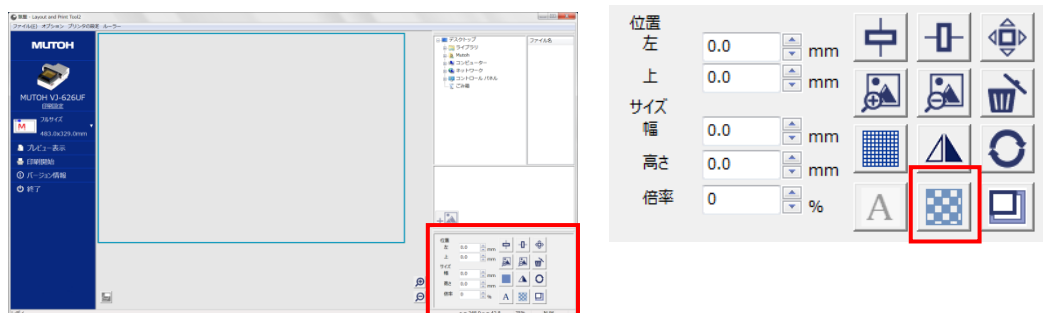
印刷結果(イメージ)
背景色を除きます



注 記

- 単色指定、色の範囲指定のいずれの場合でも、画像により意図しない部分が透明になる、或いは十分に消しきれない場合があります。
きれいに仕上げる為にはグラフィックアプリケーションによる加工を推奨いたします。

編集ツールのアイコンをクリックすると、透明色の設定ダイアログが起動します。

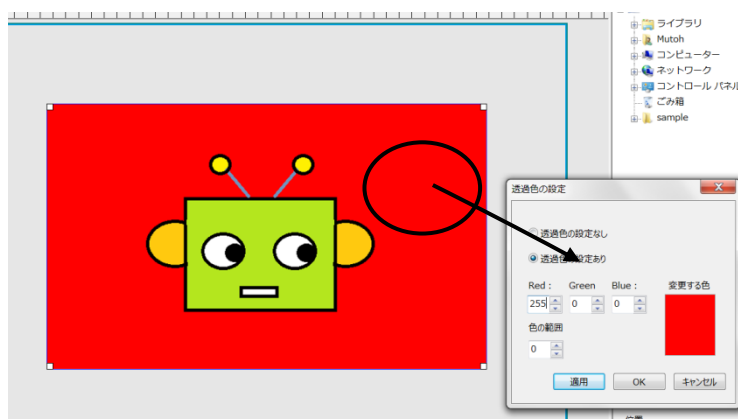


画像が選択されていない場合は、操作できません。

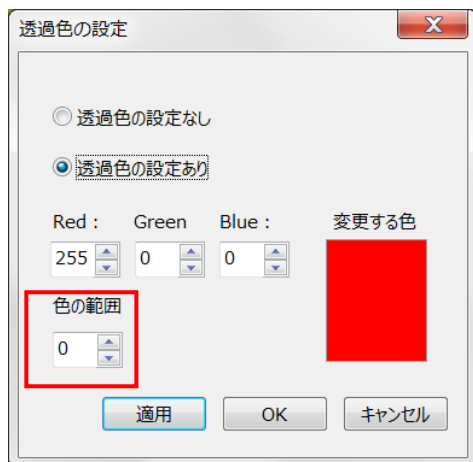


Layout ツール 2 で挿入したテキストに対する色の透明化はできません。テキスト挿入機能で色を変更するか文字を書き換えてください。

透明色の設定ありを選択すると、編集画面の画像をマウスでクリックした場所の色が変更する色、として表示されます。

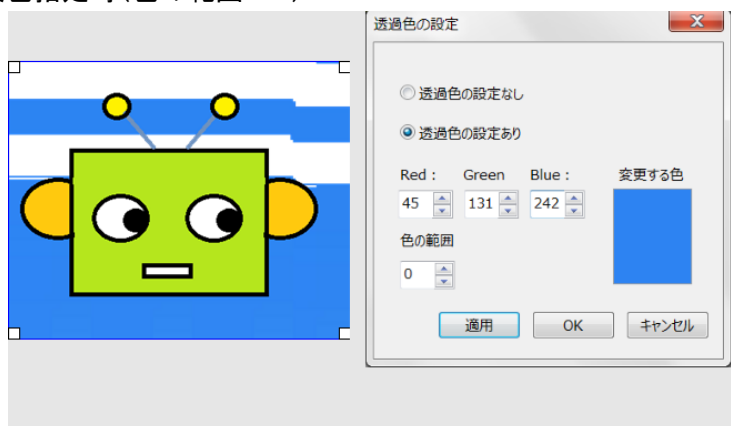


色の範囲を指定する事で、指定色に近い色も同時に透明色に設定できます。

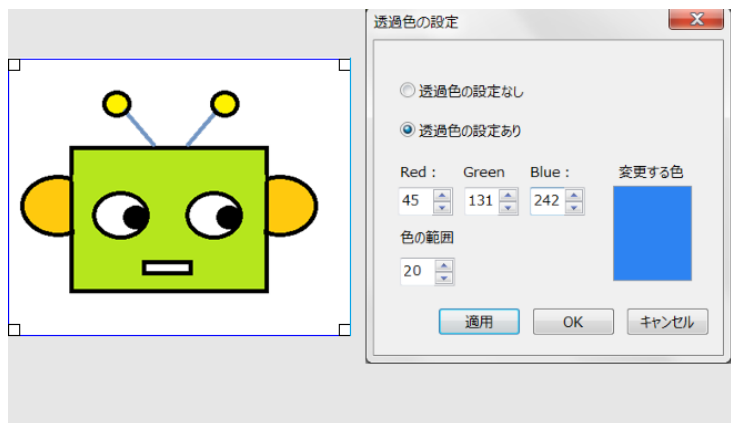


範囲指定の例

淡色指定時(色の範囲=0)



範囲指定時(色の範囲=20)

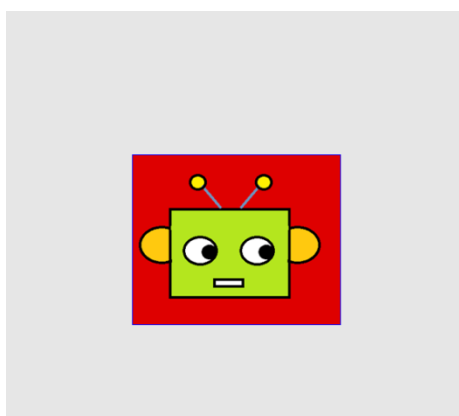


7.15 画像のトリミング

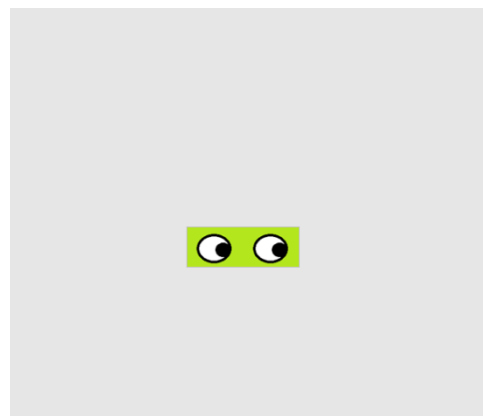
簡易的な画像の加工機能です。
画像の一部だけを利用する事ができます。

作例

トリミング前

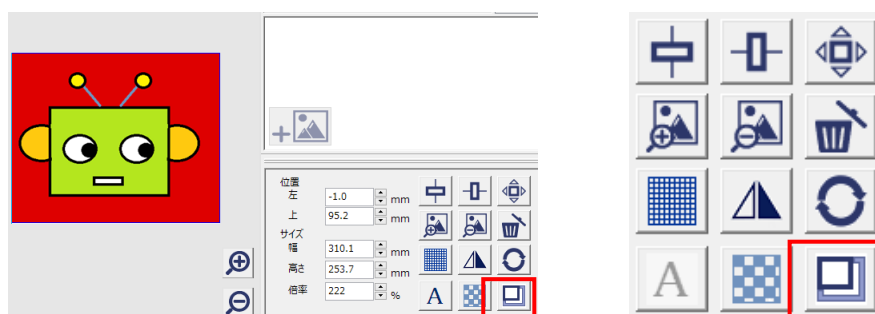


トリミング後

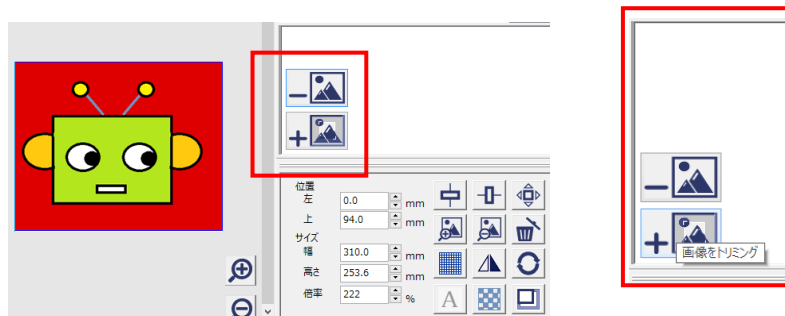


① トリミング操作方法

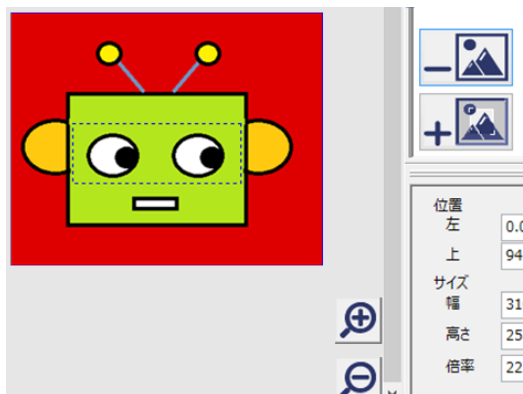
画像を選択し、トリミングボタンを押します。



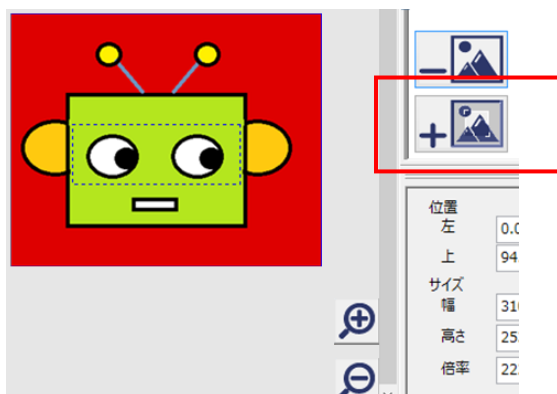
編集モードに切り替わり、画像をトリミングボタンと、画像を元に戻すボタンが表示されます。



切り出したい部分をマウスで指定します。
指定部分は点線で囲み表示されます。



画像をトリミングボタンを押すと、選択範囲を確定しトリミングモードを終了します。



編集完了

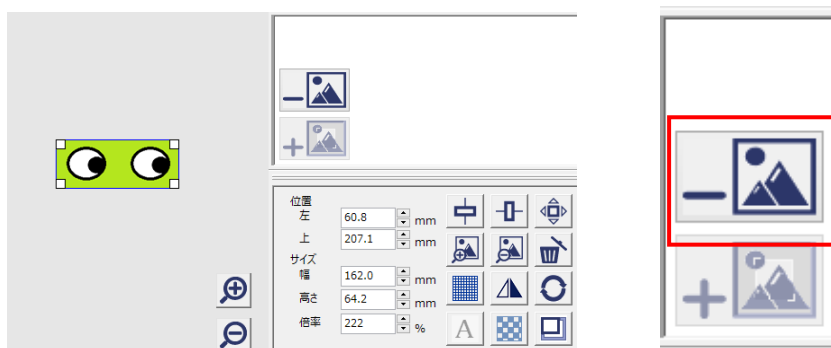


② トリミングの解除操作方法

トリミングした画像を選択します。

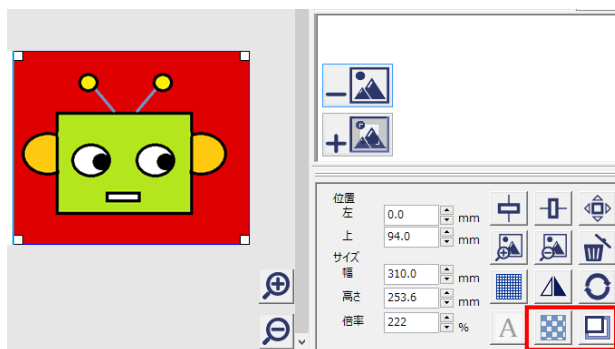


トリミング状態であれば、画像を元に戻すボタンだけが有効になっています。



ボタンを押すと、画像全体が表示されます。

トリミングの切替えボタンをおして、編集モードを解除します。



7.16 印刷設定

⑬ [印刷設定]をクリックすると印刷設定画面が表示されます。
各種の色、インクの調整等を行います。



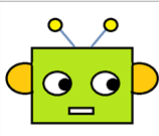


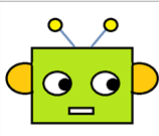


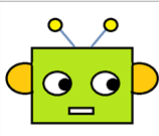


注 記

印刷設定の同期については 6.4.1 複数レイヤー印刷 B) 印刷設定 を参照してください。



※ ⑬のスライダーコントロールはつまみをドラックして設定してください。

a	印刷品質	印刷品質を「はやい」、「きれい」、「高精細」のうちいずれかで選択します。
b	レッド	各色のカラーバランスを調整します。 -20～+20 の範囲を 1 刻みで設定します。
	グリーン	
	ブルー	
	彩度	色の鮮やかさを調整します。 -20～+20 の範囲を 1 刻みで設定します。

	コントラスト	色の輝度差を調整します。 -20～+20 の範囲を 1 刻みで設定します。						
	明度	色の明るさを調整します。 -20～+20 の範囲を 1 刻みで設定します。						
	ガンマ補正	中間色の明るさを調整します。 0.1～2.2 の範囲を 0.1 刻みで設定します。						
c	グラデーションを有効にする	ホワイ印刷、バーニッシュ印刷で使用します。 有効時は 2 階調化したデータを印刷します。 無効時は階調のない白、またはバーニッシュの塗りつぶしを印刷します。						
d	インク量調整	<p>インク量を調整します。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>インク量 10%</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>インク量 100%</p>  </div> </div>						
e	α チェンネルがない画像の白データを無視する	<p>画像に α チェンネルを使用した透過部分がない場合、白データを透過データとして代用することができます。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>元画像</th><th>指定なし</th><th>指定あり</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	元画像	指定なし	指定あり			
元画像	指定なし	指定あり						
								
f	輪郭を削る／輪郭をつける	<p>✓で輪郭を調整します。0.01mm 刻みで設定します。 削る、つけるのどちらか一方のみに✓を付けることができます。</p> <p>注 記</p> <ul style="list-style-type: none"> 輪郭をつける機能は d 項の指定濃度で輪郭を広げます。模様を持つ画像の輪郭を広げる場合は、あらかじめ画像編集ソフトウェア上で作成してください。 元画像の微小な点も拡大されます。特に JPEG では目に見えないデータが原因で意図しない結果になる場合があります。あらかじめ確認の上ご利用ください。 						

g	光沢仕上げ	<p>バーニッシュ印刷で使⽤します。(VJ-426UF では使⽤できません。)</p> <p>印刷の仕⼾りに光沢感を持たせます。</p> <p>選択時におすすめの印刷設定に変更されますので、お好みにより調節してください。</p> <p>印刷品質 はやい (きれい・高精細は指定できません)</p> <p>インク濃度 インク量:35% 高密度:有効</p>
h	全面／画像	<p>ホワイト印刷、バーニッシュ印刷で使⽤します。</p> <p>自動レイヤー機能印刷時の印刷範囲を設定します。</p> <p>「全面」ではメディアサイズで選択したサイズで全面印刷します。</p> <p>「画像」ではメイン画面で設定中の画像のサイズで印刷します。</p>
i	初期設定に戻す	クリックで元の初期設定に戻します。
j	読み込みと削除	印刷設定の設定値を読み込と削除ダイアログを表示します。
K	保存	印刷設定の設定値を保存します。
m	色補正無効	後述の 色補正無効印刷 の項を参照してください。
o	ヘッドギャップ	<p>平坦でないメディアなど、プリントヘッドから印刷面までの距離が適切に取れない場合に使⽤します。</p> <p>ただし、画質は粗くなることがあります。</p>
p	高密度	<p>インク濃度を濃くします。</p> <p>印刷速度は約半分に落ちますが、約 2 倍のインク濃度で印刷することができます。</p>

色補正無効印刷

インクの原色を使用したい場合、色補正無効のチェックボックスを有効にします。

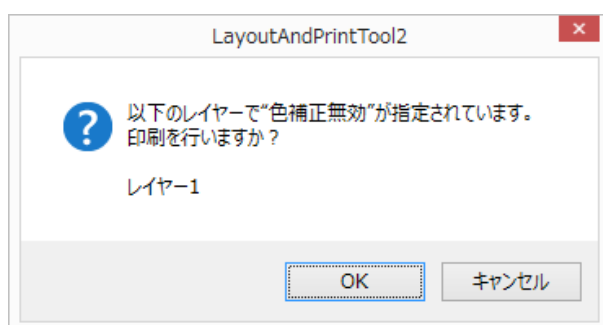


インクの原色とRGB値の対応は以下の通りです。(Xは0から255の数値)

インク色	RGB値
ブラック	(X, X, X) 全て同値
シアン	(X, 255, 255)
マゼンタ	(255, X, 255)
イエロー	(255, 255, X)

注 記

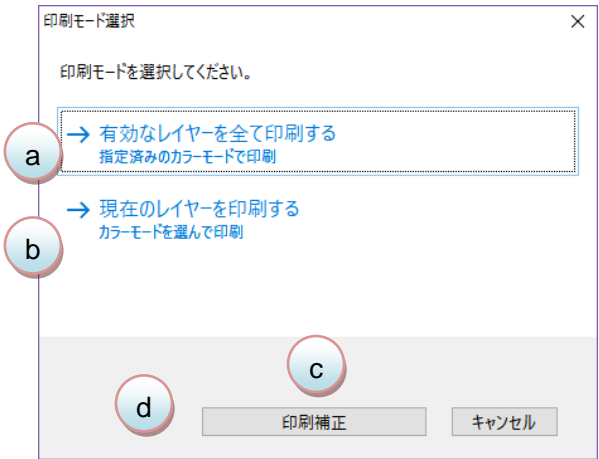
- この設定による印刷結果は、多くの場合元の画像と異なった結果になります。
- この設定が有効な時、カラー印刷時に以下の確認ダイアログが表示されます。




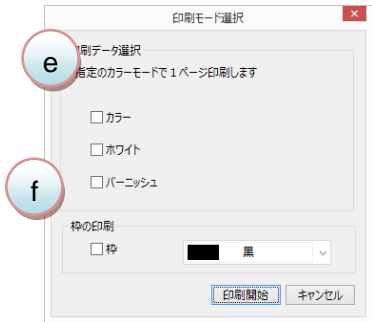
7.17 印刷

編集終了後、⑦の[印刷開始]をクリックすると、印刷モード画面を表示します。

7.18 UV フラットベッド印刷



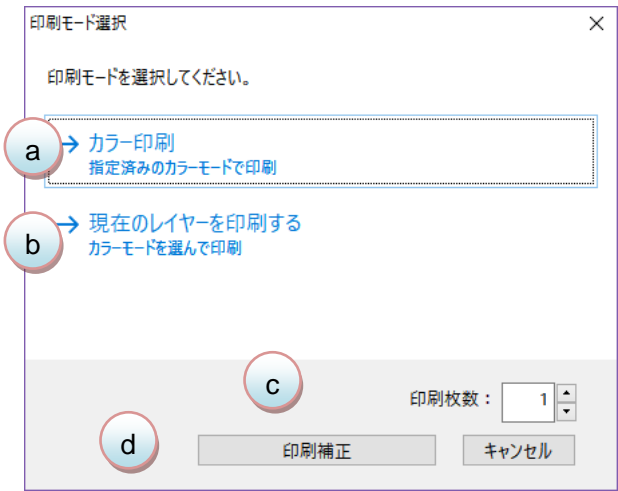
a	有効なレイヤーを全て印刷する	指定済みのカラーモードで有効レイヤーを一括して印刷します。
b	現在のレイヤーを印刷する	選択中レイヤーを「自動レイヤー印刷」機能で印刷します。 下図のダイアログが表示されます。
c	印刷補正	7.20 を参照してください。
d	補正有効マーク	印刷補正が有効な場合に緑のチェックマーク  が表示されます。




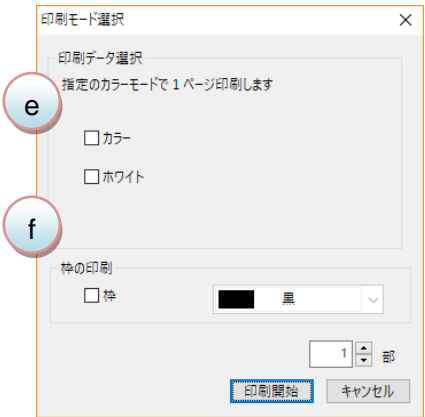
e	印刷するカラーモードの選択	自動レイヤー印刷するカラーモードを選択します。
f	枠印刷の選択	枠の印刷の有無を選択します。 「黒」「黄色」「白」が選択可能です。

詳細は 6.4.2 1レイヤー印刷の項目の B), C) を参照してください。

7.19 ロール印刷



a	カラー印刷	指定済みのカラーモードで印刷します。
b	現在のレイヤーを印刷する	選択中レイヤーを「自動レイヤー印刷」機能で印刷します。 下図のダイアログが表示されます。 予め印刷先をレイヤーエディタに指定してください。
c	印刷補正	7.20 を参照してください。
d	補正有効マーク	印刷補正が有効な場合に緑のチェックマーク  が表示されます。



e	印刷するカラーモードの選択	印刷するカラーモードを選択します。
f	枠印刷の選択	枠の印刷の有無を選択します。 「黒」「黄色」「白」が選択可能です。

詳細は 6.4.2 1レイヤー印刷の項目の B), C) を参照してください。

7.20 印刷補正

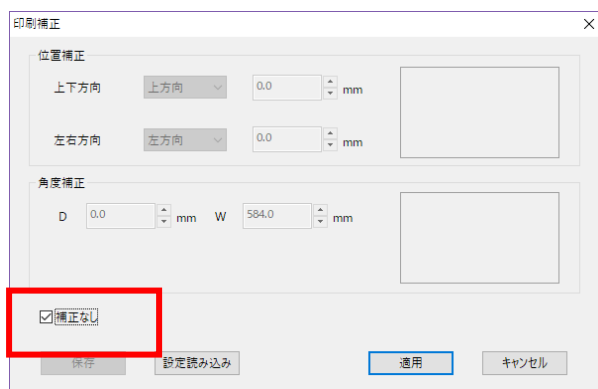
印刷データを上下左右と、傾き方向を補正する事ができます。

この設定は名前を付けて保存し、再利用する事ができます。

注 記

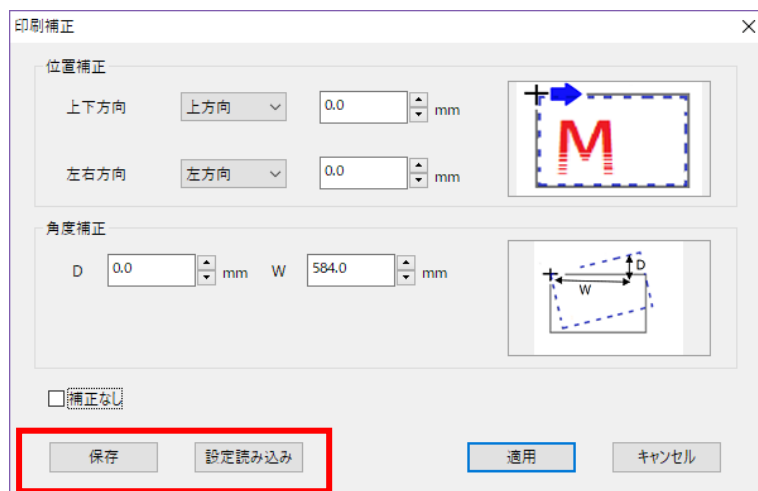
- この補正機能では印刷範囲内の印刷開始位置を移動、回転させます。
その結果印刷範囲からはみだした部分は印刷されません。
- この機能を使わない場合よりも、印刷開始までの処理時間は長くなります。

使用する場合は、補正なしのチェックボックスを外します。



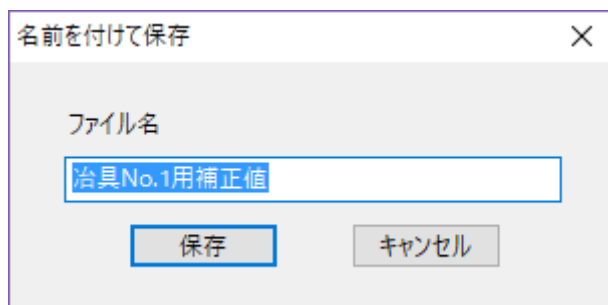
プリンタ上の印刷開始位置は青い矢印マークで表します。

ダイアログ下部のボタンを使用して、名前を付けて保存、読み込み、削除が可能です。



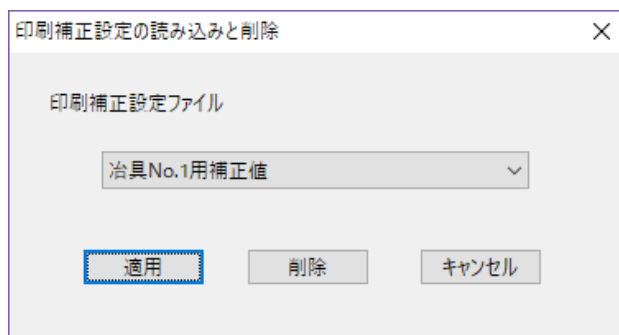
設定の読み込みと、保存、削除

保存ボタンを押すと、名前を付けて保存、のダイアログが表示されます。



保存済みのファイルを選択し、適用を押します。

不要な設定については、ファイルを選び、削除を押します。



上下、左右の補正

上下、左右を切替はドロップダウンメニューから選択します。
右側に補正方向の目安がアイコン画像で表示されます。

例)	<div>位置補正</div> <div>上下方向 上方向 0.5 mm</div> <div>左右方向 左方向 0.5 mm</div> <div></div>
	<div>位置補正</div> <div>上下方向 下方向 0.5 mm</div> <div>左右方向 左方向 0.5 mm</div> <div></div>

角度補正

回転方向の補正は、下、左右を切替はドロップダウンメニューから選択します。
右側に補正方向の目安がアイコン画像で表示されます。

印刷結果の確認しやすい場所で、横方向(W)と、ずれ量(D)を計測し、指定箇所に入力してください。

(青枠線参照)

角度補正

D 0.0 mm W 584.0 mm

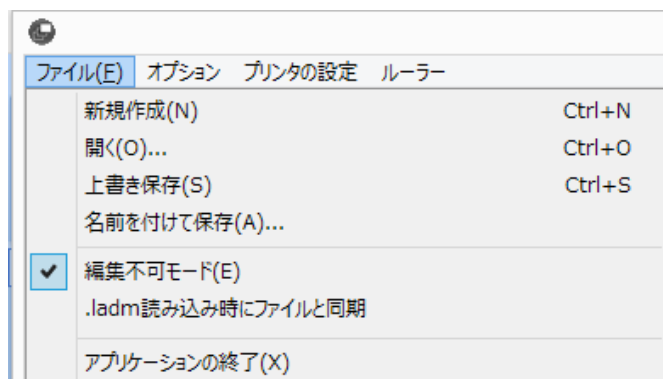
例)	<div>角度補正</div> <div>D 0.5 mm W 584.0 mm</div> <div></div>
	<div>角度補正</div> <div>D -0.5 mm W 584.0 mm</div> <div></div>

7.21 ファイルの保存と読み込み

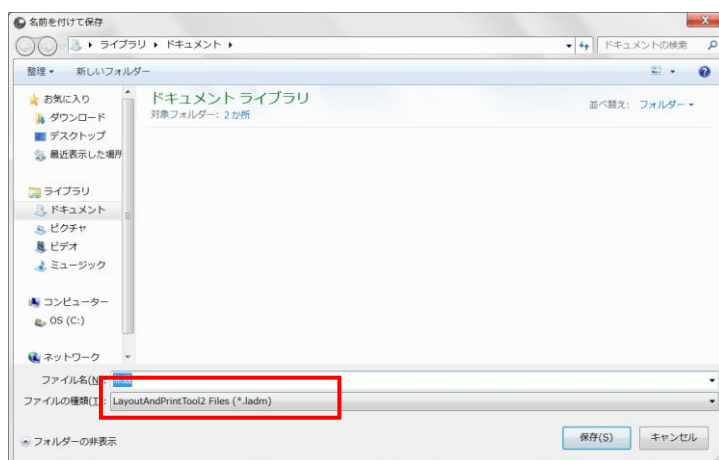
ファイルの保存と読み込みは、メニューバーの「ファイル」メニューから行います。

プラテンの種類、画像データ、画像の配置の保存と読み込みを行います。

保存済みのファイルを開いた際、画像データが含まれていると、「編集不可モード」になります。
編集不可モードを再度選択する事で解除ができます。

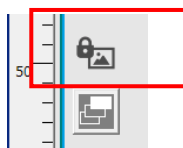


保存と読み込みにはファイル拡張子「.ladm」を使用します。



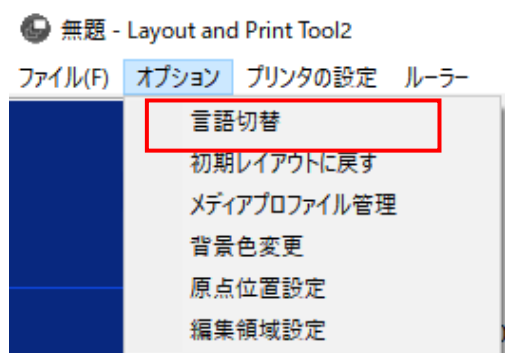
注 記

- 大量の画像や、大きな画像を使用している場合は、ご利用の PC のディスクの残り容量にご注意ください。
- 編集不可モード時、編集画面左下にアイコンが表示されます。

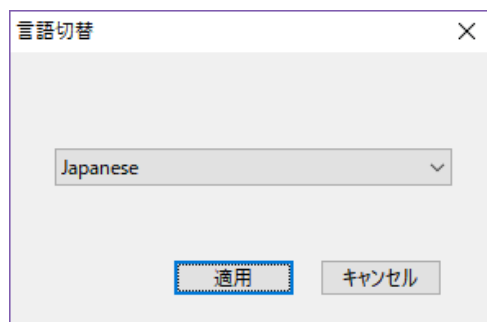


7.22 言語切替

言語切り替えは、メニューバーの「オプション」メニューより「言語切替」をクリックします。



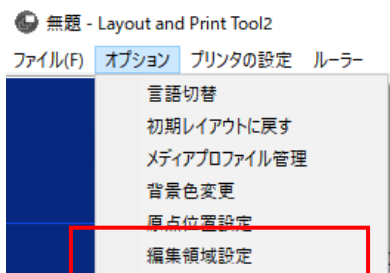
「言語切替」画面を表示します。



リストから「Japanese(日本語)、English(英語)」のいずれかを選択し[適用]をクリックしてください。

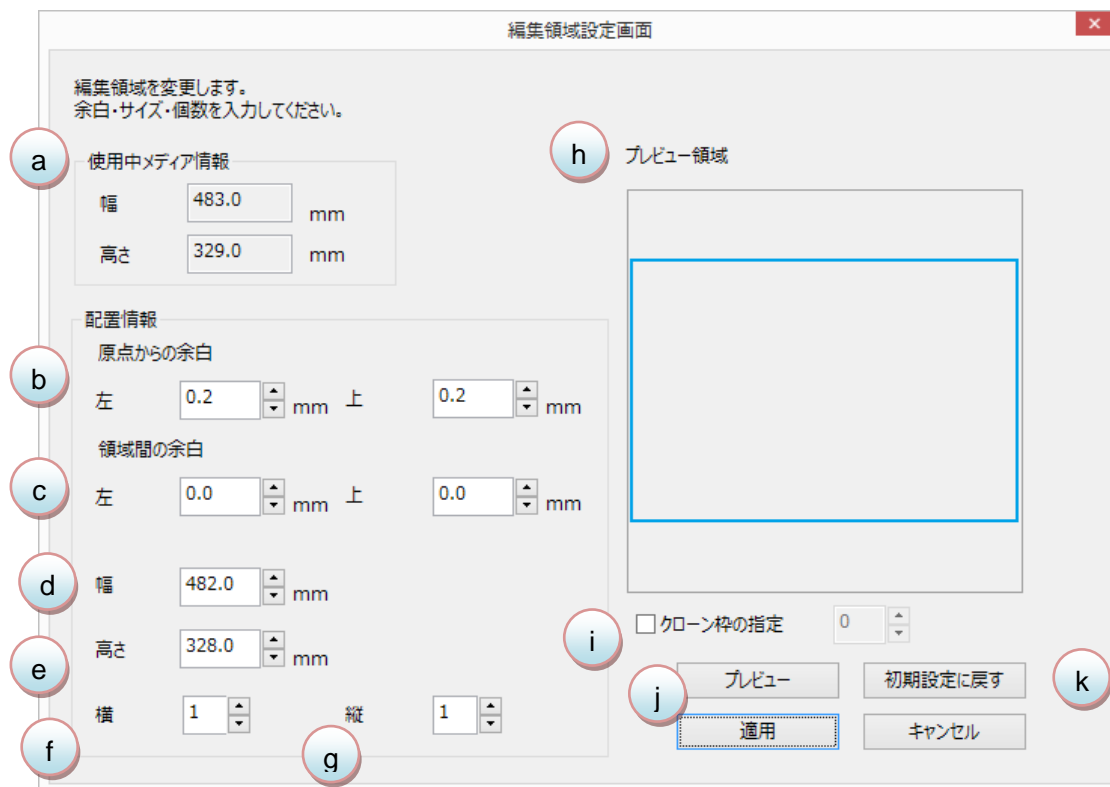
7.23 編集領域設定

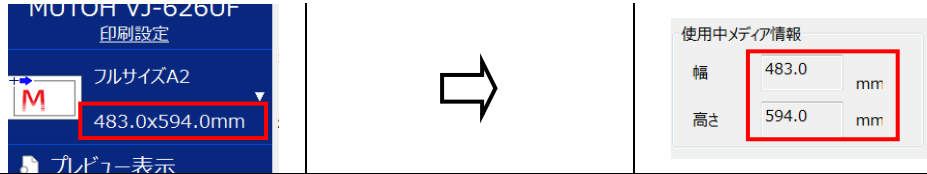
編集領域設定は、メニューバーの「オプション」メニューより「編集領域設定」をクリックします。同じメディア上に複数の画像を等間隔に印刷する場合、編集領域を複数の枠に分割して使用することができます。各枠には別々の画像が配置できます。



「編集領域設定」を表示します。

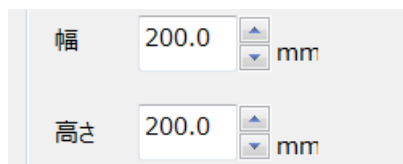
個々の枠は領域内であればサイズ、位置の設定が自由にできます。



a	使用中メディア情報	<p>メイン画面「メディアを選択する」で設定したメディアサイズを表示します。</p> 
b	原点からの余白	<p>原点を基準にした余白を「左」から「上」から設定します。 原点は印刷領域の左上隅です。(*1)</p>
c	領域間の余白	<p>印刷領域内に配置した枠間の余白を「左」から「上」から設定します。</p>
d	幅	<p>割り付ける枠サイズの幅を設定します。</p>
e	高さ	<p>割り付ける枠サイズの高さを設定します。</p>
f	横	<p>横に配置する枠の数を設定します。</p>
g	縦	<p>縦に配置する枠の数を設定します。</p>
h	プレビュー領域	<p>①〔プレビュー〕クリックで②から④の各調整値をプレビュー表示します。</p>
i	クローン枠の指定	<p>左上の画像を指定の枠数コピー印刷します。</p>
j	プレビュー	<p>クリックで⑤「プレビュー領域」表示を更新します。</p>
k	初期設定に戻す	<p>クリックで元の初期設定に戻します。</p>

設定手順

- ① 印刷領域内に割り付ける枠サイズ ㉔「幅」、㉔「高さ」を調整します。

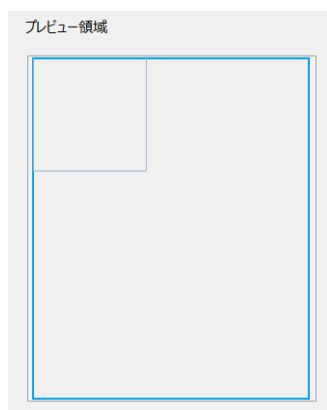


幅 200.0 mm

高さ 200.0 mm

※設定後は㉔[プレビュー]クリックで印刷領域内の枠の位置が確認できます。

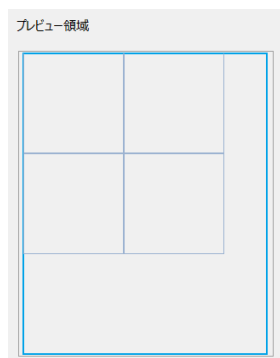
・プレビュー表示



- ② 印刷領域内に割り付ける枠数 ①「横」、②「縦」を調整します。

横 2 個 縦 2 個

・プレビュー表示



- ③ ③「原点からの余白」、④「領域間の余白」を調整します。

原点からの余白

左 25.0 mm 上 25.0 mm

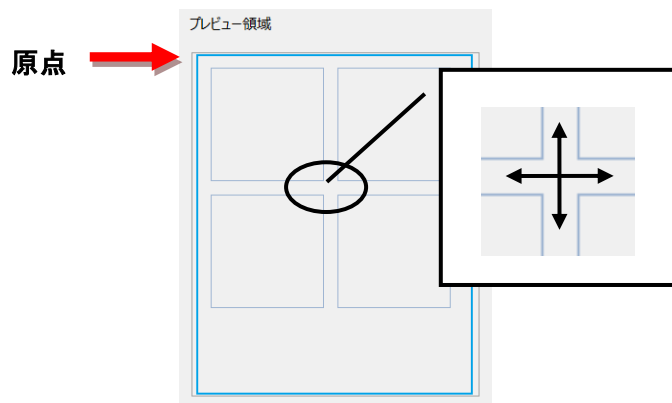
領域間の余白

左 25.0 mm 上 25.0 mm

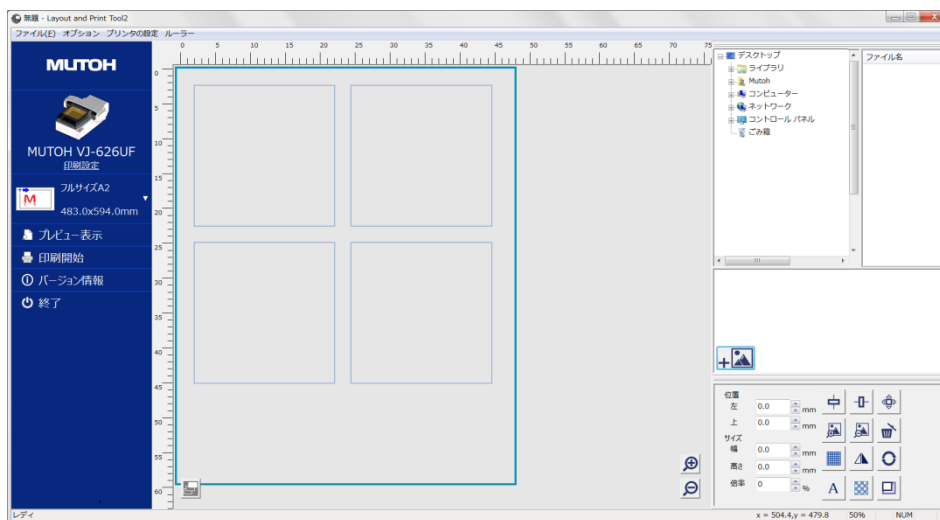
・プレビュー表示

原点は左上隅です。

「領域間の余白」は枠間の余白を調整します。

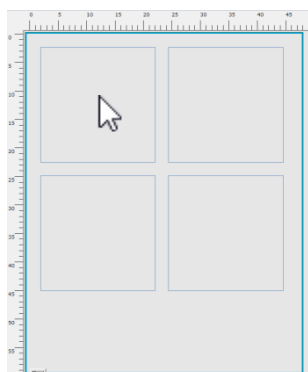


- ④ 調整終了後[適用]をクリックするとメイン画面に設定内容を表示します。
各枠に画像を配置できます。

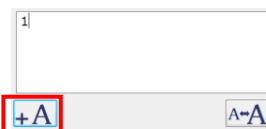


- ⑤ 左クリックで配置したい枠を選択します。
その後、画像またはテキストを挿入ボタンで配置してください。
画像は直接ドラッグ＆ドロップでも各枠に配置できます。

・枠を左クリックで選択

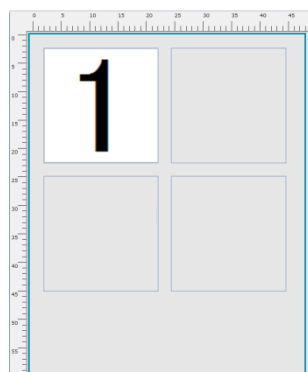


・画像またはテキストの挿入ボタンクリック

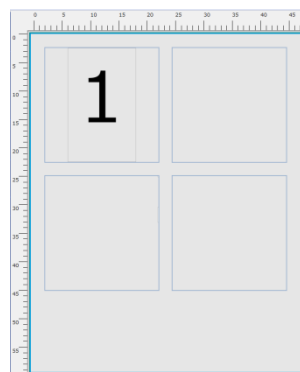


・設定完了

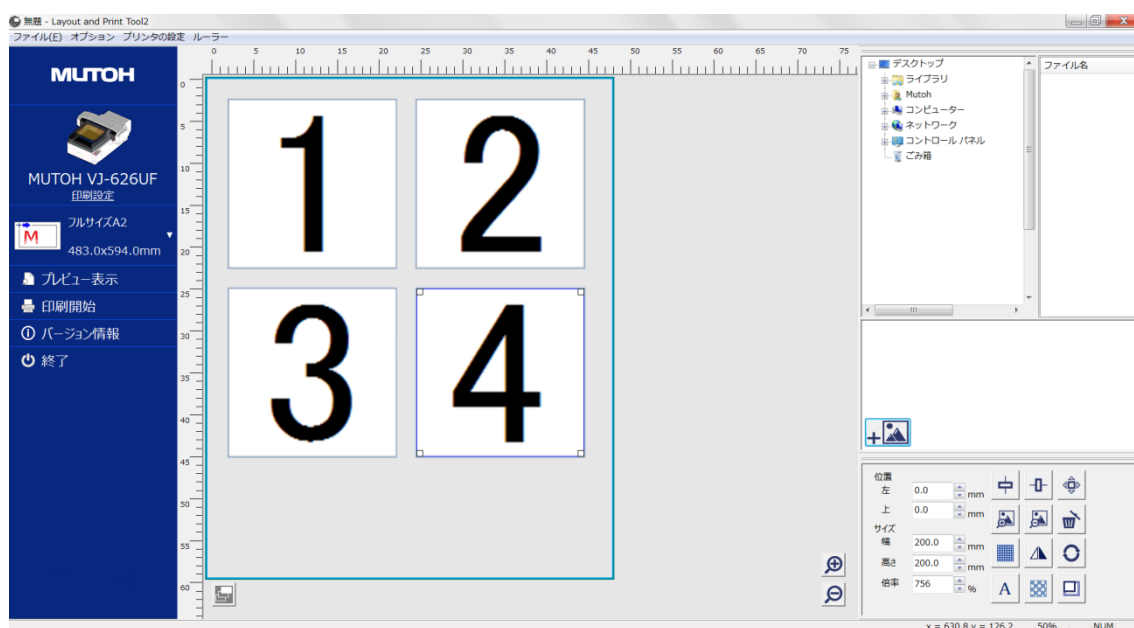
画像表示



テキスト表示



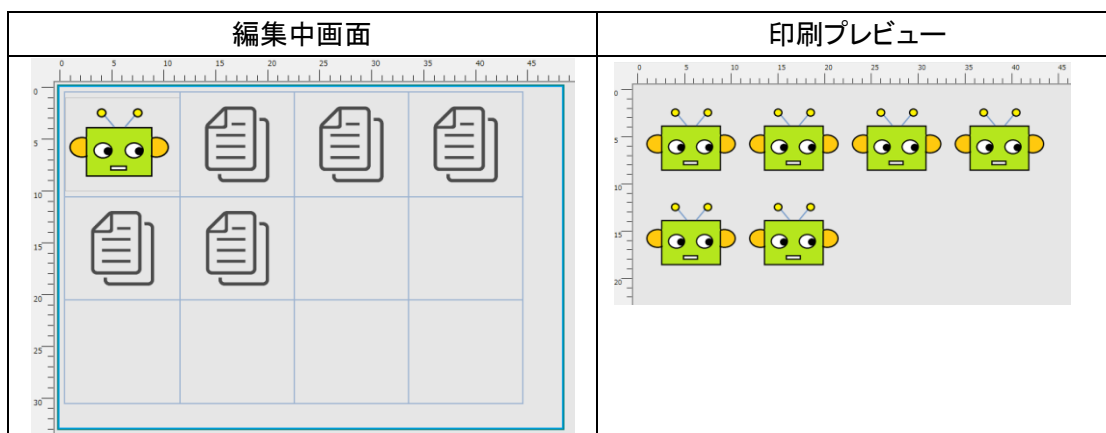
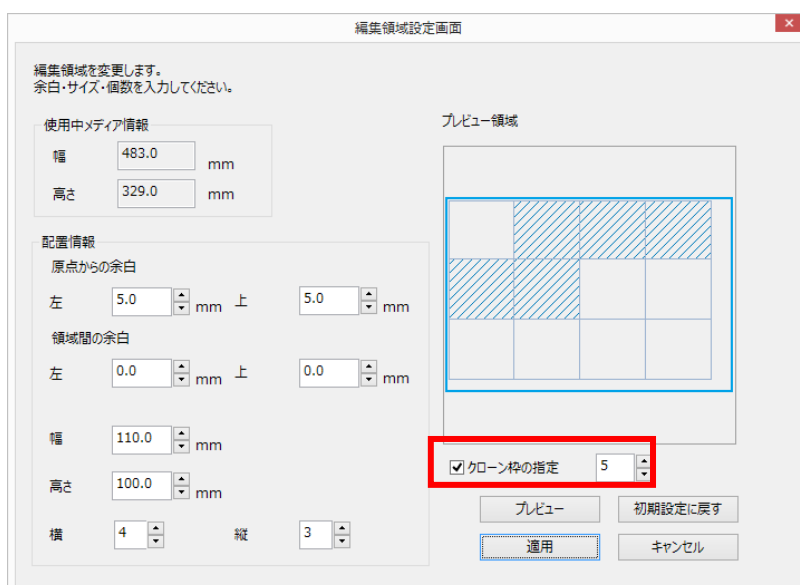
⑥ 用途に応じて各枠に画像を割り付けます。



クローン枠の指定

繰り返し同じ画像を印刷する場合に指定します。

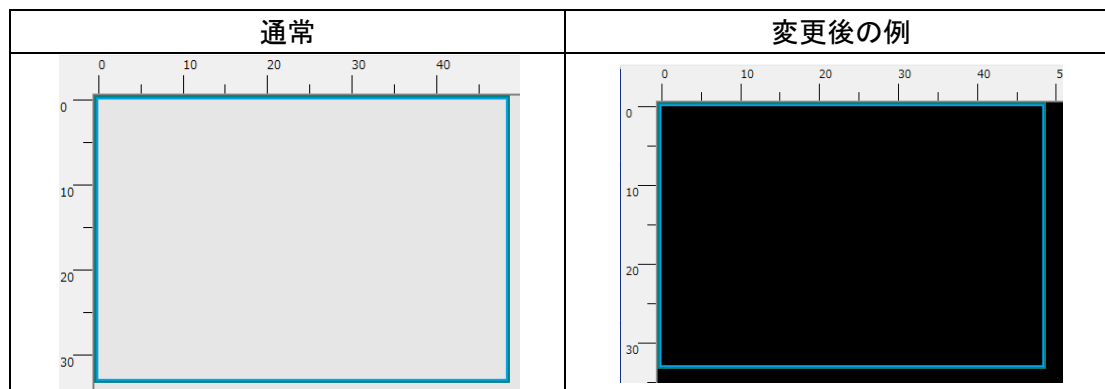
指定した枠数、印刷時に同じ画像が印刷されます
全てのレイヤーで設定を共有します。



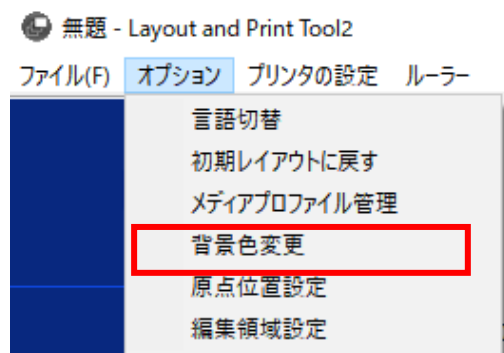
7.24 背景色一時変更機能

編集画面の背景色一時的に変更する事ができます。

次回起動時には初期状態に戻ります。



オプションメニューから、背景色変更、を選択してください。



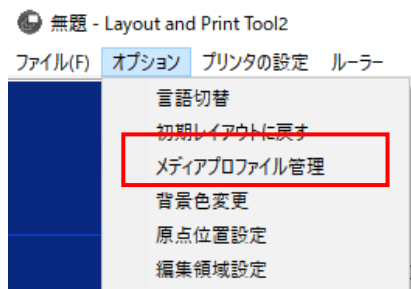
赤、緑、青のスライダーか、カラー選択ボタンを使用し、色を変更してください。



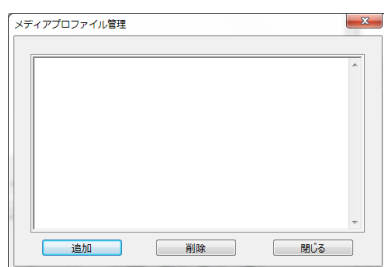
7.25 メディアプロファイルの追加

メディアプロファイルを追加する必要がある場合は以下の方法で追加してください。

オプションのメディアプロファイル管理を選択します。



ダイアログが表示されたら追加ボタンで、新しいプロファイルを選択します。
標準のプロファイルはこの画面には表示されません。



プロファイルを削除する場合もこのメニューから行います。

この機能はドライバのプロファイル追加機能と共通の処理になっています。どちらかで操作すれば両方から使用可能です。

追加されたプロファイルは、印刷設定画面の「メディアタイプ」から選択できるようになります。

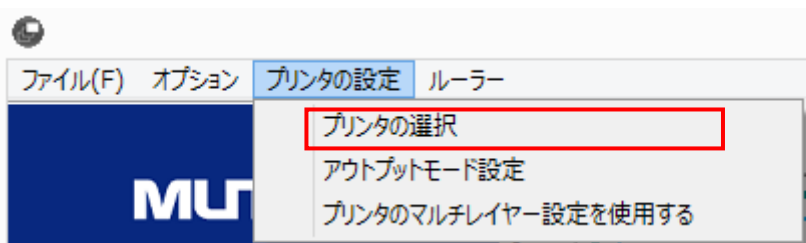


注 記

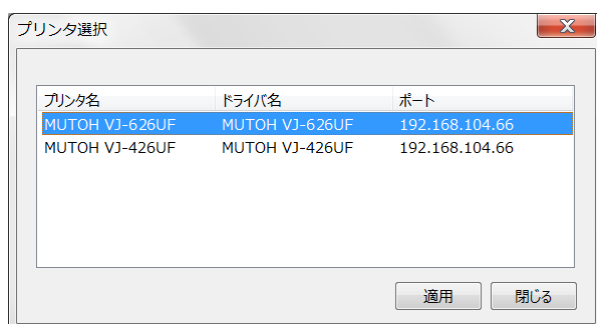
- 製品に必要なメディアプロファイルはドライバ及び Layout ツール 2 に組み込まれています。
- 本機能では弊社提供のメディアプロファイル以外は使用できません。

7.26 プリンタ選択

メイン画面「プリンタの設定」から、「プリンタの選択」を選択し、「プリンタ選択」画面を表示します。

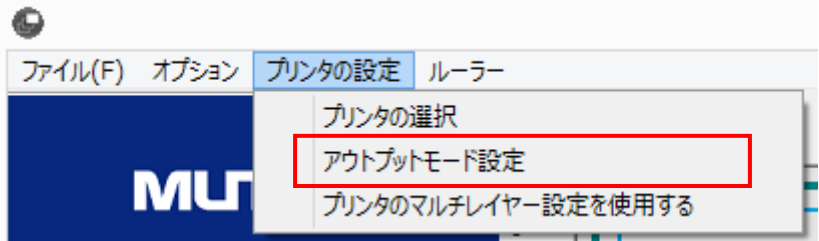


対応機種を選択し[適用]をクリックしてください。

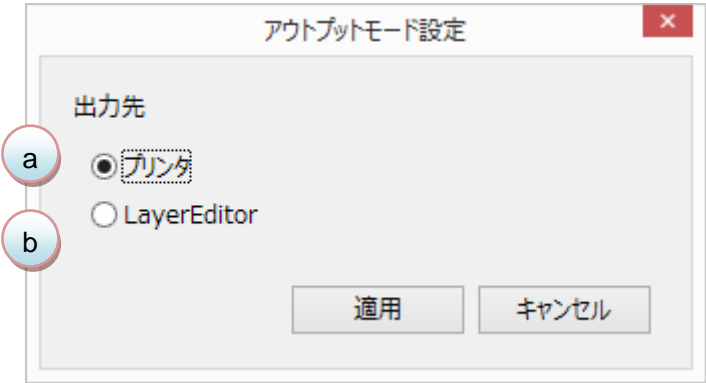


7.27 アウトプットモード設定

メニューバーの「プリンタの設定」メニューより
「アウトプットモード設定」を選択しアウトプットモード設定画面を表示します。



印刷データの出力先を選択します。



a	プリンタ	プリンタ選択で設定されたプリンタに出力します。
b	LayerEditor	「LayerEditor」ツールのスプールフォルダに出力します。*1

メイン画面では「アウトプットモード設定」で選択した出力先を表示します。

出力先「プリンタ」	出力先「LayerEditor」
プレビュー表示	プレビュー表示
印刷開始	LayerEditorに送信
バージョン情報	バージョン情報

注 記

*1 本バージョンでは VJ-628 の出力先はプリンタのみとなります。

7.28 キーボードショートカット

Layout ツール 2 で使用可能なキーボードショートカットは以下の通りです。

編集

操作	機能	操作可能な状態
Ctrl-a	編集領域内の全てのオブジェクトの選択	編集画面 テキスト入力画面
Ctrl-i	プレビュー画面に表示されている画像の挿入	編集画面
Ctrl-z	操作の取り消し	“7.32 Undo/Redo”を参照ください。
Ctrl-y	操作のやり直し (取り消した操作の再実行)	
Ctrl-c	データ(画像、文字)のコピー	“6-30 データのコピーと貼り付け”を参照してください。
Ctrl-v	データ(画像、文字)の貼り付け (編集画面上の位置を保持します)	

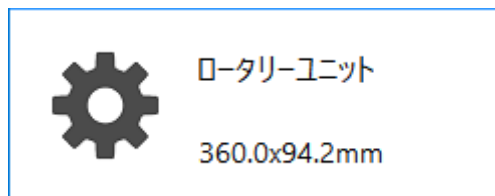
ファイル操作

操作	機能	操作可能な状態
Ctrl-n	ファイルの新規作成	任意
Ctrl-o	ファイルを開く	
Ctrl-s	ファイルを保存する	

7.29 ロータリーユニット印刷

ロータリーユニットの印刷については、ユニットの取扱説明書も御参照ください。

ロータリーユニット対応機種では、「メディアを選択する」メニューに以下が表示されます。



注 記

- ロータリーユニットへのレイヤー印刷は、基本的に LayerEditor を使用したシングルレイヤー印刷を使用してください。
マルチレイヤー印刷では回転方向の印刷開始位置にずれが生じます。
- ロータリーユニットで作画できるメディアサイズは、30mm～120mm です。
- メディアを一周する作画を行う場合、デザイン的に目立たなくするか、つなぎ目を意図的に重ねるように印刷を行ってください。

上記のメディアを選択するとロータリーユニット印刷時のメディア設定ダイアログが起動します。

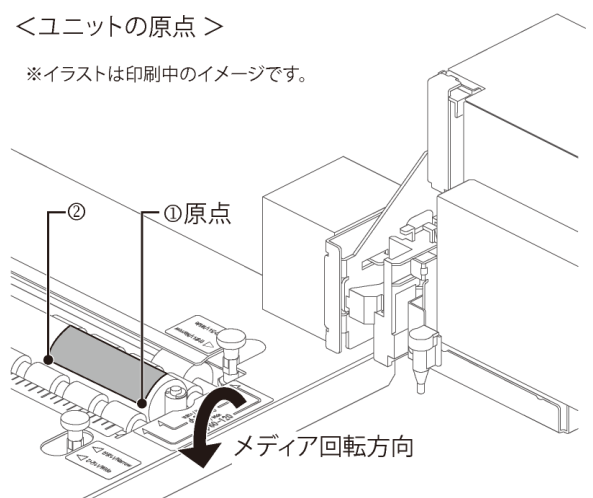


a	メディアの幅	左右 5mm を余白として 30mm～360mm の間で指定します。
b	長さ／直径	長さ指定するか、直径指定するか選択します。
		直径指定： 使用できるメディアの直径は 30mm～120mm までの範囲です。(対応する長さ: 94.2mm～377mm)
		長さ指定： 直径の最大値と関係なく 94.2mm～405mm まで指定できます。 一周印刷した上でつなぎ目を重ねる場合は、直径で長さを決めた後、長さ指定に切り替えて重ね代を▲ボタンをクリックし増してください。
c	ロータリーユニットのローラー設定	直径に対応する、ローラーピッチ「せまい」「ひろい」の目安を示しています。 ローラーピッチは、ロータリーユニット、プリンタのパネルの設定値を一致させて使用します。

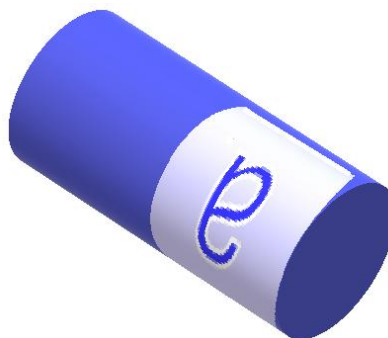
ロータリーユニットと Layout Tool2 の位置関係は下図のようになります。

＜ユニットの原点＞

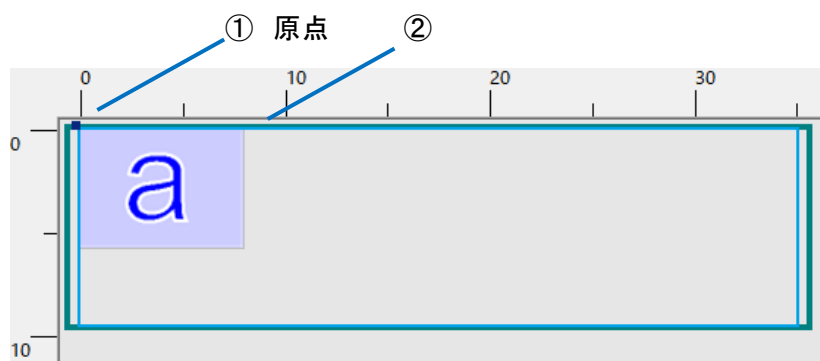
※イラストは印刷中のイメージです。



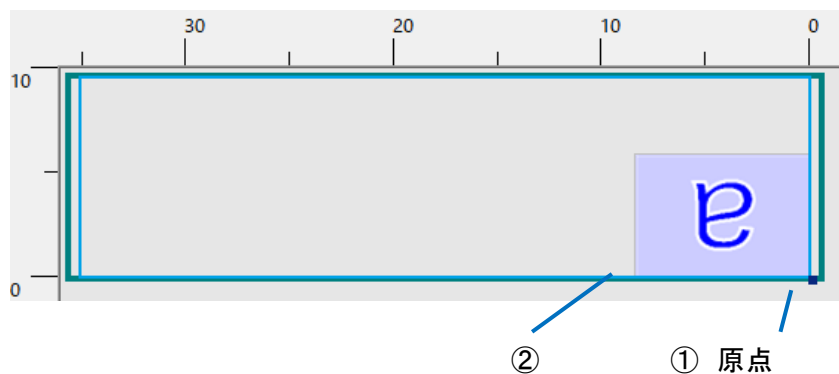
＜完成品イメージ＞



原点設定 左上の場合



原点設定 右下の場合



ロータリーユニットを選択すると印刷設定が以下のように固定されます。

印刷の解像度	はやい (720 x 1080 dpi)
ヘッドギャップ	広い

注 記

- ロータリーユニットの作画品質は、プリンタのパネル又は、VSMのリモートパネルから変更してください。印刷の解像度(dpi) は、はやい(720x1080)で固定されます。作画品質の選択肢は以下の通りです。
 - ・ サクガモード: バランス
印刷速度と画質のバランスをとったモードです。
 - ・ サクガモード: ハヤイ
印刷速度を優先するときに選択します。画質が低下することがあります。
 - ・ サクガモード: キレイ
画質を優先するときに選択します。印刷速度が遅くなります。
小径メディアに印刷するときに設定すると、画質の向上が期待できます。

その他の標準の設定は以下の通りです。メディアや画像に合わせて変更してください。

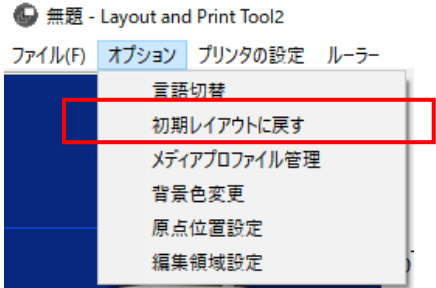
ホワイト印刷	高密度、インク量調整 60%
バーニッシュ印刷	高密度、インク量調整 60%
バーニッシュ印刷(光沢)	高密度、インク量調整 100%

注 記

- ロータリーユニットを使用時は、通常の印刷設定と一部内容が異なります。
ロータリーユニットと、通常印刷を切り替えた後は 初期設定に戻す 又は印刷設定の読み込みを行ってください。

7.30 初期レイアウトに戻す

起動時のウィンドウサイズや、画面の構成パーツの配置は、オプション、“初期レイアウトに戻す”で初期化する事ができます。



7.31 データのコピーと貼り付け

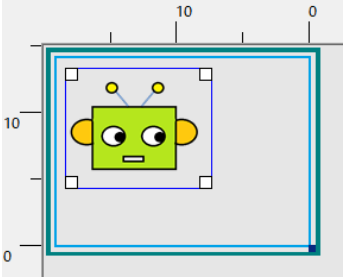
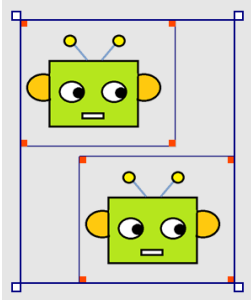
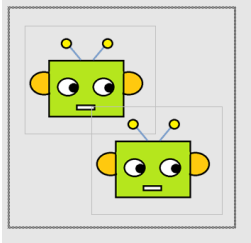
編集領域上の“画像”と“文字”データのコピーと貼り付けが可能です。
他のアプリケーションとのデータの受け渡しはできません。

貼り付けは元のデータの位置と同じ位置に貼り付きます。（“貼り付け[位置保持]”）
貼りついた直後に、データの周囲の輪郭が点滅し、貼り付けの完了を示します。

キー操作は、Ctrl-C（コピー）、Ctrl-V（貼り付け[位置保持]）です。
マウス操作の場合は右クリックで表示されるメニューから行います。

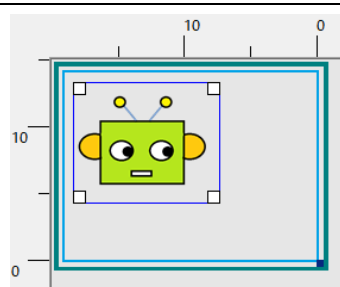
機能	操作
キーボードでコピー	Ctrl-C
キーボードで貼り付け	Ctrl-V
マウスでコピーと貼り付け	<p>右クリックメニュー</p>

画像、文字の選択

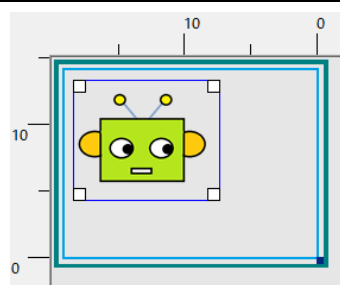
機能	操作
画像、文字の選択	<p>画像をマウスで左クリックします。</p> 
複数選択	<p>Ctrl キーを押しながらコピーしたいデータを左クリックで追加します。</p> <p>選択対象となったデータの外枠には赤い四角マークを表示します。</p> 
範囲選択	<p>Shift キーを押しながらマウスで領域をドラッグ 操作中、選択中は範囲をグレーの枠線で示します。 グレーの線と触れたデータは全て選択の対象となります。</p> 

コピー操作の詳細

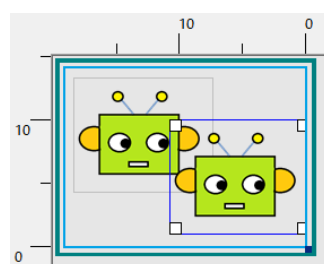
画像をクリックし選択します。



Ctrl-C、Ctrl-V で貼り付けた直後は以下のようになります。操作の完了は、貼り付け直後の輪郭の点滅で確認してください。



その後、マウスで画像を任意の場所に移動してください。



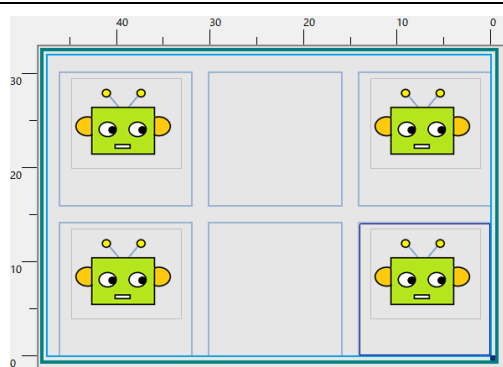
この操作は以下のようなケースで利用する事を想定したものです。

この動作は、レイヤー間で同じ位置にデータを配置する場合



編集領域に同じ画像を貼り付けたい場合

※編集領域全てで同一の印刷を行う場合は、編集領域設定の“クローン領域の指定”機能を利用してください。



7.32 Undo/Redo

キー操作により、

操作の取り消し(Undo) Ctrl-z

再実行(Redo) Ctrl-y

が可能です。

操作はレイヤー選択画面毎に記録されます。

記録可能な操作量を超えると、古い方から消去されます。

新規ファイル作成時には全ての記録は消去されます。

注 記

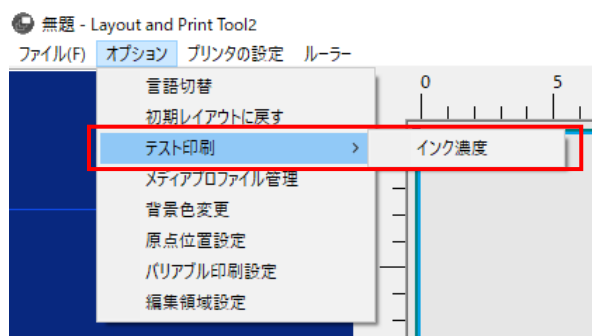
- 操作の過程で挿入、削除した画像データも記録されています。この為、操作内容によっては一時的にメモリ不足による、何らかのエラーが警告される場合があります。このような場合は、操作中のファイルを保存後 Layout Tool 2 を終了し、再度起動しなおしてください。

7.33 テスト印刷

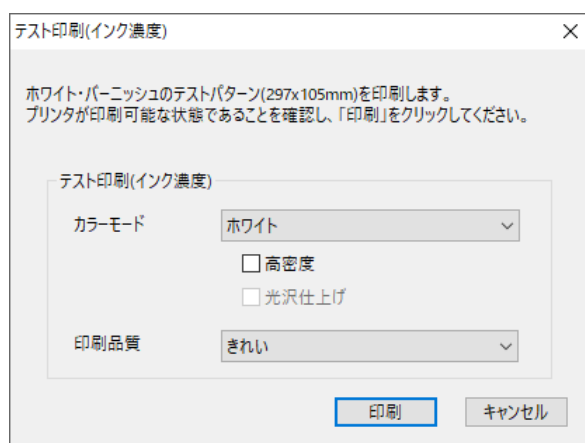
7.33.1 インク濃度

ホワイト／バーニッシュ印刷で最適なインク濃度を選択するために、テストパターンを印刷します。

メニューバーの「オプション」メニューより「テスト印刷」>「インク濃度」をクリックします。



「カラーモード」や「印刷品質」等、使用する条件に合った設定を行い、「印刷」をクリックします。



印刷結果からお好みの濃度を選択し、印刷設定画面へ入力します。



印刷設定

☒ レイヤー1と同期
パネル設定

レイヤー1の設定
☐ 共通設定を利用する 初期設定 .ladm読み込み時にファイルと同期
☒ パネル設定を使用する

カラー印刷
☐ はやい
☒ きれい
☐ 高精細
☐ 色補正無効

カラーバランス
 レッド: - [] + [0]
 グリーン: - [] + [0]
 ブルー: - [] + [0]

カラーバランス
 彩度: - [] + [0]
 コントラスト: - [] + [0]
 明度: - [] + [0]
 ガンマ補正: 0.1 [] 2.2 [1.0]

ホワイト印刷
☐ はやい
☒ きれい
☐ 高精細

インク量調整 [70] % ☒ 高密度
☐ 輪郭を削る ☐ 輪郭をつける 0.10 mm
☐ グラデーションを有効にする
☐ αチャンネルがない画像の白データを無視する

印刷方法 アンダーコート印刷 ☐ 全面 ☒ 画像

カラーバランス
 コントラスト: - [] + [0]
 明度: - [] + [0]
 ガンマ補正: 0.1 [] 2.2 [1.0]

パーニッシュ印刷
☐ はやい
☒ きれい
☐ 高精細

インク量調整 [100] % ☐ 高密度
☐ 輪郭を削る ☐ 輪郭をつける 0.10 mm
☐ グラデーションを有効にする
☐ αチャンネルがない画像の白データを無視する ☐ 光沢仕上げ

印刷方法 オーバーコート印刷 ☐ 全面 ☒ 画像

ヘッドギャップ ☒ 通常 ☐ 広い

注 記

- 本機能は、XPJ-461UF/XPJ-661UF で利用可能です。その他の機種は順次対応します。

7.34 バリアブル印刷

テキストや画像を差し替えながら印刷を行う機能です。

差し替えるテキストや画像は CSV 形式のファイルで指定します。

クローン領域を利用すると、1 ページの中で各領域のデータを差し替えることができます。

クローン領域については、「7.23 編集領域設定」を参照してください。

CSV ファイル

バリアブル印刷に使用するデータのファイルフォーマットは以下の通り。

ファイル種類	説明
CSV	カンマ区切りの CSV ファイル
TXT	タブ区切りの TXT ファイル

データの行／列について。

内容	説明
列	最大 30 列のデータを使用できます。 30 列を超えるデータは無視されます。
行	行数制限はありません。

CSV に記述される以下の文字について。

書式	説明
□ （半角スペース）	文字として使用できます。 ダブルクォーテーションで囲む必要はありません。
“ （ダブルクォーテーション）	文字として使用できます。
¥ （円記号／バックスラッシュ）	文字として使用できます。 エスケープシーケンスは使用できません。そのため改行を含む文字列は使用できません。
, （カンマ）	区切り文字として使用されます。 文字として使用する場合は、タブ区切りの TXT ファイルで作成してください。
,, （空のデータ）	空白として扱います。

画像ファイルの指定方法について。

画像ファイルは、CSV ファイルからの相対パス、または絶対パスで指定してください。

[d:¥LPT2¥test.csv]	...読み込んだ CSV ファイルのあるディレクトリを起点とします。
1.png	...1) ファイル名のみ(カレントディレクトリ)
image¥2.png	...2) 相対パス(サブディレクトリ)
image¥sub¥3.png	...3) 相対パス(N 階層下のサブディレクトリ)
..¥4.png	...4) 相対パス(N 階層上のディレクトリ)
..¥aaa¥5.png	...5) 相対パス(N 階層上のディレクトリのサブディレクトリ)
d:¥sample¥6.png	...6) 絶対パス

作成例)

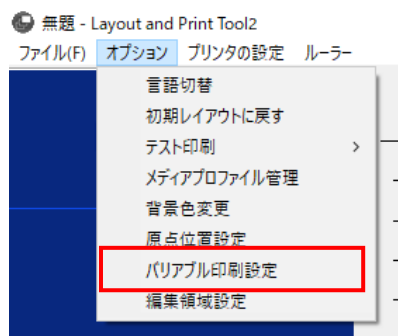
ID, 名前, 部署, 写真
1001, 武藤 一郎, 第一設計課, image¥1001.png
1002, 武藤 二郎, 第二設計課, image¥1002.png
1003, 武藤 三郎, 第三設計課, image¥1003.png
1004, 武藤 四郎, 第四設計課, image¥1004.png

注 記

- 改行のみの空の行は使用しません。(無視されます。)
- 列数はファイルの 1 行目に従います。
1 行目より列数の多い行は、1 行目より多い列番号のデータは使用できません。
- 同じ列のデータで画像とテキストが混在するデータは、挿入時の属性に従います。
テキストオブジェクトのデータに画像ファイルパスがある場合、ファイルパスの文字列が差し込まれます。
画像オブジェクトのデータに文字列がある場合、画像が見つからない(データがない)ものとして扱われます。

使用方法

- ① メニューバーの「オプション」メニューより「バリアブル印刷設定」をクリックします。



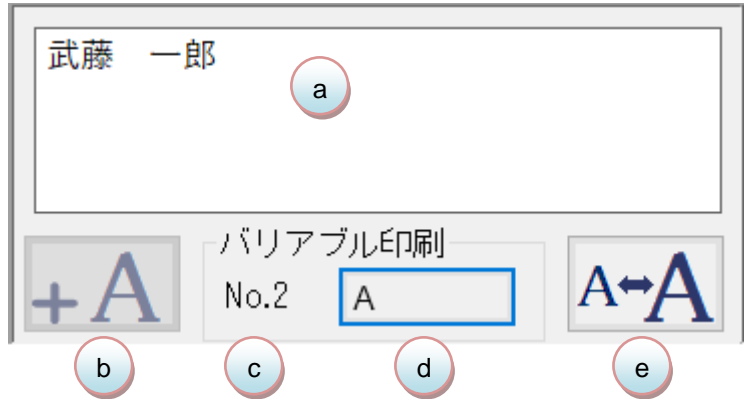
a	バリアブル印刷を行う	バリアブル印刷を行う場合にチェックします。 チェックをオフにすると、編集中のバリアブルデータをすべて消去します。
b	CSV 読み込み	CSV ファイルを開き、バリアブルデータを読み込みます。
c	同期	既に読み込まれている CSV ファイルを再読み込みします。
d	データ開始行	バリアブルデータの開始行を指定します。 タイトル行等を使用しない場合に指定します。
e	文字コード	CSV ファイルを記述した文字コードを指定します。
f	列番号	データ列の番号を表示します。
g	列移動	表示中のデータの列を移動します。
h	データの内容	データの内容を表示します。
i	属性	データの内容が「テキスト」なのか「画像」なのかを表示します。
j	使用状況	オブジェクト未挿入の場合は「未使用」、 オブジェクト挿入済みの場合は「挿入済み」と表示します。
k	オブジェクト挿入	オブジェクトを挿入します。
l	次回印刷行	バリアブルデータを印刷する際の最初の行を指定します。 印刷完了後、自動でカウントアップされます。
m	総データ数	読み込んだ CSV ファイルの行数を表示します。

- ② 「バリアブル印刷を行う」をチェックし、CSV ファイルを読み込みます。
- ③ 「文字コード」を選択します。
- ④ タイトル行がある場合は「データ開始行」を指定します。
- ⑤ 「次回印刷行」で最初に印刷する行を指定します。
- ⑥ 「+」ボタンでオブジェクトを挿入します。

テキストオブジェクトの編集

挿入したテキストはサイズや色等、通常のテキストとほぼ同様に操作できます。

テキストの操作については、「7.12 テキストの挿入」を参照してください。



a	テキストプレビュー	選択中のバリエーションデータの内容を表示します。 内容をここで変更することはできません。CSV ファイルの内容を変更し、同期(再読込)してください。
b	テキスト挿入	使用しません。
c	列番号	データ列の番号を表示します。
d	文字揃え	テキストの配置方法を指定します。
e	フォント設定	クリックにより「フォント」ダイアログを表示します。

バリエーションデータの場合、挿入されるテキストの長さが異なる場合があります。

文字揃え機能で枠に対する文字の揃え方を指定してください。

配置	説明
左揃え A	オブジェクト枠の左側に文字列を揃える。 武藤 一郎
中央揃え A	オブジェクト枠の中央に文字列を揃える。 武藤 一郎
右揃え A	オブジェクト枠の右側に文字列を揃える。 武藤 一郎

画像オブジェクトの編集

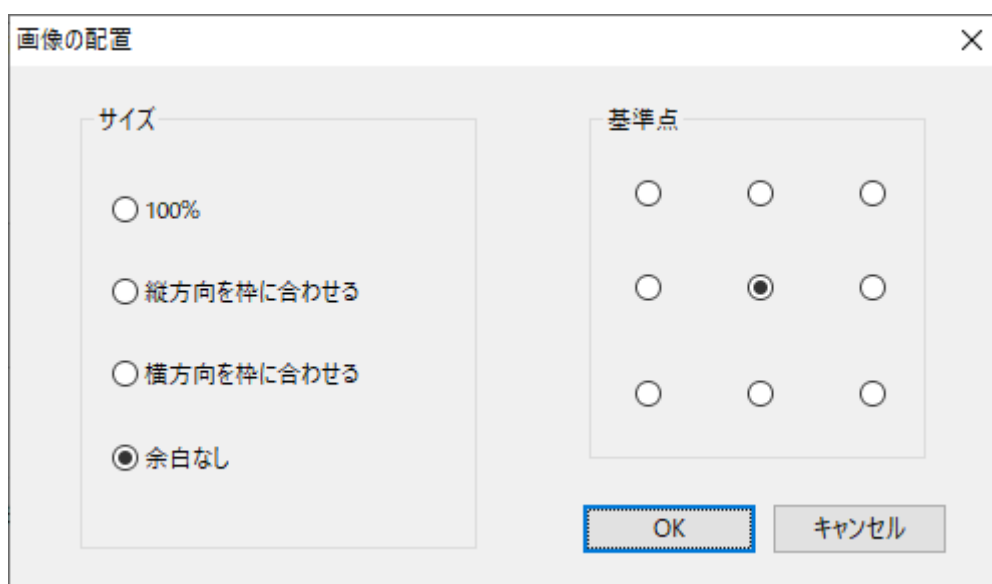
挿入した画像はオブジェクト枠でレイアウトが管理されます。
オブジェクト枠に対して、各編集ツールが使用できます。

注 記

- トリミング機能は使用できません。



a	画像プレビュー	バリエーションデータの画像を表示します。
b	画像挿入	使用しません。
c	列番号	データ列の番号を表示します。
d	画像配置設定	オブジェクト枠に対する画像の貼り付け方法を指定します。



サイズ	説明
100%	差し込み画像は原寸で印刷されます。
縦方向を枠に合わせる	差し込み画像はオブジェクト枠の高さに合わせて拡大(縮小)して印刷されます。
横方向を枠に合わせる	差し込み画像はオブジェクト枠の幅に合わせて拡大(縮小)して印刷されます。
余白なし	差し込み画像はオブジェクト枠の幅または高さに合わせたとき、倍率が大きい方で拡大(縮小)して印刷されます。

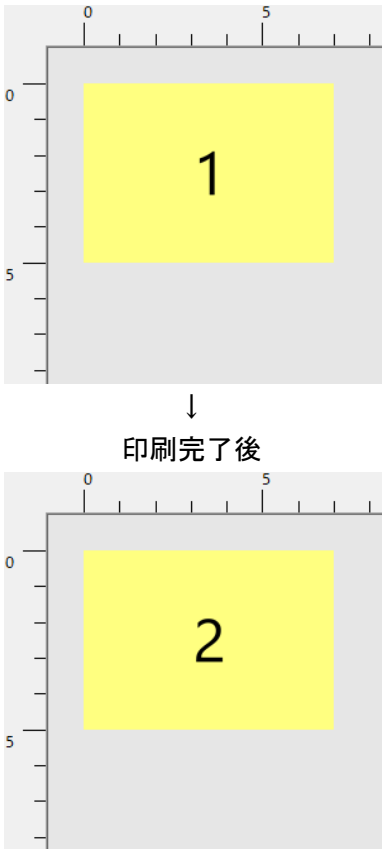
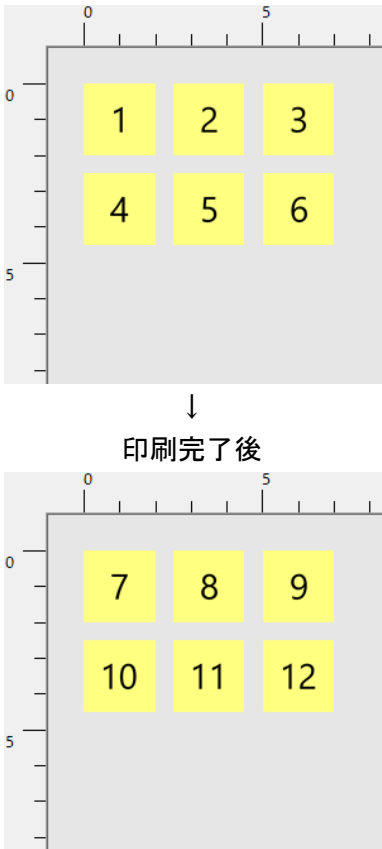
「基準点」は、オブジェクト枠に対して画像を貼りつける位置と、拡大縮小の基点を指定します。

印刷

バリエーションデータを挿入した場合も、通常の手順で印刷できます。

印刷については、「7.17 印刷」「7.18UV フラットベッド印刷」「7.19 ロール印刷」を参照してください。

印刷が完了すると「次回印刷行」を自動で更新します。

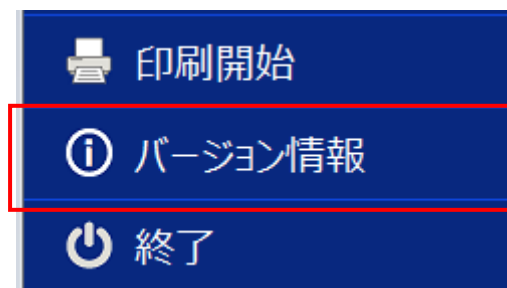
編集領域を指定しない場合	編集領域+クローン領域を指定する場合
	

注 記

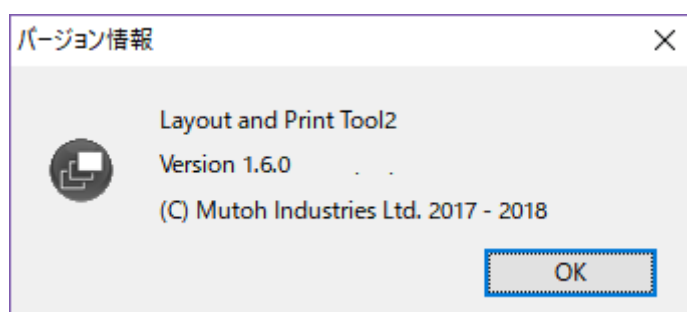
- ロール機では印刷枚数を指定すると、データを差し替えながら連続印刷することができます。

7.35 バージョン表示

「バージョン情報」をクリックします。



バージョン情報を表示します。



8 ライセンス

本アプリケーションでは以下のソフトウェアを使用しています。

ライセンスの原文については、アプリケーションフォルダに配置する「LICENSE」ファイルを参照してください。

Open Source Computer Vision Library (OpenCV)

Ver.2.4.10

Copyright (C) 2000-2008, Intel Corporation, all rights reserved.

Copyright (C) 2009-2010, Willow Garage Inc., all rights reserved.

MUTOH